

令和4年度

社会福祉法人東京かたばみ会  
事業報告

社会福祉法人東京かたばみ会

## 目次

I 法人本部	1
第1 経営理念及び経営方針	1
第2 総括	2
第3 法人が実施する事業	3
第4 重点事項への取組	5
第5 監事監査の状況	7
第6 実績報告	8
II 調布八雲苑	13
第1 総括	13
第2 経営実績	15
第3 課別事業報告	15
1 管理課	15
2 福祉課	21
3 高齢者在宅サービスセンター	25
III 神代の杜	32
第1 総括	32
第2 経営実績	32
第3 事業報告	33
IV 調布市ちょうふの里	41
第1 総括	41
第2 経営実績	41
第3 課別事業報告	42
1 管理課	42
2 福祉課	51
3 高齢者在宅サービスセンター（通所部門）	55
4 高齢者在宅サービスセンター（短期入所部門）	59
5 地域支援課	62
V 上布田保育園	68
第1 総括	68
第2 経営実績	68
第3 事業報告	69
VI 調布なないろ保育園	82
第1 総括	82
第2 経営実績	83
第3 事業報告	83
VII 調布市立学童クラブ・ユーフォー事業部門	93
第1 総括	94
第2 経営実績	94
第3 事業所別事業報告	94

## I 法人本部

### 第1 経営理念及び経営方針

本法人の経営理念及び経営方針は、次のとおりである。令和4年度についても、前年度に引き続き経営理念及び経営方針に基づき事業を展開した。

#### 社会福祉法人東京かたばみ会経営理念

私たち社会福祉法人東京かたばみ会は、介護・支援・保育・育成を必要とする地域住民に対して、一人ひとりが安心して、価値あるものと受けとめられるサービスを提供することにより、法人の各施設が「選ばれる施設」になることを目指します。

そのために、人間愛をベースとし、職員の専門的知識・技術の更なる向上を図り、質の高いサービスを提供します。

また、老人福祉施設と児童福祉施設という世代間交流のできる環境を活用します。

更に、これまでの地域の信頼と共感を大切にします。

#### 社会福祉法人東京かたばみ会経営方針

##### 1 地域への貢献

地域社会の一員としての自覚を持ち、保健・医療など関連機関との連携を強化し、地域福祉の貢献に努める。

##### 2 自立支援・健全育成

利用者一人ひとりのニーズと意志を尊重し、自立の支援と生活の質の向上に努める。また、乳幼児及び児童が心身ともに健やかに育成されるよう努める。

##### 3 人材育成・専門性の向上

新たな視点で「観て、考えて、行動」する幅広い視野を持った自立的な職員の育成を図るため、専門性の向上に努める。

##### 4 経営の透明化

情報公開を積極的に行い、法人に対する信頼と理解を得られるよう努める。

##### 5 経営の安定

質の高い総合的なサービスを継続して提供していくために、経営の安定化を図る。

## 第2 総括

新型コロナウイルスが猛威を振り始めてから3年以上が経過する中、令和4年度においても感染者数が増減し、各施設では感染対策を徹底しながら制限のある運営を強いられたが、年度末が近づくにつれ、感染者数が減少し、徐々に制限のない日常を取り戻しつつある。その中で、本法人では、中期経営計画2年目の取り組みについて、定期的に進行管理を行いながら着実に推進するとともに、新たな研修体系による人材育成や児童部門における組織改正を行うなど、本法人の新たな事業展開を見据えた組織基盤を整える一年であったと総括できる。

事業所名		事業種別	事業開始年月日	定員(人)	職員数(人)
高齢者部門	調布八雲苑	特別養護老人ホーム	S62.9.1	64	84
		通所介護	S62.10.1	37	
		居宅介護支援(公益事業)	H12.4.1	—	
	調布市ちょうふの里	特別養護老人ホーム	H8.6.1	100	188
		短期入所生活介護	H8.6.1	20	
		通所介護	H8.6.1	52	
		調布市一般施策等(入浴・配食)	H8.6.1	—	
		居宅介護支援(公益事業)	H12.4.1	—	
		地域包括支援センター(公益事業)	H12.4.1	—	
		訪問介護(老人居宅介護等事業)	H12.4.1	—	
神代の杜	特別養護老人ホーム(地域密着型)	H24.9.1	29	35	
	短期入所生活介護	H24.10.1	3		
児童部門	上布田保育園	保育所	H7.4.1	90	43
	調布なないろ保育園	保育所	H20.10.1	100	44
		一時預かり事業	H20.10.1	5	
	調布市立なないろ第1学童クラブ	放課後児童健全育成事業	H20.10.1	50	14
	調布市立なないろ第2学童クラブ		H27.4.1	40	
	調布市立わかば学童クラブ		H21.10.1	70	14
	調布市立多摩川小学校学童クラブ		H27.4.1	60	7
	調布市立かみいしわら第1学童クラブ		H31.1.15	50	13
	調布市立かみいしわら第2学童クラブ		H31.1.15	50	
	調布市立あおば学童クラブ		H31.4.1	55	7
	調布市立多摩川児童館学童クラブ		R5.4.1	60	5
	調布市立第三小学校学童クラブ		R5.4.1	50	6
	調布市立若葉小学校放課後子供教室事業		調布市放課後子供教室事業(公益事業)	H27.4.1	—
	調布市立富士見台小学校放課後子供教室事業	H27.4.1		—	
調布市立多摩川小学校放課後子供教室事業	H27.4.1	—			
調布市立第三小学校放課後子供教室事業	H27.4.1	—			
調布市立飛田給小学校放課後子供教室事業	H27.4.1	—			
調布市立石原小学校放課後子供教室事業	H27.4.1	—			
合計				—	508
事業内容及び職員数は、令和5年4月1日現在。職員数には有期契約職員、派遣職員等を含む。法人本部の職員数は、調布八雲苑に含めている。					
なお、職員数の内訳は、正規職員226人、非正規職員282人となっている。					

### 第3 法人が実施する事業

本法人は、令和5年3月31日現在、次に記載する社会福祉事業及び公益事業を行っている。

#### 1 調布八雲苑

##### (1) 特別養護老人ホーム調布八雲苑

社会福祉法（昭和26年法律第45号、以下「社会福祉法」という。）第2条第2項第3号（第1種社会福祉事業）に規定する特別養護老人ホーム

##### (2) 高齢者在宅サービスセンター調布八雲苑

社会福祉法第2条第3項第4号（第2種社会福祉事業）に規定する老人デイサービス事業（介護保険法第8条第7項に規定する通所介護事業）及びこれと一体的に行われている介護保険法第115条の45第1項第1号ロに規定する介護予防事業（第1号通所事業）

##### (3) 高齢者在宅サービスセンター調布八雲苑（認知症対応型通所介護）

社会福祉法第2条第3項第4号（第2種社会福祉事業）に規定する老人デイサービス事業（介護保険法第8条第18項に規定する認知症対応型通所介護事業）及びこれと一体的に行われている介護保険法第8条の2第13項に規定する介護予防サービス

##### (4) 調布八雲苑指定居宅介護支援事業所

介護保険法第8条第24項に規定する指定居宅介護支援事業（公益事業）

#### 2 神代の杜

##### (1) 特別養護老人ホーム神代の杜

社会福祉法第2条第2項第3号（第1種社会福祉事業）に規定する特別養護老人ホーム

##### (2) 老人短期入所事業神代の杜

社会福祉法第2条第3項第4号（第2種社会福祉事業）に規定する老人短期入所事業（介護保険法第8条第9項に規定する短期入所生活介護事業）及びこれと一体的に行われている介護保険法第8条の2第7項に規定する介護予防サービス

#### 3 調布市ちょうふの里

##### (1) 特別養護老人ホームちょうふの里

社会福祉法第2条第2項第3号（第1種社会福祉事業）に規定する特別養護老人ホーム

##### (2) 老人短期入所事業ちょうふの里

社会福祉法第2条第3項第4号（第2種社会福祉事業）に規定する老人短期

入所事業（介護保険法第8条第9項に規定する短期入所生活介護事業）及びこれと一体的に行われている介護保険法第8条の2第7項に規定する介護予防サービス

(3) 高齢者在宅サービスセンターちょうふの里

社会福祉法第2条第3項第4号（第2種社会福祉事業）に規定する老人デイサービス事業（介護保険法第8条第7項に規定する通所介護事業）及びこれと一体的に行われている介護保険法第115条の45第1項第1号ロに規定する介護予防事業（第1号通所事業）

(4) 高齢者在宅サービスセンターちょうふの里（認知症対応型通所介護）

社会福祉法第2条第3項第4号（第2種社会福祉事業）に規定する老人デイサービス事業（介護保険法第8条第18項に規定する認知症対応型通所介護事業）及びこれと一体的に行われている介護保険法第8条の2第13項に規定する介護予防サービス

(5) ちょうふの里指定訪問介護事業所

社会福祉法第2条第3項第4号（第2種社会福祉事業）に規定する老人居宅介護等事業（介護保険法第8条第2項に規定する訪問介護事業）及びこれと一体的に行われている介護保険法第115条の45第1項第1号イに規定する介護予防事業（第1号訪問事業）

(6) ちょうふの里指定訪問介護事業所（障害福祉サービス事業）

社会福祉法第2条第3項第4号の2（第2種社会福祉事業）に規定する障害福祉サービス事業（障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号、以下「障害総合支援法」という。）第5条第2項に規定する居宅介護）

(7) ちょうふの里指定居宅介護支援事業所

介護保険法第8条第24項に規定する指定居宅介護支援事業（公益事業）

(8) 調布市地域包括支援センターちょうふの里

介護保険法第115条の46に規定する地域包括支援センター（公益事業）

(9) 調布市地域包括支援センターちょうふの里（指定介護予防支援事業所）

介護保険法第115条の45第1項第1号ニに規定する介護予防支援事業（第1号介護予防支援事業）（公益事業）

4 上布田保育園

社会福祉法第2条第3項第2号（第2種社会福祉事業）に規定する保育所（子ども・子育て支援法（平成24年法律第65号）第7条第4項に規定する教育・保育施設）

## 5 調布なないろ保育園

社会福祉法第2条第3項第2号（第2種社会福祉事業）に規定する保育所（子ども・子育て支援法第7条第4項に規定する教育・保育施設）及びこれと一体的に行われている子ども・子育て支援法第59条第1項に規定する地域子ども・子育て支援事業である一時預かり事業（第2種社会福祉事業）

## 6 調布市立学童クラブ（調布市立なないろ第1・第2学童クラブ、調布市立わかば学童クラブ、調布市立多摩川小学校学童クラブ、調布市立かみいしわら第1・第2学童クラブ及び調布市立あおば学童クラブ）

社会福祉法第2条第3項第2号（第2種社会福祉事業）に規定する放課後児童健全育成事業（子ども・子育て支援法第59条第1項に規定する地域子ども・子育て支援事業）

## 7 調布市放課後子供教室事業「ユーフォー」（調布市立若葉小学校ユーフォー、調布市立緑ヶ丘小学校ユーフォー、調布市立富士見台小学校ユーフォー、調布市立多摩川小学校ユーフォー、調布市立第三小学校ユーフォー、調布市立飛田給小学校ユーフォー及び調布市立石原小学校ユーフォー）

「調布市放課後子供教室事業実施要綱（平成27年4月1日要綱第77号）」に基づく調布市放課後子供教室事業ユーフォー（公益事業）

※ 上記の「第3 法人が実施する事業」は、従来は、決算報告書の「計算書類に対する注記（法人全体用）」に、法人が実施する社会福祉事業区分における拠点区分及びサービス区分の内容として、事業の根拠となる法律の条項や委託事業の条例等を記載していたが、「社会福祉法人会計基準の制定に伴う会計処理等に関する運営上の取扱いについて（平成28年3月31日 厚生労働省雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長、老健局長連名通知）」に基づき、当該注記への記載方法については、拠点区分及びサービス区分のみを列挙する方法へ変更したことから、決算報告書の「計算書類に対する注記」への記載に替えて、本事業報告書に記載するようにしたものである。

## 第4 重点事項への取組

### 1 中期経営計画の着実な推進

本法人は、令和3年3月に、令和3年度から令和7年度までの5年間を計画期間とする中期経営計画を策定した。計画2年目にあたる令和4年度においては、各拠点それぞれが中期経営計画に掲げる経営戦略の実現を目指した取り組みを推進するとともに、各拠点の業績や取組状況について、毎月の経営会議のほか、計画策定に携わった経営コンサルタントからの業務支援を受けながら、PDCAサイクルに基づく進行管理を定期的に行った。

また、令和4年度の中期経営計画の取組状況として、各施設のテーマ別に進捗状況の年次評価を行い、理事会及び定時評議員会に報告を行った。

## 2 職員研修計画の確実な推進

本法人は、中期経営計画に法人本部が掲げるテーマの一つである「法人全体の研修体系整備」の取り組みとして、平成14年度に策定した「社会福祉法人東京かたばみ会職員研修計画」の改訂を令和3年10月に行った。

令和4年度においては、職員研修計画に基づく新たな研修体系に沿って、各施設が研修実施計画を策定し、計画に基づく研修を実践するとともに、法人本部では、所属や職種を問わず、同じ職層の職員が一堂に会する職層別・勤続年数別研修を企画、実施するなど法人全体として職員の人材育成に取り組んだ。

また、研修受講者から提出された研修受講後アンケートや研修復命書をもとに振り返りを行い、令和5年度研修実施計画を策定した。

## 3 コロナ禍の長期化に対する安全な施設運営

日本で初めて新型コロナウイルスの陽性者が発見されてから3年以上が経過したが、令和4年度においても、東京都の1日当たりの感染者数が7月に過去最多となる4万人を超えるなど、施設の利用率にも大きく影響した。その間、各施設では全職員を対象とした定期的なPCR検査や病院と連携した特養利用者に対するワクチンの集団接種を継続的に行うなど、感染予防及び拡大防止策を徹底したが、一部施設ではクラスターが発生し、職員体制を確保するため事業を縮小することを余儀なくされた。その後も感染者数は増減したが、年度末にかけて感染者数にも落ち着きが見られ、高齢者施設では季節行事や対面での家族面会であったり、保育園では保育参観等保護者との交流を再開したりするなど、徐々にではあるが、制限のない日常を取り戻しつつある。

## 4 調布市との連携及び新拠点進出

本法人が、経営理念及び経営方針に基づく取り組みを継続し、社会福祉法人としての役割を果たしていくためには、内部努力を続けていくことはもちろんのこと、調布市における高齢者福祉施策や子ども・子育て支援施策の動向を注視し、法人としての意見具申しながら連携を密にし、市との協力体制の維持・強化に努めることが重要である。

令和4年度においては、調布市の計画や方針、本法人の現状等について、定期的に情報交換を行うとともに、調布市立児童館の民間活力活用方針に基づく令和5年度からの調布市立多摩川児童館学童クラブの新規受託運営及び調布市立第三小学校学童クラブの新規開設に向けて、市と連携しながら準備を進めた。

また、公設公営保育園における民間活力の活用方針が示される中、本法人としても新たな事業展開を見据え、令和5年度から法人本部内に「児童部門経営戦略室」を設置するため、組織規程の改正を行った。

## 第5 定款第18条及び第32条に基づく令和4年度に対する監事監査の状況

令和5年5月18日、萩原監事及び大槻監事により、理事の業務の執行状況並びに事業報告及び決算報告について実施された。(監事監査報告書は、令和4年度決算報告書の1ページのとおり。)

なお、監査状況は次のとおりであった。

### 1 運営管理関係(萩原監事)

高齢部門では、令和4年度は依然としてコロナ禍で厳しい運営を余儀なくされた。3施設とも特養部門の利用率が下がったものの、ショートステイやデイサービス部門では利用率が改善されている。ちょうふの里ではクラスターの発生により多くの利用者、職員が罹患し、また各施設では長期に渡り入院される利用者が多かった結果、利用率の低下を招いた。

特に調布八雲苑は令和3年度対比で3.5ポイント減であった。大規模改修工事が今年度実施されるため、利用率の改善は急務である。

児童部門では、保育園関係では上布田保育園、調布なないろ保育園、ともに特徴のある保育内容を充実させた運営状況が伺えた。保育園の待機児問題はほぼ解消されたが、今後は公設公営保育園の再編成や民営化が進むので、その受け皿としての体制整備の強化が課題となる。

学童クラブ、ユーフォーでは、大きな事故もなく一年間運営されたが、今年度から新たに2つの学童クラブの受託があり、又、児童館なども調布市は委託する方針であることから、特に若い職員が多いため人材面での育成、強化が必要である。

最後に法人本部であるが、中期経営計画は今年度が3年目に入るため、早くも折り返し点となる。必要な計画の見直しと確実な実施、点検の強化、さらには新たな職員研修計画による若手、中堅職員の人材育成に、より一層の注力をお願いしたい。

### 2 経理関係(大槻監事)

決算報告書をベースに、各種帳簿、証憑書類等を確認して監査を行った。

預金通帳、残高証明書及び金銭残高金種別表を確認し、預貯金との整合性を確認した。また、寄付金の受け入れに係る関係書類についても確認し、保存すべき書類が正しく保存され、適正に処理されていることを確認した。

コロナ禍が一段落し、初めて決算を迎えた中、収益が上昇した一方で、全体では人件費がほぼ昨年度と同等となっていることもあり、法人全体を通じて、決算状況はやや上向き基調の局面を迎えている印象を受けたが、光熱費の高騰がひと際目立っており、収支に大きく影響を及ぼした一年となった。

今年度は、調布八雲苑において大規模改修工事が計画されており、資金収支の減少が予想される。今後更に建物の老朽化による将来の修繕に向けて、必要な法人資金の留保を計画的に行うことを期待したい。

## 第6 実績報告

### 1 理事会の開催状況

理事会については、本法人定款細則第15条の規定に基づき年3回開催したほか、社会福祉法第45条の14第9項で準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第96条及び本法人定款第26条第2項の規定に基づく理事会の決議の省略手続を2回執った。

理事会の開催状況、決議及び承認事項並びに理事会の決議があったものとみなした事項は、次のとおりである。

理事会の決議の省略手続	<p>令和4年4月26日、理事長が、書面により各理事及び監事に対して理事会の決議の目的である事項、当該提案についての通知を行い、令和4年5月9日までに理事全員から同意書、監事全員から異議確認書（異議を述べない旨の確認書）の提出を受け、社会福祉法第45条の14第9項で準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第96条及び本法人定款第26条第2項の規定に基づき、当該提案事項2件について理事会の決議があったものとみなされた。</p> <p>理事会決議があったものとみなされた日及び理事会決議があったものとみなされた事項は、次のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 理事会決議があったものとみなされた日 令和4年5月9日</li> <li>2 理事会決議があったものとみなされた事項（数字は議案番号） <ol style="list-style-type: none"> <li>① 調布市立学童クラブ・ユウフォー事業部門組織規程の一部改正について</li> <li>② 調布市立学童クラブ・ユウフォー事業部門統括施設長の選任及び解任について</li> </ol> </li> </ol>
第1回理事会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開催日 令和4年6月2日</li> <li>2 出席者 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 理事（総数6人） 出席 6人</li> <li>(2) 監事（総数2人） 出席 2人</li> </ol> </li> <li>3 議事 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 報告事項 理事長及び常務理事の職務執行状況について</li> <li>(2) 決議及び承認事項（数字は議案番号） 16件の議案を審議し、いずれも原案のとおり議決した。 <ol style="list-style-type: none"> <li>③ 令和3年度社会福祉法人東京かたばみ会事業報告の承認について</li> <li>④ 令和3年度社会福祉法人東京かたばみ会決算報告の承認について</li> <li>⑤ 令和4年度夏期賞与の総原資の決定について</li> <li>⑥ 調布八雲苑運営規程の一部改正について</li> <li>⑦ 高齢者在宅サービスセンター調布八雲苑（通所介護及び調布市総合事業）運営規程の一部改正について</li> <li>⑧ 高齢者在宅サービスセンター調布八雲苑（認知症対応型通所介護及び介護予防認知症対応型通所介護）運営規程の一部改正について</li> <li>⑨ 神代の杜運営規程の一部改正について</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑩ 神代の杜（短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護）運営規程の一部改正について</li> <li>⑪ ちょうふの里指定訪問介護事業所（訪問介護事業、介護予防訪問介護事業、調布市介護予防・日常生活支援総合事業）運営規程の一部改正について</li> <li>⑫ 社会福祉法人東京かたばみ会介護職員処遇改善支援補助手当支給規程の一部改正について</li> <li>⑬ 社会福祉法人東京かたばみ会嘱託職員、有期契約職員等に関する規程の一部改正について</li> <li>⑭ 社会福祉法人東京かたばみ会育児休業、育児のための時間外労働及び深夜業の制限並びに育児短時間勤務に関する規程の一部改正について</li> <li>⑮ 役員等賠償責任保険契約の締結について</li> <li>⑯ 上布田保育園拠点区分都施設整備費積立金の取り崩しについて</li> <li>⑰ 令和4年度社会福祉法人東京かたばみ会収支補正予算（第1次）について</li> <li>⑱ 令和4年度社会福祉法人東京かたばみ会定時評議員会の招集について</li> </ul>
第2回理事会	<p>1 開催日 令和4年11月24日</p> <p>2 出席者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 理事（総数6人） 出席 5人</li> <li>(2) 監事（総数2人） 出席 2人</li> </ul> <p>3 議事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 理事長及び常務理事の職務執行状況について</li> <li>イ 中期経営計画の取組状況（令和4年度上半期）について</li> <li>ウ 調布市指導監査の結果について</li> </ul> </li> <li>(2) 決議及び承認事項（数字は議案番号） 6件の議案を審議し、いずれも原案のとおり議決した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>⑲ 専決処分の承認について（嘱託職員、有期契約職員等に関する規程の一部改正）</li> <li>⑳ 社会福祉法人東京かたばみ会職員紹介採用（リファラル採用）制度規程の制定について</li> <li>㉑ 社会福祉法人東京かたばみ会給与規程の一部改正について</li> <li>㉒ 社会福祉法人東京かたばみ会嘱託職員、有期契約職員等に関する規程の一部改正について</li> <li>㉓ 令和4年度冬期賞与の総原資の決定について</li> <li>㉔ 調布市立学童クラブ等の運営業務受託について</li> </ul> </li> <li>(3) 諸報告 各事業所事業実施状況について</li> </ul>
理事会の決議の省略手続	<p>令和4年12月16日、理事長が、書面により各理事及び監事に対して理事会の決議の目的である事項、当該提案についての通知を行い、令和4年12月27日までに理事全員から同意書、監事全員から異議確認書（異議を述べない旨の確認書）の提出を受け、社会福祉法第45条の14第9項で準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第96条及び本法人定款第26条第2項の規定に基づき、当該提案事項2件について理事会の決議があったものとみなされた。</p> <p>理事会決議があったものとみなされた日及び理事会決議があったものとみなされた事項は、</p>

	<p>次のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 理事会決議があったものとみなされた日 令和4年12月27日</li> <li>2 理事会決議があったものとみなされた事項（数字は議案番号） <ol style="list-style-type: none"> <li>㊸ 調布八雲苑大規模改修について</li> <li>㊹ 調布八雲苑大規模改修資金調達計画について</li> <li>㊺ 調布八雲苑大規模改修設計・工事監理業者の選定について</li> </ol> </li> </ol>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">第3回理事会</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開催日 令和5年3月23日</li> <li>2 出席者 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 理事（総数6人） 出席 6人</li> <li>(2) 監事（総数2人） 出席 2人</li> </ol> </li> <li>3 議事 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 報告事項 調布市立緑ヶ丘小学校ユーフォー（調布市放課後子供教室事業）の運営受託終了について</li> <li>(2) 決議及び承認事項（数字は議案番号） 18件の議案を審議し、いずれも原案のとおり議決した。 <ol style="list-style-type: none"> <li>㊸ 社会福祉法人東京かたばみ会保育士等処遇改善等加算手当支給規程の一部改正について</li> <li>㊹ 令和4年度社会福祉法人東京かたばみ会収支補正予算（第2次）について</li> <li>㊺ ちょうふの里指定訪問介護事業所（訪問介護事業、介護予防訪問介護事業、調布市介護予防・日常生活支援総合事業）運営規程の一部改正について</li> <li>㊻ ちょうふの里指定訪問介護事業所（障害福祉サービス）運営規程の一部改正について</li> <li>㊼ ちょうふの里指定訪問介護事業所（介護保険外サービス）運営規程の一部改正について</li> <li>㊽ 調布市立学童クラブ・ユーフォー事業部門組織規程の一部改正について</li> <li>㊾ 調布市立学童クラブ運営規程の一部改正について</li> <li>㊿ 調布市放課後子供教室事業「ユーフォー」運営規程の一部改正について</li> <li>㊸ 社会福祉法人東京かたばみ会放課後児童支援員等処遇改善臨時特例手当支給規程の一部改正について</li> <li>㊹ 社会福祉法人東京かたばみ会嘱託職員、有期契約職員等に関する規程の一部改正について</li> <li>㊺ 社会福祉法人東京かたばみ会経理規程の一部改正について</li> <li>㊻ 調布市ちょうふの里自動車運送業務委託業者との業務委託契約の締結について</li> <li>㊼ 令和5年度社会福祉法人東京かたばみ会事業計画について</li> <li>㊽ 調布八雲苑拠点区分施設整備等積立金の取り崩しについて</li> <li>㊾ 調布八雲苑拠点区分都施設振興費積立金の取り崩しについて</li> <li>㊿ 調布八雲苑拠点区分運転資金積立金の目的外取り崩しについて</li> <li>㊸ 令和5年度社会福祉法人東京かたばみ会収支予算について</li> <li>㊹ 社会福祉法人東京かたばみ会法人本部組織規程の一部改正について</li> </ol> </li> <li>(3) 諸報告 各事業所事業実施状況について</li> </ol> </li> </ol>

## 2 評議員会の開催状況

令和4年度の定時評議員会の開催状況は、次のとおりである。

定 時 評 議 員 会	1 開催日 令和4年6月23日 2 出席者 (1) 評議員（定数7人） 出席 6人 (2) 監事（定数2人） 出席 2人 (3) 理事長及び常務理事 3 議事 (1) 報告事項 ア 理事長及び常務理事の職務執行状況について イ 令和3年度社会福祉法人東京かたばみ会事業報告について (2) 決議及び承認事項（数字は議案番号） 1件の議案を審議し、原案のとおり議決した。 ① 令和3年度社会福祉法人東京かたばみ会決算報告の承認について
----------------------------	--

## 3 評議員選任・解任委員会の開催状況

評議員選任・解任委員会の開催を必要とする事案はなく、当該委員会の開催はなかった。

なお、評議員選任・解任委員会委員は、次のとおりである。

選任区分	氏名	備考
外部委員	小笠原 寿弘	調布市社会福祉事業団理事・事務局長・総合施設長
監事	荻原 久男	法人監事
事務局員	岩下 純二	法人本部事務長

（令和5年3月31日現在・敬称略）

## 4 苦情等解決第三者委員の会議の開催状況

苦情等解決第三者委員（こまりごと・なんでも相談）の会議は2回開催された。会議の開催状況は次のとおりである。

第 1 回	1 開催日 令和4年7月6日 2 議題 各事業所とも苦情等の報告はなく、次の事項について、情報提供・情報交換等を行った。 (1) 令和4年度苦情等解決責任者及び苦情受付担当者について (2) 令和4年度事業計画及び令和3年度事業報告について
第 2 回	1 開催日 令和5年2月1日 2 議題 各事業所の事業実施状況の報告と情報交換を行った。

なお、苦情等解決第三者委員は、次のとおりである。

氏名	備考
有本 キヨ子	調布八雲苑デイサービスセンター家族会リーダー NPO法人朝日カウンセリング研究会所属
伊藤 麻子	元調布市立学童クラブ指導員
加来 弘子	元調布市ちょうふの里介護職員 ケアマネジャー
村山 洋子	いっしょうふれあいネットワーク（第一小学校区地区協議会）副会長 三多摩学童保育連絡協議会事務局次長 調布市立調布中学校学校関係者評価委員

（令和5年3月31日現在・敬称略）

## 5 職員研修の状況

### (1) 職層別・勤続年数別研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
新規採用職員	新任研修	4月1日	法人本部	11人
		5月2日		1人
		7月1日		2人
		8月1日		2人
		11月1日		1人
		12月1日		1人
		1月4日		1人
		2月1日		3人
		3月1日		3人
	人事評価制度新規採用者研修	同上	法人本部	25人
	新任接遇フォローアップ研修	7月15日	㈱話し方教育センター	9人
副主任職1年目	副主任職新任研修	7月1日	㈱話し方教育センター	※16人
	人事評価制度新任考課者研修	5月13日	法人本部	3人
主任職1年目	主任職新任研修	6月24日	㈱話し方教育センター	※11人
管理職	管理職新任研修	6月10日	㈱話し方教育センター	10人
学童クラブ事業管理者	事業所管理者研修	2月6日	調布市子ども生活部児童青少年課	7人
参加延べ人数合計				106人

※「副主任職新任研修」、「主任職新任研修」については、現任職員含む。

### (2) 法人内研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	対象者数
事務員（管理職除く）	ビジネスマナー基礎研修	7月22日	㈱話し方教育センター	9人
参加延べ人数合計				9人

## II 調布八雲苑

### 第1 総括

#### 1 新型コロナウイルス感染症の影響

令和4年度は令和2年度及び3年度に引き続き、世界全体が新型コロナウイルス感染症に大きな影響を受けた年度となった。令和3年度までの緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などは発出されなかったものの、調布八雲苑でも新規利用者の面接や病院訪問等に制限を受けたことから空床期間が伸び、施設経営に少なからぬ影響を受けることとなった。その中においても、令和3年度に引き続き、施設を利用する全ての方への感染防止対策を講じ、職員及び施設で働く方々、そしてその家族までが力を合わせて、利用者や施設への影響をできるだけ少なく乗り切れたことは、大きな成果だといえる。

特に、家族の皆様には予約を取ったうえでの窓越しでの面会という方法にご理解、ご協力をいただくとともに、職員に対しては2週間に一度の定期的なPCR検査の実施を継続するなど、施設内における新型コロナウイルス感染症の感染と拡大予防に万全を尽くしたことから、利用者への感染を避けることができた。

更には、新型コロナウイルス感染予防対策として、令和2年度から続けている平日の毎朝始業時の10分間と夕方終業前の10分間に、本部職員を含む全職員が協力して次亜塩素酸等の薬液による施設内一斉清拭を行っていることが、施設職員のチームワーク醸成と感染予防への意識向上に大きく寄与するところとなっている。

また、令和4年度は中期経営計画の2年目にあたり、計画の進行管理を定期的に行いつつ、毎月の経営会議や職員会議での状況報告により、施設内の職員一人ひとりに施設の経営状況が伝わるよう周知を行った。令和3年度に引き続き、外部の専門家からの助言を受けながら取り組みを進めていく中で、現実との不整合な部分も見えてきたことから、改めて行動計画を見つめ直す機会として、職員同士での議論の場を持つことができた。令和5年度は、更に職員間の意識を高め、より施設全体の経営改善につながるような取り組みを職員一体となって実行していきたい。

令和4年度における特養利用者の平均介護度は4.4（令和3年度も同じ）、平均年齢は87.9歳（令和3年度は88.5歳）となっており、入居者の重度化・高齢化が進んでいる中、入退去者の入れ替わりが多かったことと入院者数の継続的な高止まりが経営に対するマイナス要因となった。一方、デイサービスでは施設入所や入院、転居による終結者が多い中、職員が手分けして毎朝利用者に電話をし、当日の健康状態の確認や通所準備の声掛けを行うことで、当日の通所を促した。更に、様々な居宅介護支援事業所への働きかけなどによって新規利用者を

獲得した結果、一般通所事業においては目標値を上回る成果をあげることができた。これも一重に各職員の努力の賜物であると考えている。

## 2 経営の安定化

調布八雲苑においては、特に収支の安定が課題となる中、全職員がコスト意識を持って業務に取り組めるよう毎月の職員会議において、前月分の利用率や収支状況について前年度と比較した数値を報告し、その時点での認識と課題の共有化を図ってきたが、シフト制勤務による職場特性もあり、全職員への周知徹底の難しさを改めて実感した。

令和4年度は介護記録のICT化だけでなく、事務連絡や共通認識事項のICT化についても更に取組を進めていく必要があると認識した年でもあった。ICT化は記録の重複作業防止や統計資料作成のための資料整理時間等の短縮にも効果大きいことを確認した。

また、従来から取得している栄養ケアマネジメント強化加算や日常生活継続支援加算等取得可能な加算を踏まえた上で、目標利用率を達成するため、関係各所へ積極的な営業活動を行った。

日々の運営においては、施設の老朽化による空調設備の故障、トイレや流しの排水設備の不具合、介護用機材（ベッド、車椅子等）の劣化による故障が相次ぎ、修繕に大きな経費を要した。最終的には令和3年度とほぼ同様の収益となった。

## 3 利用者が安心できる施設環境の整備

調布八雲苑は、調布市内初の特別養護老人ホームとして開設し、地域の皆様に支えられながら35年目を迎えた。建物の躯体は今なお堅牢ではあるが、設備や機器の一部は経年劣化が進み、特に空調設備やボイラーでは不具合が頻発し、修理や調整を重ねながら運営を行っている状況である。

そこで、平成15年から平成16年にかけて実施した大規模修繕工事からすでに約16年が経過していることを踏まえ、中期経営計画に基づく令和5年度の大規模修繕では、設備関係の刷新や屋上に設置されているキュービクル高圧受電設備の更新などにより、利用者の安全な暮らしが継続できる環境を整備していく。

## 4 地域や調布市との連携

毎年4月第4土曜日に行われる防災教育の日は、令和3年度に引き続き、通学している小中学生と教職員だけという形態で実施された。そのため、令和元年9月に調布市立八雲台小学校と災害時の相互応援協定を締結してはいるものの、防災教育の日の訓練への参加をすることができなかった。

また、調布八雲苑は、調布市と災害時における2次避難所としての協定を結んでおり、災害時の電話やファックス等の通信機器の故障や不通を想定した市との通信連絡訓練を令和5年3月に実施した。調布八雲苑の全課の職員が参加し、東京消防庁から調布市総合防災安全課に派遣されている専門の職員の指導を受け

て、防災行政無線を利用した無線器による交信訓練を参加者全員が体験できた。

その他、恒例の夏まつりは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から中止せざるを得なかったが、福祉課や高齢者在宅サービスセンターの利用者を中心に、それぞれの部署において施設内イベントとして実施し、利用者を楽しんでいただく時間を提供することができた。

## 第2 経営実績

### 1 目標値に対する実績

目標値に対する実績は、次のとおりである。

(単位：%)

事業名		目標値	令和4年度 実 績	令和3年度 実 績
介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム) 利用率		97.0	91.5	95.0
通所 介護 事業	通常規模型通所 介護利用率	85.0	88.7	80.2
	認知症対応型 通所介護利用率	82.0	76.5	79.5
居宅介護支援事業 ケアプラン作成		70件(月)	78.8件	77.1件

## 第3 課別事業報告

### 1 管理課

#### (1) 重点事項への取組

##### ア 中期経営計画に基づく経営改善の取組

令和4年度は、中期経営計画の2年度目として令和3年度に引き続き経営改善に取り組んだ。調布八雲苑では、経営改善への指標として8つの目標を行動計画として策定し、四半期ごとにその進行管理をしながら業務を遂行した。

8つの行動計画のうち大きな目標の1つである人件費率の適正化については、福祉課の介護職が1年を通して欠員であったが、その欠員を補うための派遣職員の雇用やマッチング機能を有した日雇い形式の雇用職員を活用した。令和4年度中を目標としていた適正職員数の結論を出すことはできなかったが、リファラル採用制度や介助員の新たな雇用など一定の結果を出すことができた。

また、2つ目の行動計画である大規模修繕については、その準備を順調に進めることができた。

3つ目の介護補助機器（ICT）の導入や記録などのシステム化については、具体的な方向性を検討するプロジェクトチームを構成するメンバーにつ

いて検討したが、結論を出すには至らなかった。

4つ目の行動計画である通所運営体制の見直しについては、目標どおり取り組みを進めることができ、特に通常規模型通所事業においては、目標値（85%）を上回る成果（88.7%）をあげることができた。

その他、行動計画に掲げる取り組みの中で令和4年度中に議論の俎上に上らなかった利用料の見直しや収入増への方策検討などについては、社会情勢の再評価や行動計画の目標設定の見直しを含めて、令和5年度に再度協議することとなった。

#### イ 人材の確保と育成

職員の欠員をできるだけ早期に補充すべく、間接処遇職員の活用及び新たな採用手法を利用して人材の確保に努めた。

令和4年度の正規職員の採用は4人（介護職員3人、栄養士1人）、退職は2人（介護職員2人）であった。正規職員及び有期契約職員の人材確保が難しく、欠員分は派遣職員やワークシェアリングを利用し代替したが、年間を通じて安定的な職員体制を整えることが大変難しい一年であった。ワークシェアリングなど新たな採用方法を利用することで介護職員の働き方の変化や発見も多く、引き続き、適正な人員体制を確立し、職員の働きやすい職場環境作りに努めるとともに、職員体制の確保に一層の努力を図っていく。

また、令和3年度に引き続き、職員が心身ともに安心して仕事に取り組める環境づくりの一環として、全職員を対象にストレスチェックを実施した。

人材育成については、施設内での事故防止、感染症発生防止の観点から、各種対策委員会と施設内研修を行っている。安全衛生委員会（12回）、感染症等対策委員会（4回）や事故防止対策委員会（4回）、身体拘束適正化委員会（4回）を実施するとともに、年間の施設内研修計画を立て各委員会主催の研修会を10回実施することができた。

#### ウ 給食内容の充実

検食日誌の内容や給食委員会で出された意見を踏まえ、改善に努めた。

また、季節感や旬の食材を取り入れ、利用者に喜んで召し上がっていただけるような行事食を提供した。今後も安全で美味しい食事の提供を目標に、多職種間で協力していく。

特養の利用者においては毎月のカンファレンス等含め、一人ひとりにきめ細かな食事提供の対応に努めた。給食の主な状況は次のとおりである。

- (7) 食種の割合は、主食ではご飯31.7%、柔らかご飯15%、お粥38.3%、ミキサー粥15%、副食では、常食30%、粗刻み23.3%、刻み23.3%、極刻み26.7%、ミキサー20%（ソフト含む）となり、常食の割合が増え、粥・ミキサーが減った。

- (イ) リクエストメニュー7回・バイキング2回・行事食10回・ホーム喫茶6回を実施し、食事を楽しんでもらうようにした。
- (ロ) デイサービスの利用者には、年間の行事予定に沿って職員と相談しながら、行事に合った食事やおやつを提供した。
- (ハ) 利用者の声や検食時の意見、感想、味のチェックなど、その日の献立に対する意見等を調理に反映するよう努めた。
- (ニ) 栄養ケアマネジメントは、毎月の体重測定結果と摂食状況等を看護職員、ケアマネジャー、介護職員及び栄養士がカンファレンスを行い、利用者の日々の変化に対応しながら進めた。
- (ホ) 衛生管理マニュアルに基づき、毎月衛生管理検査を実施し、衛生管理及び食中毒予防の徹底を図った。

## エ 神代の杜との連携

開設して10年が経過した神代の杜は、調布八雲苑のサテライト型の施設であることから、様々な分野で連携・協力して業務を行うとともに、管理課長及び栄養士の兼務により円滑な事業の実施と経営の安定化に向け、本体施設としての役割を果たした。

また、様々な問題の発生に対しては相互に応援体制が取れるよう、引き続き協力するとともに、給食調理部門において、災害時や感染症における相互応援のほか、衛生管理マニュアルの研修及び衛生管理の徹底など相互協力体制を更に進めていきたい。

## (2) 実績報告

### ア 特養（介護老人福祉施設。以下同じ。）利用者食数

月	朝食	昼食	夕食	月	朝食	昼食	夕食
4	1,796	1,796	1,796	10	1,785	1,776	1,776
5	1,877	1,878	1,878	11	1,650	1,651	1,651
6	1,837	1,840	1,839	12	1,745	1,745	1,744
7	1,846	1,846	1,844	1	1,762	1,765	1,765
8	1,825	1,827	1,827	2	1,639	1,642	1,640
9	1,748	1,749	1,747	3	1,823	1,827	1,825
計					21,333	21,342	21,332

### イ 行事食献立一覧（特＝特養、デ＝デイサービス）

月日	行事名	課名	献立内容
4月2日	リクエストメニュー	特・デ	ちらし寿司、京風揚げ煮、きんとき煮豆、澄まし汁
19日	リクエストメニュー	特・デ	グリーンピースご飯、ほっけの昆布醤油漬け他
5月5日	こどもの日	特・デ	煮込みハンバーグ、五目豆、マカロニサラダ
19日	ホーム喫茶	特	ショートケーキ、チョコケーキ、チーズケーキ

6月8日	リクエストメニュー	特・デ	ツナご飯、ピーマン肉詰め煮、きんぴらごぼう
21日	リクエストメニュー	特・デ	中華風炊きおこわ、魚の蒲焼、卵の花炒め他
7月7日	七夕	特・デ	かにちらし寿司、里芋饅頭、ゆかり和え、澄まし汁
15日	ホーム喫茶	特	ミルクレープ、チョコケーキ、ヨーグルトケーキ
8月4日	土用丑の日	特・デ	うな井、小松菜と黄菊の和え物、澄まし汁他
12日	リクエストメニュー	特・デ	エビカレー、キャベツとカニの酢の物、ゼリー
9月15日	ホーム喫茶	特	モンブラン、フランボワーズ、レアチーズ
18日	敬老祝い	特	赤飯、天ぷら、里芋まんじゅう、和え物、ゼリー他
20~22日	敬老週間	デ	松花堂弁当、柿、味噌汁
10月18日	リクエストメニュー	特・デ	秋刀魚の塩焼き、卵の花炒め、胡瓜と椎茸和え物
27日	リクエストメニュー	特・デ	ミートソーススパゲッティ、サラダ、ゼリー
11月9日	ホーム喫茶	特	紫芋モンブラン、チョコケーキ、ティラミス
22日	バイキング	特	握り寿司、いなり寿司、茶わん蒸し、お茶福豆他
12月22~24日	クリスマスケーキ	デ	おやつにクリスマスケーキ
25日	クリスマスメニュー	特	サンドイッチ、鶏肉の香草パン粉焼き、サラダ他
31日	年越し	特	年越しそば、大豆とひじきの煮物、和え物他
1月1日	元旦	特	赤飯、おせち料理、雑煮、5点盛り
4.5.6日	お正月週間	デ	松花堂弁当、お澄まし、甘夏、おやつに甘酒
7日	七草	特・デ	七草粥、鰯の西京焼き、冬瓜のカニあんかけ他
19日	ホーム喫茶	特	ショートケーキ、チョコケーキ、チーズケーキ
2月3日	節分	特	いわしバーグ、鶏肉と大豆の煮物、たたきオクラ
21日	バイキング	特	握り寿司、いなり寿司、茶碗蒸し、黒花豆甘煮
3月3日	ひな祭り	特・デ	ちらし寿司、がんもの煮物、黒花豆甘煮、澄まし汁
16日	ホーム喫茶	特	きいちごケーキ、チョコケーキ、白桃プリン
29.30.31日	修了式	デ	松花堂弁当、味噌汁、マンゴー、おやつにケーキ

## ウ 研修の状況

研修の参加状況は、次のとおりである。

### (7) 職種別専門研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
施設管理者	採用力・広報力強化研修 実践編	10月11日	東社協 東京都福祉 人材センター研修室	1人
	施設建替え及び大規模修繕 に関する課題検討会	11月21日	東社協 東京都高齢 者福祉施設協議会	1人
	ロボット・ICT機器導入・活 用の意義と進め方	2月21日	東社協 東京都高齢 者福祉施設協議会	1人
生活相談員	老人福祉施設等感染症対策 指導者養成研修	10月24日	東京都	1人

生活相談員・ケアマネジャー	高齢者虐待防止研修	12月8日	(公財)東京都福祉保健財団	2人
事務員	採用担当者研修・情報交換会	4月20日	東社協 東京都高齢者福祉施設協議会	1人
	福祉現場におけるメンタルヘルス	7月20日	東社協 東京都福祉人材センター研修室	1人
	採用力・広報力強化研修 入門編	7月25日	東社協 東京都福祉人材センター研修室	2人
	採用担当者研修・情報交換会	1月12日	東社協 東京都高齢者福祉施設協議会	1人
	採用担当者研修会	3月2日	東社協 東京都高齢者福祉施設協議会	1人
調理師・栄養士	栄養管理講習会「栄養管理報告書の作成等」	5月23日	多摩府中保健所	1人
	栄養管理講習会「食品衛生・環境衛生について」	6月8日	多摩府中保健所	1人
	栄養管理講習会「高齢者糖尿病における栄養管理」	7月4日	多摩府中保健所	1人
	多職種で学ぶライフ加算マネジメント	8月2日	東社協 東京都高齢者福祉施設協議会	1人
	健康づくり調理師研修会①	8月22日	多摩府中保健所	1人
	健康づくり調理師研修会②	8月31日	多摩府中保健所	1人
	栄養ケア・マネジメント研修会	9月12日	東京都社会福祉協議会	1人
	栄養管理講習会(新人栄養士対象)	9月29日	多摩府中保健所	1人
	栄養管理講習会「食品衛生・栄養情報について」	11月28日	多摩府中保健所	1人
	栄養管理講習会「エネルギー・栄養素の考え方」	12月8日	多摩府中保健所	1人
	多職種で学ぶ認知症の方への食支援	12月19日	東社協 東京都高齢者福祉施設協議会	2人
	アレルギー疾患研修	12月26日	(公財)東京都福祉保健財団	1人
	栄養管理講習会「災害時の食料備蓄・栄養管理」	1月17日	多摩府中保健所	1人
	栄養管理講習会「接触嚥下・食べ方の発達支援」	2月1日	多摩府中保健所	1人
参加延べ人数合計				27人

(イ) 職場研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
全職員	「高齢者施設等スタッフのための感染対策」	8月19日	感染症対策委員会	31人
全職員	「介護福祉におけるリスクマネジメント」	9月30日	事故防止対策委員会	16人
全職員	「高齢者施設の事例から考える感染対策」	10月25日	感染症対策委員会	8人
全職員	「ストレスと上手につきあおう」	11月15日	安全衛生委員会	47人

全職員	「高齢者虐待防止と権利擁護」	2月17日	管理課	28人
全職員	「身体拘束禁止の具体的な行為の確認」	2月17日	身体拘束適正化委員会	28人
全職員	「家庭教育講座」	2月21日	子育てと仕事の両立委員会（法人主任等調整連絡会議）	46人
全職員	「感染症予防手洗い研修」	3月16日	感染症対策委員会	50人
全職員	「事故防止の事例検討・安全安心運転チェックシート」	3月27日	事故防止対策委員会	21人
全職員	施設内研修「身体拘束の事例検討」	3月27日	身体拘束適正化委員会	21人
参加延べ人数合計				296人

## エ ボランティア等の状況

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、令和3年度同様原則、ボランティア活動の限定的な受け入れを継続した。しかし、感染状況を鑑みながら、ボランティア活動が再開可能な活動については、感染予防対策を実施したうえで再開した。そのため年間の活動延べ人数は1,057人で、令和3年度の985人に比べ、72人増加した。

(単位：人)

活動団体・内容等		活動先			延べ人数
		特養	デイ	施設全体	
クラブ・技術指導等	手芸	0	38	0	38
	書道	0	91	0	91
	編み物	0	45	0	45
	籐細工	0	0	0	0
	革細工	0	84	0	84
	陶芸	0	59	0	59
	絵画	0	0	0	0
全般・諸活動	リネン類整理	512	0	0	512
	傾聴	0	0	0	0
	歌・朗読・紙芝居	0	14	0	14
	鍼灸・マッサージ	0	0	0	0
	ダンス・リズム体操	0	0	0	0
	諸活動補助等	2	132	0	134
	音楽・演奏	0	0	0	0
	調布市立柏野小学校	0	0	0	0
中庭美化	中庭草取り	0	0	80	80

行事等	夏まつり	0	0	0	0
	ホーム喫茶	0	0	0	0
	その他行事	0	0	0	0
合 計		514	463	80	1,057

## オ 実習生の受入状況

令和4年度は、令和3年度同様新型コロナウイルス感染症の影響により受け入れ人数を制限する中、実習の中止や辞退の申し出もあった。しかし、コロナ禍前に比べて、受け入れ人数はまだ少ないが年間の受け入れ延べ人数は132人で、令和3年度の58人に比べ74人増加した。

(単位：人)

学校人等	目的	実習先			延べ 実習者数
		特養	デイ	支援	
多摩職業能力開発センター府中校	実務者研修資格取得	7	7	0	14
東京都社会福祉協議会	介護等体験	37	17	0	54
日本福祉教育専門学校	介護実習	24	0	0	24
二葉栄養専門学校	栄養士実習	40	0	0	40
実習生合計					132

## 2 福祉課

### (1) 重点事項への取組

#### ア 利用者の重度化に対応したケアの推進

令和4年度においても、18人の退居者がおり、令和3年度の17人と比べほぼ横ばいで、令和2年度からの累積では54人を数え、この3年間で約84.3%の入れ替わりがあったことになる。入退院を繰り返す利用者は減少したものの、身体機能の衰えなどにより入院期間が長期化するとともに退院の見込みが立たず、療養型施設へ転院するケースが多かった。

また、重度化ケアの推進について、平均要介護度4.4と重度傾向が継続する中で、ADLの維持に伴う事故防止対策の徹底や健康状態の確認による安心な生活支援のため、多職種の協働により、利用者一人ひとりに寄り添ったケアに努めた。

なお、5月期から数か月間にわたり、疥癬罹患者の発生や新型コロナウイルスに感染した入居者もおり、看護と介護が一体となって感染対策の徹底を図るとともに、他課からの応援協力もあり、感染拡大の防止に繋げることができた。

## イ 介護と医療との連携、緊急時の対応及び看取りケアの実践

令和4年度においても入院加療を要する入居者が途絶えず、医師からの指示を仰ぎつつ、看護職を先頭に状態の悪化防止に努めたが、医療的措置にも限界が見られた。その課題解決の一つとして、毎年1回「救急時における延命処置承諾書」の取り交しを行い、当施設の対応の理解を深め、本人の意思を尊重した支援に努めてきた。

一方、特養の入居申し込み者の医療的ニーズも高く、申込者の多くが病院又は高齢者施設で生活されている。そのため、新規面談の予約についても入居先の面会機会に制限があり、相談員と看護師が連携し、医療情報や介護状況等の情報収集に尽力したものの、対象者の選定に苦慮することが多かった上に、入居先での新型コロナウイルス感染等により、面談時と入居時の介護状態が異なることも多く見られた。

## ウ 施設内研修の充実と人材育成

令和4年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、集团的研修を控えつつも各委員会を通じ、多くの職員に参加機会が確保できるように書面開催を実施するなど、職員の資質向上に取り組むことができた。

また、ヒヤリハット及び事故の検証によるリスクの低減と再発の防止を主目的としたものの、感染対策等に負われることが多く、研修機会の充実には至らなかった。

しかしながら、介護保険に義務付けられた事業継続計画の策定なども含め、研修課題の発掘ができたことで、委員会や研修体系の再編をすることにより次年度に向け、取り組んでいくこととした。

## (2) 実績報告（特養・定員64人）

### ア 年齢状況

令和4年度3月末の利用者の平均年齢は87.9で約0.6歳若返った。但し、80歳から95歳の方が、全体の約4分の3を占めている。

令和5年3月31日現在（単位：人）

	年齢別	男	女	計	構成比 (%)
1	65歳未満	0	1	1	1.6
2	65～70歳未満	0	2	2	3.2
3	70～75歳未満	1	0	1	1.6
4	75～80歳未満	2	1	3	4.8
5	80～85歳未満	4	7	11	17.5
6	85～90歳未満	3	15	18	28.6
7	90～95歳未満	3	15	18	28.6

8	95～100歳未満	0	5	5	7.9
9	100歳以上	0	4	4	6.3
合 計		13	50	63	100
最高年齢 (歳)		94	107	—	—
最低年齢 (歳)		74	55	—	—
平均年齢 (歳)		84.6	88.7	—	

#### イ 在籍期間

令和4年度の新規入居者は17人で、令和3年度と同数であった。

また、入居者の在籍期間については、平均36.7か月で約3年となっている。特に男性は、平均24か月で在籍期間が短期的になっている。

令和5年3月31日現在 (単位：人)

	期 間	男	女	計	構成比 (%)
1	1年未満	7	9	16	25.4
2	1～3年未満	3	21	24	38.1
3	3～5年未満	1	12	13	20.6
4	5～10年未満	2	6	8	12.7
5	10年以上	0	2	2	3.2
合 計		13	50	63	100

#### ウ 退所状況

退所者は、年間18人で、令和3年度と比較し1人増加した。

内訳は、下表のとおりである。

	性別	年齢	退所月	保険者	退所理由	在籍期間	要介護
1	女	90	4月	調布市	入院先で死亡	3年11か月	4
2	女	103	4月	調布市	長期入院加療	3年3か月	4
3	女	91	5月	調布市	長期入院加療	7年9か月	4
4	男	87	6月	調布市	入院先で死亡	9年4か月	5
5	男	86	8月	調布市	入院先で死亡	8年10か月	4
6	女	95	8月	調布市	入院先で死亡	3年8か月	5
7	女	90	9月	調布市	長期入院加療	7カ月	4
8	女	88	10月	調布市	入院先で死亡	9か月	5
9	女	98	10月	調布市	入院先で死亡	2年2か月	5
10	女	88	11月	調布市	長期入院加療	2年2か月	4
11	女	98	11月	調布市	長期入院加療	1か月	4
12	男	80	11月	調布市	長期入院加療	2年4か月	5

13	女	102	12月	調布市	入院先で死亡	10年4か月	4
14	男	87	12月	調布市	入院先で死亡	15年9か月	5
15	女	97	1月	調布市	入院先で死亡	2年1カ月	5
16	男	94	1月	調布市	長期入院加療	1年9か月	5
17	女	91	2月	調布市	長期入院加療	4年	5
18	女	102	3月	調布市	長期入院加療	5年9か月	5
平均		92.6	—	—		4年2か月	4.5

## エ 月別要介護度分布表

令和4年度においても、日常生活支援継続加算の取得体制を継続するため要介護4以上の方を優先的に受け入れを行ってきたことで、平均要介護度や要介護4以上の利用者の傾向は変わらない。

(単位:人)

月	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均介護度
4	0	0	2	38	24	4.3
5	0	0	2	36	25	4.4
6	0	0	2	33	27	4.4
7	0	0	2	34	26	4.4
8	0	0	2	34	26	4.4
9	0	0	2	34	27	4.4
10	0	0	1	35	27	4.4
11	0	0	1	34	25	4.4
12	0	0	1	34	23	4.4
1	0	0	2	36	24	4.4
2	0	0	3	38	23	4.3
3	0	0	3	39	21	4.3
構成比(%)	0.0%	0.0%	3.1%	57.0%	39.9%	-
平均	0	0	1.92	35.42	24.83	4.4

## オ 月別利用実績

令和4年度の年間利用率は91.5%となり、令和3年度比3.5ポイント減となった。

在籍状況が示すとおり、在籍期間の短期化とともに入院に伴う長期療養など、ここ数年での入れ替わりも定着性の低さに現れている。

また、令和3年度の傾向であった新規申し込み者の待機施設や医療機関における新型コロナウイルス感染症の対応による制限的な対応が迅速な導入に繋がらなかったことを鑑み、在宅で生活する高齢者を優先的に抽出するも、対象となる要介護4以上の方が皆無となり、新規入居者の利用手続きが遅れたことも利用率の低下に繋がった。

月	延べ利用日数（日）	延べ利用可能日数（日）	利用率（％）
4	30	1,799	93.7
5	31	1,879	94.7
6	30	1,841	95.9
7	31	1,848	93.1
8	31	1,828	92.1
9	30	1,745	90.9
10	31	1,781	89.8
11	30	1,658	86.4
12	31	1,747	88.1
1	31	1,766	89.0
2	28	1,641	91.6
3	31	1,831	92.3
合計	365	21,364	—
平均	30	1,780	91.5

### 3 高齢者在宅サービスセンター

#### (1) デイサービス

##### ア 令和3年度介護保険制度改正に伴うサービスの実践

令和4年度当初に、令和3年度に行った各種加算取得の要件確認に基づく、機能訓練加算や科学的介護推進体制加算の導入のための体制整備を行ったが、専門性、経験の欠如により、加算取得を断念した。

しかしながら、プログラムのマンネリ化の防止を目的に、レクリエーションの充実を図り、コロナ禍で控えていた音楽やボランティアを再開し、感染対策の徹底とともに集団性の高い活動を取り入れることができた。

##### イ デイサービス相互支援効果の見直しと推進

令和4年度においても感染対策の徹底を重要視しつつ、恒例的行事や民間事業者が行うオンラインツアーへの参加など、様々なイベントの企画を実施し、利用者の心に残る活動を提供することができた。

また、当施設が行う感染対策の信頼性も高く、サービスの緊急的代替や他事業所から移行してくるケースも多く見られる中でも、デイサービスの相互支援効果の発揮により、利用者や家族の安心に繋げ、信頼性の高いサービスの提供が図ることができた。

##### ウ 利用率及び収支の安定化の維持

令和4年度においては、新型コロナウイルスの感染対策とともに利用自粛によるフレイルが発生しないようサービス利用を働き掛け、適宜、家族や関係機関との協働に努めた。これにより、利用自粛や感染後の長期欠席化を防止し、安定した利用率を維持することができた。

また、令和4年度は、新規利用者24人の受入を行い、前年度よりも5人増加し、全体的な利用者数も延べ501人増加した。

なお、収支の安定化について、介護報酬については前年度比約105%となったが、感染症対策に伴う経費や送迎車のガソリン代、光熱水費の高騰もあり、引き続き、業務の平準化や効率性の向上に課題が残った。

#### エ 認知症高齢者ケアの実践と家族支援の強化の継続

令和4年度も引き続き、認知症高齢者の特性に配慮した活動を提供し、「自己実現」「自己達成」に繋がる取り組みを行った。

また、令和4年度の運営推進会議を機に行ったアンケートでも、ご家族からのスタッフへの気遣いや利用者へ寄り添った対応に感謝の言葉をいただくなどコロナ禍においても家族との繋がりを実感することができた。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、同居家族等の生活様式も変化していたことから、利用者の利用回数や時間帯などを臨機応変に対応し、介護負担の軽減に繋げることができた。

#### オ 医療相談と支援の取組

令和4年度も引き続き、日々の健康状態の観察とともに既往症や服薬状況を確認し、デイサービスを利用する高齢者の「安全と安心」に力を注いだ。

また、日々の健康状態の把握により、感染症の早期発見や不安の解消に繋がられたことで、当施設でのクラスターの発生も防止でき、家族からの信頼を得ることができた。

### (2) 居宅介護支援事業

#### ア ケアマネジメントの質の向上及び公正中立なケアマネジメントの継続

令和4年度も引き続き、新型コロナウイルスの感染予防に伴う時間的、環境的制限があった中でも、「利用者が望むその人らしい生活の実現」を目標に、在宅生活の継続に尽力するため、サービス提供機関との協働に努めた。

また、質の高いケアマネジメントの提供を図るため、ケアプラン点検の参加や居宅介護支援事業所せいじゅ、とうざん居宅介護支援所と連携し、事例検討会を定期的で開催するなど、利用者の意思に基づいたケアプランが適切に提供できるよう、質の向上に努めることができた。

#### イ 健全な経営と地域高齢者への支援

令和4年度も引き続き、調布市八雲台地区に所在する唯一の居宅介護支援事業所であることを自覚し、地域に貢献できるよう安定したケアプラン作成件数を確保することができた。

また、健全な経営体制づくりの一環として、居宅支援会議を定期開催し、特定事業所加算取得の体制づくりを行った。これにより要件が整い、次年度の人員体制拡大に向け準備を整えることができた。

### (3) 実績報告

#### ア 通常規模型通所介護（総合事業を含む。）月別利用実績

令和4年度の年間利用率は、88.7%で令和3年度比8.5ポイント増と大幅に増加した。

令和2年度に発生した新型コロナウイルス感染症から早3年が経過する中、発生した年度から約12.6ポイント増加したことは、当施設が取り組んできた感染対策と事業所への信頼性の結果と思われる。

また、新規利用の申し込みについても18人と前年度比4人増加し、定員管理の徹底による空き利用を進めてきたことも良い利用率に繋がった要因と考察する。

(単位：人)

月	利用延人数	送迎利用数	利用日数（日）	利用率（%）
4	563	1,111	25	90.1
5	588	1,166	26	90.5
6	603	1,189	26	92.8
7	554	1,094	25	88.6
8	569	1,120	26	87.5
9	528	1,044	24	88.0
10	558	1,096	25	89.3
11	506	989	24	84.3
12	521	1,023	24	86.8
1	515	1,011	23	89.6
2	502	979	22	91.3
3	559	1,118	26	86.0
合計	6,566	12,940	296	88.7
1日平均	22.18	43.72		

#### イ 認知症対応型通所介護（介護予防認知症対応型通所介護を含む。）月別利用実績

令和4年度の年間利用率については、76.5%で令和3年度比3ポイント低下した。

令和3年度に休止傾向にあったショートステイなどの宿泊サービスが再開されたことにより、他サービスの利用再開者が増加したことが利用率の低下につながったと考察する。

また、新規利用者は9人と積極的に増員を図ったものの、終結者も7人と

多く、新型コロナウイルスの影響により、家族介護状況が変化したことで入所サービスに進む方も多かった。

(単位：人)

月	利用延人数	送迎利用数	利用日数(日)	利用率(%)
4	250	498	26	80.1
5	243	484	26	77.9
6	230	456	26	73.7
7	217	430	26	69.6
8	241	481	27	74.4
9	234	467	26	75.0
10	252	501	26	80.8
11	247	492	26	79.2
12	232	463	24	80.6
1	203	403	24	70.5
2	207	411	23	75.0
3	262	524	27	80.9
合計	2,818	5,610	307	76.5
1日平均	9.21	18.33		

#### ウ 認知症対応型通所介護事業運営推進会議の開催

認知症対応型通所介護は、地域密着型サービスのため、厚生労働省令で平成29年度から運営推進会議の設置が義務付けられた。

これは、地域との連携や施設の適切な運営を実現し、関係者からの要望、助言等を聞く機会を保障するために設置するものである。

概ね6か月に1回の開催が求められ、令和4年度の開催状況は、下記のとおりである。

	開催日	議 題
令和3年度 第2回	令和4年4月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度の事業運営について</li> <li>・利用傾向及び利用者状況について</li> <li>・活動報告について</li> <li>・ご利用者、ご家族からの意見について</li> </ul>
令和4年度 第1回	令和4年10月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度上半期の事業運営について</li> <li>・利用傾向及び利用者状況について</li> <li>・活動報告について</li> <li>・ご利用者、ご家族からの意見について</li> </ul>

※利用者及び利用者家族についてはアンケートを実施し、意見等をいただいた。

※令和3年度第2回は、令和3年度中の実施を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により延期し、令和4年度に実施した。

運営推進会議の構成員については、下表のとおりである。

(敬称略)

氏名	選任区分	任期
添田 淳子氏	民生・児童委員	令和3年10月1日～ 令和5年3月31日
島木 愛氏	調布市地域包括支援センター ゆうあい職員	
有本 キヨ子氏	地域有識者	

エ 通常規模型通所介護（総合事業を含む。）月別要介護度分布表

令和4年度の平均要介護度は1.57となり、令和3年度比0.14ポイント重度化した。

全体の比率的には要介護1以下の方が6割以上を占めているものの、徐々に要支援対象者が減少しており、給付別延べ人数割合では、要介護者が83.1%と1.3ポイント増加しており、要支援者の登録者数自体が減少している。

(単位：人)

月	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4	29	68	260	114	50	42	0	563
5	35	68	277	122	43	43	0	588
6	32	72	282	121	53	43	0	603
7	24	72	253	111	52	42	0	554
8	33	76	262	99	56	43	0	569
9	25	73	230	96	64	40	0	528
10	24	74	227	98	88	47	0	558
11	25	61	218	83	74	45	0	506
12	22	58	234	75	74	58	0	521
1	19	64	231	69	69	63	0	515
2	16	55	236	69	65	61	0	502
3	13	70	273	80	70	53	0	559
合計	297	811	2,983	1,137	758	580	0	6,566
比率(%)	4.5%	12.4%	45.4%	17.3%	11.5%	8.8%	0.0%	
1日平均	1.0	2.7	10.1	3.8	2.6	2.0	0.0	22.2

オ 認知症対応型通所介護（介護予防認知症対応型通所介護を含む。）月別要介護度分布表

令和4年度の平均要介護度は2.91となり、令和3年度比0.29ポイント重度化した。

新型コロナウイルス感染症の特例措置により、認定更新の臨時的対応が継続される中でも、要介護度の重度化に繋がっていることは、介護負担の増加にもつながっていることが窺える。

一方で、在宅サービスである当該事業の利用者の内、要介護3以上の方が、全体の7割を占めている現状については、在宅介護に注力するご家族の介護力が上がっていることも要因と考察する。

(単位：人)

月	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4	0	0	19	55	135	28	13	250
5	0	0	17	55	126	32	13	243
6	0	0	18	54	111	34	13	230
7	0	0	6	51	109	35	16	217
8	0	0	9	48	126	41	17	241
9	0	0	13	52	114	39	16	234
10	0	0	38	31	120	49	14	252
11	0	0	43	30	110	49	15	247
12	0	0	43	27	104	43	15	232
1	0	0	28	32	92	37	14	203
2	0	0	24	32	81	53	17	207
3	0	0	46	39	104	52	21	262
合計	0	0	304	506	1,332	492	184	2,818
比率(%)	0.0%	0.0%	10.8%	18.0%	47.3%	17.5%	6.5%	
1日平均	0.0	0.0	1.0	1.7	4.4	1.6	0.6	9.2

カ 居宅介護支援事業所のケアプラン作成件数(介護予防サービス計画含む。)

令和4年度のケアプラン作成件数は、945件と令和3年度比20件増となった。

ケアプランの作成率についても113%と経営目標を大幅に達成することができた。

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
国保連請求	79	81	77	80	76	79	78	80	79	73	80	83	945	78.8
請求外相談	3	4	4	0	1	2	4	0	1	8	4	5	36	3
合計	82	85	81	80	77	81	82	80	80	81	84	88	981	81.8

※ 請求外相談とは、新規や入院等で介護請求が発生しなかったケース。

キ 居宅介護支援事業所の要介護認定及び要支援認定調査件数

新型コロナウイルス感染症に伴う臨時的な対応により、要介護認定調査自体が減少し、令和4年度の認定調査件数は8件に止まった。

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
認定調査	1	0	1	1	1	0	0	3	1	0	0	0	8	0.7

### III 神代の杜

#### 第1 総括

##### 1 地域密着型施設としての取組と安定した施設運営

神代の杜は、調布市内で唯一の地域密着型特養として独自の取り組みを行うとともに、本体施設である調布八雲苑のサテライト施設として、単にバックアップの下で運営するのではなく、緊密な連携を取りつつ、単独施設として安定した経営基盤を築けるよう努力することが求められる。

また、地域密着型施設は、調布市に事業者としての指定を受けていることから、事業計画書、事業報告書及び運営推進会議議事録に基づき、適時、施設運営について報告し、指導・助言を受けている。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染者数が増減する中、個人活動のボランティアを積極的に受け入れたことで、活動延べ人数が多くなったが、各種団体の活動については、入居者と一緒に行う活動となるため、受け入れることができなかった。

利用者ケアについては1年毎に目標とする各ユニットのスローガンを定め、ユニット会議の冒頭でスローガンを確認し、実践することで、入居者の個性や心身の状況、入居までの生活歴とその中で培われてきた生活様式や生活習慣を具体的に把握して日常生活の活動を援助した。

経営面においては、令和4年度の特養の利用率が年間で95.1%となり、目標よりも1.9ポイント低かったが、施設全体の収支差額率はプラス0.55%で、資金収支差額は326万円余の2年連続黒字となった。

黒字となった要因としては、人件費及び事業費の支出が予算を下回ったことが大きかった。特に人件費については、年間を通して派遣職員との契約がなく、直接雇用職員のみであったことで支出を抑えることができた。

ショートステイの利用率は、目標値を下回ったが、令和3年度から11.2ポイント上昇した。その結果、サービス活動収益は、令和3年度と比較して約170万円の増収となった。

令和5年度も中期経営計画の行動計画における経営戦略を実践し、ショートステイ事業の利用率向上に取り組んでいく。

#### 第2 経営実績

##### 1 目標値に対する実績

目標値に対する実績は、次のとおりである。

(単位：％)

事業名	目標値	令和4年度 実績	令和3年度 実績
介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム) 利用率	97.0	95.1	96.7
短期入所生活介護 (ショートステイ) 利用率	80.0	60.9	49.8

### 第3 事業報告

#### 1 重点事項への取組

##### (1) 施設サービスの向上とユニットケアの確立

令和4年度中に入居された8人のうち5人が自宅からの入居であった。このことから、自宅で生活していた環境を家族に確認し、愛着のあるものを持参してもらうよう働きかけた。

また、入居後もユニットリーダーが主体となり、家族に自宅での生活状況を確認して自宅での生活をできる限り継続できるように環境整備を行った。

なお、多職種協働でのカンファレンスについては、少数職種との開催日時の調整が整わず実施できなかったが、カンファレンスや諸会議の議事録は全ての職種の職員が閲覧し、必要により専門的な観点から助言を行った。

##### (2) 安定した経営のための取組

前年度に引き続いて中期経営計画に掲げる経営戦略のショートステイの利用率向上に向けた改善策を実践した。

一点目として、初回利用の手続きを簡略化するため、「主治医意見書」の代わりに医療系サービスの計画書による健康状態等の確認を導入しようと試みた。しかし、医療系サービス事業者からの同意を得ることが困難であったことから、「主治医意見書」の有効期間等を見直し、利用6か月前までの血液検査や胸部X線検査の結果を転記することを可能としたことで、家族負担の軽減に繋がった。

二点目は、三鷹市内及び調布市内東部地区の居宅介護支援事業所にショートステイの空床情報を定期的に伝える取り組みを行った。その結果、三鷹市内から新規利用に結びついたのは1人のみであったが、調布市内東部地区の居宅介護支援事業所からの新規利用は、7人となり営業活動の成果が見られた。

支出面においては、年間を通して派遣職員との契約がなく、直接雇用職員のみであったため、人件費支出を抑制することができた。

##### (3) 地域密着型施設としての地域貢献について

令和4年度は、コロナ禍の影響で「10の筋力トレーニング」を行っている

地域団体に地域交流室の貸し出しをすることができなかった。

また、一般の避難所等での生活が困難な高齢者や障害者などの要配慮者のための避難場所としての指定は受けているが、相互協力体制の構築に向けた近隣自治会との協定を締結するには至らなかった。

地域密着型サービス事業者に義務付けられている運営推進会議の開催については、年6回開催のうち3回を新型コロナウイルス感染症拡大の影響により開催を自粛したことから、書面により事業活動を報告した。

なお、前年度に引き続き、北ノ台地区協議会（北ノ台まちづくりネットワーク地区）の運営委員並びに安全安心グループの一員として参画し、通学路の危険箇所を調布市都市整備部街づくり事業課に説明するなど、地域の実情についての理解を求めた。

## 2 実績報告

### (1) 給食の状況

令和4年度の給食委員会では、1月から栄養士及び調理師、介護職員に加えて看護職員も出席することになった。それにより、医療面の意見を取り入れ、利用者へのより安全できめ細かな対応が可能となった。

また、利用者の嚥下状態に応じ、異なるトロミ剤を使用するなど、利用者一人ひとりの身体機能に合った対応を行った。今後も利用者に安全な食事が提供できるよう、多職種で連携していく。

年間の行事等は、リクエストメニュー14回、バイキング1回、行事食12回を実施した。

特養（介護老人福祉施設。以下同じ）利用者食数

月	朝食	昼食	夕食	月	朝食	昼食	夕食
4	813	815	815	10	873	874	874
5	852	850	851	11	857	859	859
6	856	856	857	12	868	868	868
7	831	834	830	1	850	850	851
8	826	825	826	2	758	759	758
9	819	823	820	3	849	849	849
				計	10,052	10,062	10,058

ショートステイ（短期入所生活介護。以下同じ）利用者食数

月	朝食	昼食	夕食	月	朝食	昼食	夕食
4	35	46	36	10	48	62	51
5	46	59	45	11	46	56	44
6	44	52	44	12	38	50	41
7	40	49	42	1	39	46	38
8	37	49	38	2	49	61	50
9	38	48	39	3	55	67	56
				計	515	645	524

行事食献立一覧（特＝特養、シ＝ショート）

月日	行事名	課名	献立内容
4月2日	リクエストメニュー	特・シ	桜寿司、京風揚げ煮、きんとき煮豆、澄まし汁
19日	リクエストメニュー	特・シ	グリーンピースご飯、ホッケの昆布醤油漬け、 五目野菜の煮物、中華風即席漬け
27日	もりカフェ	特	ガトーショコラ、飲み物4種
5月5日	こどもの日	特・シ	グリーンピースご飯、チキンカツ、かぼちゃサラダ
12日	リクエストメニュー	特・シ	カレーライス、コールスローサラダ、杏仁豆腐
25日	もりカフェ	特・シ	苺ショート、飲み物4種
6月8日	リクエストメニュー	特・シ	ツナご飯、ピーマンの肉詰め煮、きんぴらごぼう、 きゅうりもみ
16日	バイキング	特・シ	おやつバイキング
22日	もりカフェ	特	苺ショート他、飲み物4種
7月7日	七夕	特・シ	七夕そうめん、揚げ出し豆腐、フルーツカクテル
14日	リクエストメニュー	特・シ	冷やしうどん、肉詰めいなり煮、ババロア
23日	土用丑の日	特・シ	うな井、小松菜と黄菊の和え物、澄まし汁、みかん缶
28日	もりカフェ	特	ガトーショコラ他、飲み物4種
8月4日	土用丑の日	特・シ	うな井、小松菜と黄菊の和え物、澄まし汁、フルーツ杏仁
17日	リクエストメニュー	特・シ	生姜ご飯、卵のお好み焼き、はんぺんのおろし煮、 ピーナツ和え
24日	もりカフェ	特・シ	苺ショート、飲み物4種
9月5日	リクエストメニュー	特・シ	ソース焼きそば、昆布茶和え、手作りゼリー
20日	敬老祝い	特・シ	にぎり寿司、卵の澄まし汁
23日	リクエストメニュー	特・シ	三色ご飯、京風揚げ煮、お茶福豆、澄まし汁
28日	もりカフェ	特	月ゆめうさぎ他、飲み物4種
10月18日	リクエストメニュー	特・シ	さんまの塩焼き、卵の花炒め、きゅうりと椎茸の和え混ぜ
26日	もりカフェ	特	プリンアラモード他、飲み物4種
27日	リクエストメニュー	特・シ	ミートソーススパゲティ、フレンチサラダ、手作りゼリー
11月14日	リクエストメニュー	特・シ	鯖の生姜煮、明太ポテト、茄子の香味づけ
16日	もりカフェ	特・シ	洋梨とフルーツのケーキ他、飲み物4種
26日	リクエストメニュー	特・シ	けんちんうどん、がんもとぜんまいの煮物、ババロア
12月9日	もちつき	特・シ	お汁粉
23日	クリスマスメニュー	特・シ	サンドイッチ、鶏肉の香草パン粉焼き、ミネストローネ
31日	年越し	特・シ	年越しそば、大豆とひじきの煮物、みかん缶

1月1日 7日	元旦 七草	特・シ 特・シ	赤飯、おせち料理、雑煮 七草がゆ、鱈の西京焼き、冬瓜のカニあんかけ、 インゲンのクルミ和え
18日	もりカフェ	特	苺ショート他、飲み物4種
2月22日 23日	もりカフェ リクエストメニュー	特・シ 特・シ	カップケーキ、飲み物4種 ハヤシライス、マカロニサラダ、ミルクプリン
3月3日	ひな祭り	特・シ	ちらし寿司、がんもとゼンマイの煮物、黒花豆の甘煮、 澄まし汁
22日 24日	もりカフェ リクエストメニュー	特 特・シ	フルーツケーキ他、飲み物4種 エビカレー、キャベツとカニの酢の物、手作りゼリー

## (2) 研修の状況

研修の参加状況は、次のとおりである。

### ア 職種別専門研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
施設長	令和4年度集団指導	2月14日	東京都福祉保健局	1人
副主任介護職員	ユニットリーダー実地研修	2月21日～24日	一般社団法人日本ユニットケア推進センター	1人
	福祉用具講習会	6月30日	公益財団法人東京都福祉保健財団	1人
参加延べ人数合計				3人

※栄養士の参加人数は調布八雲苑と重複（兼務のため）。

### イ 職場研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
介護職員・看護職員	事故防止研修	1月12日、2月12日	施設内部	12人
	褥瘡予防研修	9月9日、3月20日	施設内部	11人
	身体拘束廃止研修	12月1日、3月17日	施設内部	12人
	感染症対策研修	11月27日、1月16日	施設内部	10人
	虐待防止研修	12月13日、2月12日	施設内部	10人
	たん吸引研修	6月5日、2月12日	施設内部	4人
副主任以上（新任除く）	人事評価制度現任考課者研修	4月29日	施設内部	3人
参加延べ人数合計				62人

## (3) ボランティア等の状況

令和4年度は、新型コロナウイルス感染者が増加している期間においてもボランティア活動の受け入れを行った。このことにより、延べ活動人数が58人増加した。

(単位：人)

活動団体・内容等		人数	延べ
全般・諸活動	ピアノ・フルート演奏	2	14
	琴演奏	4	48
美化	草取り、樹木剪定、菜園	14	108
	シーツ交換	2	57
合 計		22	227

## (4) 年齢状況（特別養護老人ホーム・定員29人）

入居者の平均年齢は、89.4歳であり、前年度と比較して1.7歳低下した。

令和5年3月31日現在（単位：人）

No.	年齢別	男	女	計	構成比 (%)
1	65歳未満	1	0	1	3.5
2	65～70歳未満	0	0	0	0
3	70～75歳未満	0	0	0	0
4	75～80歳未満	0	0	0	0
5	80～85歳未満	1	2	3	10.7
6	85～90歳未満	0	10	10	35.7
7	90～95歳未満	3	5	8	28.5
8	95～100歳未満	0	4	4	14.2
9	100歳以上	0	2	2	7.4
合 計		5	23	28	100.0
最高年齢 (歳)		93	104	—	—
最低年齢 (歳)		59	83	—	—
平均年齢 (歳)		83.0	90.8	89.4	—

## (5) 在籍期間（特別養護老人ホーム）

開設からの入居者は、前年度から1人減少し2人となった。平均在籍期間は、3年3か月となっている。

令和5年3月31日現在（単位：人）

No.	期間	男	女	計	構成比 (%)
1	1年未満	2	5	7	25.0
2	1年以上～2年未満	2	4	6	21.4
3	2年～3年未満	1	5	6	21.4
4	3年～4年未満	0	0	0	0
5	4年～5年未満	0	2	2	7.2
6	5年～6年未満	0	3	3	10.7
7	6年～7年未満	0	1	1	3.6
8	7年以上	0	3	3	10.7
合 計		5	23	28	100.0

(6) 退去状況内訳（特別養護老人ホーム）

令和4年度の退去者数は、前年度の6人から3人増加し9人となった。

令和4年4月1日～令和5年3月31日

No.	性別	年齢	退去月	退所理由	在籍期間	要介護度
1	女	89	4月	施設内で永眠	9年6か月	4
2	男	90	4月	救急搬送後に死亡	4年9か月	4
3	女	93	5月	他特養へ転居	1年4か月	5
4	女	95	8月	長期入院加療	2年3か月	4
5	女	101	9月	長期入院加療	9年4か月	4
6	男	88	9月	施設内で永眠	5年9か月	4
7	女	98	10月	施設内で永眠	5年5か月	5
8	女	98	2月	長期入院加療	2年4か月	4
9	女	91	3月	長期入院加療	5か月	3
平均		93.7	—	—	4年6か月	4.1

(7) 特別養護老人ホーム 月別要介護度分布表

令和4年度の平均介護度は、前年度と同様の3.8となった。

(単位：人)

月	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均介護度
4	0	0	9	17	4	3.8
5	0	0	9	16	3	3.8
6	0	0	10	16	3	3.8
7	0	0	10	16	3	3.8
8	0	0	12	15	3	3.7
9	0	0	13	14	3	3.7
10	0	0	13	13	3	3.7
11	0	0	13	14	2	3.6
12	0	0	13	14	2	3.6
1	0	0	13	14	2	3.6
2	0	0	13	14	2	3.6
3	0	0	14	13	2	3.6
構成比 (%)	0	0	40.5	50.1	9.4	100

(8) 特別養護老人ホーム 月別利用実績

目標利用率を1.9ポイント下回り、目標以下となった。

目標以下となった原因は、前年度より退去者が増えて、退去から入居までに要した空床日数が増加したことによる。

(単位：日)

月	延べ利用日数	延べ利用可能日数	利用率 (%)
4	814	870	93.6
5	852	899	94.8

6	858	870	98.6
7	831	899	92.4
8	826	899	91.9
9	821	870	94.4
10	875	899	97.3
11	859	870	98.7
12	868	899	96.6
1	852	899	94.8
2	758	812	93.3
3	850	899	94.5
合計	10,064	10,585	95.1

(9) 短期入所生活介護（ショートステイ・定員3人） 月別利用実績

利用率については、前年度と比較して11.1ポイント上昇したが、目標は下回った。

月	利用実人数 (人)	利用延人数 (人)	利用日数 (日)	稼働日数 (日)	毎月の利用率 (%)
4	10	11	46	90	51.1
5	13	17	63	93	67.7
6	10	11	54	90	60.0
7	10	12	53	93	57.0
8	13	13	51	93	54.8
9	12	12	50	90	55.6
10	12	14	63	93	67.7
11	10	11	58	90	64.4
12	10	11	50	93	53.8
1	8	10	50	93	53.8
2	11	12	61	84	72.6
3	12	12	68	93	73.1
合計	131	146	667	1,095	
平均	10.9	12.2	55.6	91.3	60.9

(10) 短期入所生活介護（ショートステイ） 月別要介護度分布表

令和4年度は、要介護1の利用者が減る一方で、要介護3の利用者が3倍以上に増加した。また、要介護4の利用者も増加した。

(単位：人) 空床ショート含む

月	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4	0	0	17	5	7	10	7	46
5	0	0	14	11	15	13	10	63
6	0	0	19	4	13	5	13	54
7	0	0	19	4	8	10	12	53
8	0	0	10	3	22	11	5	51

9	0	0	19	5	16	6	4	50
10	0	0	10	4	33	16	0	63
11	0	0	15	0	32	11	0	58
12	0	0	10	0	30	10	0	50
1	0	0	11	0	23	16	0	50
2	0	0	12	0	37	12	0	61
3	0	0	15	6	37	10	0	68
合計	0	0	171	42	273	130	51	667
比率(%)	0	0	25.6	6.3	41.0	19.5	7.6	100

(11) 運営推進会議の開催

神代の杜は地域密着型サービスのため、厚生労働省令で運営推進会議の設置が義務付けられている。これは、地域との連携や施設の適切な運営を実現し、関係者からの要望、助言等を聞く機会を保障するため設置しているものである。概ね2か月に1回の開催が求められている。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染拡大が懸念される月は開催を自粛した。調布市から、開催を自粛する場合は運営推進会議委員に文書等で報告・意見照会するよう通知があったことから、各委員からの意見に対する回答を付して、調布市に報告書を提出した。

	開催日	議題・報告事項
第1回	4月28日	・令和4年度神代の杜事業計画について ・3月～4月の運営状況について
第2回	6月30日	・5月～6月の運営状況について
第3回	8月25日 (開催自粛)	・7月～8月の運営状況について
第4回	10月27日 (開催自粛)	・9月～10月の運営状況について
第5回	12月22日 (開催自粛)	・11月～12月の運営状況について
第6回	2月16日	・1月～2月の運営状況について

運営推進会議委員（敬称略）

氏名	選任区分	任期
矢田部 弘行	地域住民代表	令和4年9月1日～ 令和6年8月31日
赤羽 陽子	地域包括支援センター職員	
内藤 敬子	地域有識者	

※ この他に入居者及び入居者家族各1人が委員として加わっている。

## IV 調布市ちょうふの里

### 第1 総括

#### 1 全体の施設運営

新型コロナウイルス発症から3年目を向かえた令和4年度においても、新型コロナウイルスによる感染症が猛威を振り、先が見えない日々が続いた。

ちょうふの里では、感染症対策を継続するとともに、ワクチンも希望する職員に対して、接種を行ってきた。7月以降、変異株の出現で、全国各地で福祉施設のクラスターが発生し、予断を許さない状況が続いた。

当施設でも8月22日から9月29日において、特別養護老人ホームの利用者及び職員含めて59名の新型コロナウイルス感染症の陽性者が出る結果となった。この間、人員体制が整わない中、感染症対策の更なる強化を図ることとなり職員の疲弊状態が続いたが、各課の協力により乗り越えることができた。

人材の確保にあたっては、年度当初から介護職員等の求人・採用活動に力を注いだ。具体的には、有料の求人サイトや市報の活用のほか、調布市社会福祉協議会主催の「福祉のしごと相談会」や養成校主催の就職説明会に参加し、求人募集を行うとともに、施設の見学を希望する方については、柔軟に対応することができた。

また、令和4年度の道路交通法の改正により、業務で自動車を運転する場合は、事前に運転手の体調の管理や飲酒の有無を確認して記録をし、保管することが義務付けられた。この変更に適合するため、「送迎日報」の書式を見直し、デイサービスセンターの運転手全員分のアルコールチェッカーを用意して4月1日から記録を始めた。

### 第2 経営実績

#### 1 目標値に対する実績

特別養護老人ホームについては、長期入院者等の退所者が令和3年度より多く25人となった。

また、新型コロナウイルスの影響を受け、老人保健施設等に新規入所者の面接に行くことができず、入所までに時間が掛かってしまうなどの理由により、年間利用率96%の目標値には至らなかった。

ショートステイについては、年間を通して新型コロナウイルスの感染状況が収束しない中でも利用の希望者は多く、年間目標値の92%を大きく上回り、95.2%となった。

通所介護事業については、第7波の新型コロナウイルス流行時は、サービスを自粛する利用者が多かった。しかし、目標値には届かなかったものの、令和3年

度と比べ、5ポイント上昇し72.4%となった。一方、認知症対応型通所介護事業については、利用者の多くがショートステイを併用利用し、前年度と比べ4.3ポイント減少し、68.5%となった。

居宅介護支援事業については、目標値の150件を超え、安定した事業運営ができています。

訪問介護については、新規利用者を積極的に獲得し、目標値には届かなかったものの、令和3年度より100時間もサービス提供時間の実績を伸ばし、収入ともに大きく増やすことができました。

(単位：%)

事業名		目標値	令和4年度 実績	令和3年度 実績
介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）利用率		96.0	92.5	94.7
短期入所生活介護（ショートステイ）利用率		92.0	95.2	91.2
通所介護 事業	通所介護 利用率	80.0	72.4	67.4
	認知症対応型通所介護 利用率	75.0	68.5	72.8
居宅介護 支援事業	ケアプラン作成数（月間）	150件	158.2件	153.0件
	予防プラン作成数（月間）	20件	26.3件	27.0件
訪問介護 事業	サービス提供数（時間/月）	510時間	455時間	352.7時間
	障がいサービス提供数（時間/月）	20時間	25時間	27.2時間

### 第3 課別事業報告

#### 1 管理課

##### (1) 重点事項への取組

##### ア 中期経営計画に基づく取組の推進

中期経営計画の2年目にあたる令和4年度においては、計画の一部見直しをするとともに、引き続き公営施設としての役割を認識しつつ、自主事業の収支改善に注力するなど、それぞれの事業所間で連携・協力し、情報の共有をしながら、経営戦略の実現に向けて着実に取り組みを進めた。

##### イ 経費の削減と効率化

令和4年度においては、調布市からの委託料が前年度と比較して増額となったが、長引く新型コロナウイルスの流行に加え、ロシアによるウクライナ進攻等の影響による小麦等の原材料価格高騰や原油価格の上昇による物流費など物価が急騰した。特に、光熱水費の急騰は、予想をはるかに上回るもので、調布市と協議し、委託費の増額変更を行い対応した。

##### ウ 安定した食事の提供と環境づくり

給食調理業務の直営化から5年が経過した中で、平時の業務については安

定した食事を提供できる仕組みが整ってきた。

しかしながら、調理員の退職や募集しても応募の少ない調理補助員、現在就労している調理補助員の高齢化など、人員体制の点で多くの課題を抱えながら事業運営を継続した。

## (2) 実績報告

### ア 研修の状況

#### (ア) 職種別専門研修

##### (管理課)

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
事務員	労務管理研修	6月27日	三鷹労働基準監督署	1人
安全対策担当者	介護施設における安全対策担当者養成研修	7月4、7日 8月4日	全国老人福祉施設協議会	1人
安全運転管理者	安全運転管理講習会	10月12日	警視庁	1人
事務員	生産性向上セミナー 「働きやすい職場環境づくり」	11月1日	東京都福祉保健財団	1人
事務員	介護事業者のための業務継続計画（BCP）作成セミナー	3月9日	厚生労働省	1人
栄養士	食品衛生実務講習会	1月18日	東京都多摩府中保健所	1人
調理員	食品衛生実務講習会	1月18日	東京都多摩府中保健所	1人
参加延べ人数合計				7人

##### (福祉課)

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
介護職員	事故防止研修 「表皮剥離について」 (介護職会議)	12月14日 1月23日	ちょうふの里 福祉課	8人 9人
介護職員	身体拘束廃止研修 「身体拘束について」 (介護職会議)	2月中旬	ちょうふの里 福祉課	資料配布
介護職員・看護職員	感染症研修 「吐しゃ物のしよりに ついて」 (さとまる講座)	12月6日～	ちょうふの里 福祉課	42人
介護職員・看護職員・生活相談員	虐待防止研修 (課内会議)	2月27日	ちょうふの里 福祉課	資料配布
介護職員	介護の質の向上研修 「オムツ交換について」 (さとまる講座)	11月4日	ちょうふの里 さとまる講座担当	11人
介護職員	介護の質の向上研修 「移動介助について」 (さとまる講座)	2月7日	ちょうふの里 さとまる講座担当	9人
看護職員	スキルアップ研修 「高齢者のスキンケア と褥瘡ケア」	9月3日	東京都看護協会	1人

感染対策リーダー	東京都感染対策リーダー養成研修	12月12日	東京都看護協会	1人
介護支援専門員	東京都認定調査員現任研修	8月31日	調布市	2人
管理職	ハラスメント防止研修 「介護現場におけるハラスメント対策説明会」	1月20日	東京都社会福祉協議会 他	1人
管理職	福祉職員キャリアパス研修 「管理職員研修」	6月6・7日	東京都社会福祉協議会	1人
防火管理者	防火・防災管理講習	5月30・31日	東京消防庁	1人
管理職	虐待防止研修	11月29日 12月8日	東京都社会福祉協議会	2人
参加延べ人数合計				88人

(高齢者在宅サービスセンター (デイサービス))

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
介護職員・看護職員・生活相談員	事故防止研修 「送迎中の利用者の急変時の対応について」 (デイ会議)	5月20日	ちょうふの里 デイサービス	23人
介護職員・看護職員・生活相談員	感染症研修 「吐しゃ物の処理について」(デイ会議)	1月20日	ちょうふの里 デイサービス	32人
介護職員・看護職員・生活相談員	虐待防止研修 基礎編 実践編	1月6日 2月17日	ちょうふの里 デイサービス	32人 32人
介護職員・看護職員・生活相談員	身体拘束廃止研修 「身体拘束はなぜなくならない」	9月24日	ちょうふの里 デイサービス	32人
介護職員・看護職員・生活相談員	介護の質の向上研修 「機械浴槽からのトランスファー」 (デイ会議)	3月17日	ちょうふの里 デイサービス	20人
介護職員・看護職員・生活相談員	介護の質の向上研修 「BPSDプログラム」	4月7日 5月12日 6月9日 10月13日 11月10日 12月8日 1月12日 2月9日 3月9日	ちょうふの里 デイサービス	13人 15人 15人 12人 12人 15人 13人 13人 13人
介護職員	スキルアップ研修 「施設職員向け福祉用具講習会」	2月2日	東京都社会福祉協議会	1人
副主任	リーダー研修 「チームアセスメント」	11月16日	東京都社会福祉協議会 他	1人
参加延べ人数合計				294人

## (高齢者在宅サービスセンター (ショートステイ))

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
介護職員・看護職員・生活相談員	事故防止研修 「認知症と事故防止について」 (ショート勉強会)	6月9日	ちょうふの里 ショート勉強会担当	11人
介護職員・看護職員・生活相談員	感染症研修 「感染症対策について」 (ショート勉強会)	9月30日 10月7日	ちょうふの里 ショート勉強会担当	12人 7人
介護職員・看護職員・生活相談員	虐待防止研修 「アンガーマネジメントについて」	2月28日	ちょうふの里 ショート勉強会担当	20人
介護職員・看護職員・生活相談員	身体拘束廃止研修 「スピーチロックをなくすには？」	2月1日	ちょうふの里 ショート勉強会担当	20人
介護職員・看護職員・生活相談員	介護の質の向上研修 「オムツの使い方について」 (ショート勉強会)	6月28日 7月5日	ちょうふの里 ショート勉強会担当	9人 8人
介護職員・看護職員・生活相談員	介護の質の向上研修 「レクリエーションについて」 (ショート勉強会)	8月1日	ちょうふの里 ショート勉強会担当	11人
介護職員・看護職員・生活相談員	介護の質の向上研修 「紙オムツの選び方、当て方について」 (ショート勉強会)	8月19日 11月9日	ちょうふの里 ショート勉強会担当	6人 6人
介護職員・看護職員・生活相談員	介護の質の向上研修 「高次脳機能障がいについて」 (ショート勉強会)	2月2日	ちょうふの里 ショート勉強会担当	19人 書面開催
看護職員	スキルアップ研修 「感染管理について」	8月16日	東京都看護協会	1人
看護職員	スキルアップ研修 「高齢者のスキンケアと褥瘡ケア」	9月3日	東京都看護協会	1人
参加延べ人数合計				131人

## (地域支援課)

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
介護支援専門員・生活相談員・ヘルパー	感染症研修 「感染症について」	11月24日	ちょうふの里 地域支援課	32人
介護支援専門員・生活相談員・ヘルパー	虐待防止研修 「虐待防止について」	3月23日	ちょうふの里 地域支援課	32人
介護支援専門員・生活相談員・ヘルパー	身体拘束廃止研修 「身体拘束について」	3月23日	ちょうふの里 地域支援課	32人
介護支援専門員・生活相談員	東京都認定調査員現任研修	8月31日	調布市	16人

介護支援専門員	ケアマネジメントスキルアップ研修 「ケアプラン作成研修」	11月30日	調布市	6人
介護支援専門員	ケアマネジメントスキルアップ研修 「介護支援専門員の気づきを促すケアプラン点検」	12月19日	調布市	6人
ヘルパー	介護の質の向上研修 「個人情報の取り扱いについて」 (ヘルパー会議)	4月20日	ちょうふの里 地域支援課	14人
ヘルパー	介護の質の向上研修 「地震等災害時の対応について」 (ヘルパー会議)	7月21日	ちょうふの里 地域支援課	13人
ヘルパー	介護の質の向上研修 「業務管理システムの使い方」① (ヘルパー会議)	10月19日	ちょうふの里 地域支援課	13人
ヘルパー	介護の質の向上研修 「業務管理システムの使い方」② (ヘルパー会議)	11月17日	ちょうふの里 地域支援課	15人
ヘルパー	介護の質の向上研修 「冬の入浴時のバイタルサインの重要性とヒートショックについて」 (ヘルパー会議)	12月21日	ちょうふの里 地域支援課	13人
管理者	リスクマネジメント研修	7月27日	東京都社会福祉協議会	2人
衛生管理者	全国労働衛生週間説明会	9月7日	三鷹労働基準監督署	1人
管理者	介護事業者のための業務継続計画(BCP)作成セミナー	3月9日	厚生労働省	1人
参加延べ人数合計				196人

(イ) 職場研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
全職員	事故防止研修 「応急救命について」	11月中旬	ちょうふの里 事故防止委員会	資料配布
全職員	感染症研修 「吐しゃ物の処理とPEEについて」	1月中旬	ちょうふの里 感染症対策委員会	資料配布
全職員	虐待防止研修 「虐待と身体拘束について」	6月中旬	ちょうふの里 虐待防止委員会	資料配布
全職員	身体拘束廃止研修 「身体拘束について」	3月中旬	ちょうふの里 身体拘束廃止委員会	資料配布
全職員	労働安全衛生研修 「労働安全を知ろう」	2月中旬	ちょうふの里 労働安全衛生委員会	資料配布

全職員	労働安全衛生研修 「ハラスメント研修」	9月中旬	ちょうふの里 労働安全衛生委員会	資料配布
全職員	褥瘡予防研修 「床ずれ対策について」	12月20日 12月下旬	ちょうふの里 褥瘡予防対策委員会	9人 資料配布
新規採用職員	新人職員研修	4月3日	ちょうふの里 管理課	5人
参加延べ人数合計				14人

## イ 実習生等の受入状況

実習生等の受け入れについては、延べ183人となり、前年度の延べ206人と比較すると減少した。専門校の閉鎖や学生の減少が影響したと思われる。また、新型コロナウイルス感染症の影響から実習中止の学校も多かった。

(単位：人)

学校名等	実習目的	実習先			合計
		特養	デイ・シ	包・居・訪	
都立野津田高等学校	介護福祉士	94			94
公益財団法人東京YMCA医療福祉専門学校	介護福祉士		7		7
都立多摩職業能力開発センター府中校	介護職員新任者研修	14	14		28
調布市福祉人材育成センター	介護職員新任者研修		2		2
日本福祉大学	社会福祉士	7	11	6	24
杏林大学保健学部看護学科	公衆衛生			6	6
学校法人慈恵大学慈恵第三看護専門学校	老年看護学	7			7
学校法人慈恵大学慈恵第三看護専門学校	地域連携			3	3
東京都福祉保健財団	介護支援専門員			2	2
教員免許取得者介護等体験	介護体験		10		10
合計		122	44	17	183

※デイ・シ＝デイサービス及びショートステイ 包＝地域包括支援センター

居＝居宅介護支援事業所 訪＝訪問介護事業所

## ウ ボランティア等の状況

令和4年度においても、毎年恒例であった「ふうりん祭り」や「ボランティア懇親会」を中止するなど、新型コロナウイルスの影響を大きく受けたが、ボランティアの受け入れ総数は、延べ887人となり、令和3年度の延べ828人と比較して増加した。

(単位：人)

活動団体・内容等		活動先		合計
		特養	デイ・ショート	
クラブ・技術指導	書道	21	121	142
	詩吟	13		13
	編み物		80	80
	音楽リハビリ	21	88	109
	クラフトバンド		39	39
	絵手紙		23	23
	美術クラブ		31	31
	陶芸		122	122
	はり絵		47	47
	小計	55	551	606
生活全般	リネン類整理	206		206
諸活動	傾聴		23	23
	朗読			
	マッサージ			
	ドッグセラピー			
	紙芝居	27		27
	活動支援(活動の準備等)		25	25
	新年会			
	敬老会			
	バスハイク			
	音楽会			
	サマーボランティア			
	ふうりん祭り			
	施設周り清掃			
	ホーム喫茶			
福祉祭り				
小計	233	48	281	
合計		288	599	887

エ 特別養護老人ホーム 利用食数

月	朝食	昼食	夕食	月	朝食	昼食	夕食
4	2,878	2,879	2,878	10	2,797	2,796	2,796
5	2,979	2,975	2,976	11	2,626	2,625	2,625
6	2,915	2,917	2,916	12	2,705	2,706	2,707
7	2,978	2,980	2,977	1	2,676	2,681	2,678
8	2,980	2,980	2,974	2	2,454	2,456	2,460
9	2,669	2,676	2,674	3	2,807	2,805	2,806
				合計	33,464	33,476	33,467
				1日平均	91.7	91.7	91.7

オ 単独型短期入所生活介護 利用食数

月	朝食	昼食	夕食	月	朝食	昼食	夕食
4	450	374	454	10	506	414	505
5	494	417	488	11	510	428	512
6	445	365	443	12	525	428	526
7	524	429	527	1	494	405	486
8	516	427	517	2	458	378	460
9	499	411	500	3	395	395	486
				合計	5,816	4,871	5,904
				1日平均	15.9	13.3	16.2

カ 行事食献立一覧（特＝特養、シ＝ショートステイ、デ＝デイサービス）

月日	行事名	課名	献立内容
4月8日	花祭り献立	特・シ・デ	桜寿司、天ぷら、菜の花のお浸し、うどと人参の炒め、果物、おやつ（まんじゅう）
17日	いなり寿司の日	特・シ	夕食 いなり寿司
22日	選択メニュー	特・シ	牛丼又は味噌ラーメンから利用者が選択
29日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ2種)
5月5日	端午の節句膳	特・シ・デ	ちらし寿司、天ぷら、若竹煮、おすまし、果物、(おやつ：上生菓子(こいのぼり))
10日	ホーム喫茶	特・シ・デ	ケーキ2種類、練り切り、サンドイッチ、りんごジュース、コココーラ
17日	いなり寿司の日	特・シ	夕食 いなり寿司
27日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ2種)
6月11日	選択メニュー	特・シ	うな丼又はジャージャー麺から利用者が選択
17日	いなり寿司の日	特・シ	夕食 いなり寿司
28日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ2種)
7月7日	七夕献立	特・シ・デ	七夕そうめん、天ぷら、冬瓜のかにあん、果物、(おやつ：やわらか和菓子)
8日	ホーム喫茶	特・シ・デ	ケーキ2種類、練り切り、サンドイッチ、ぶどうジュース、カルピスソーダ
17日	いなり寿司の日	特・シ	夕食 いなり寿司
23日	土用の丑	特・シ・デ	うな丼、おすまし、果物

29日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ2種)
8月5日 15日 17日 27日	選択メニュー 終戦記念日 いなり寿司の日 お誕生日ケーキの日	特・シ 特・シ・デ 特・シ 特	かきあげ丼又はかきあげそばから利用者が選択 すいとん 夕食 いなり寿司 バイキング形式(ケーキ2種)
9月10日 12日～18日 17日 18日 21日 23日	十五夜献立 敬老祝い膳 いなり寿司の日 敬老祝い膳 お彼岸 お誕生日ケーキの日	特・シ・デ デ 特・シ 特・シ 特・シ・デ 特	昼 月見うどん 間 月見まんじゅう 赤飯、天ぷら、煮物、和え物、おすまし(松花堂弁当) (間食) 祝まんじゅう 夕食いなり寿司 赤飯、天ぷら、煮物、和え物、おすまし(松花堂弁当) (間食) 祝まんじゅう おはぎが「伊乃」(やわらかおはぎ・あん・ごま・きなこ) バイキング形式(ケーキ2種)
10月17日 21日 28日	いなり寿司の日 秋の味覚献立 お誕生日ケーキの日	特・シ 特・シ 特	夕食 いなり寿司 松茸ごはん、土瓶蒸し風、さつまい、柿 バイキング形式(ケーキ2種)
11月15日 17日 25日 25日	ホーム喫茶 いなり寿司の日 お寿司 お誕生日ケーキの日	特・シ・デ 特・シ 特・シ 特	ケーキ2種、上生菓子、お好み焼き、カルピスソーダ、 ぶどうジュース 夕食 いなり寿司 にぎり寿司バイキング バイキング形式(ケーキ2種)
17日 17日 18日 19日 20日 21日 22日 22日 25日 31日	クリスマス会 いなり寿司の日 クリスマス会 クリスマス会 クリスマス会 冬至 冬至 クリスマス会 クリスマスメニュー お誕生日ケーキの日 年越し	デ 特・シ シ デ デ 特 特・シ・デ 特 特・シ・デ 特・シ	間食 チョコレートムース 夕食 いなり寿司 間食 クリスマスケーキとシャンメリー 間食 チョコレートムース 間食 チョコレートムース 間食 ゆずまんじゅう 間食 ゆずまんじゅう 夕食 南瓜のいとこ煮 間食 クリスマスケーキとシャンメリー (昼食) 鶏肉の香草焼き、(夕食) ミートローフ (間食) クリスマスケーキとシャンメリー バイキング形式(ケーキ2種) 年越しそば(海老天そば)
1月1日 4日～6日 7日 11日 15日 17日 18日 28日	元旦 新年会 七草粥 鏡開き 小豆粥 いなり寿司の日 ホーム喫茶 お誕生日ケーキの日	特・シ デ 特・シ 特・シ・デ 特・シ 特・シ 特・シ・デ 特	おせち料理、雑煮、(おやつ:ねりきり・甘酒) おやつ 千支饅頭 七草粥 おしるこ 小豆粥 夕食 いなり寿司 ケーキ2種類、上生菓子、サンドイッチ、サイダー、 リンゴジュース バイキング形式(ケーキ2種)
2月3日 17日 24日	節分献立 いなり寿司の日 お誕生日ケーキの日	特・シ・デ 特・シ 特	(昼食) 大豆の煮物、つみれ汁 (間食) 練りきり「鬼」、夕食 恵方巻き 夕食 いなり寿司 バイキング形式(ケーキ2種)
3月3日 9日 17日 22日 25日 25日	ひな祭り献立 ホーム喫茶 いなり寿司の日 お彼岸 にぎり寿司 お誕生日ケーキの日	特・シ・デ 特・シ・デ 特・シ 特・シ・デ 特・シ 特	ちらし寿司、刺身、高野豆腐の煮物、菜の花浸し、果物 ケーキ2種類、上生菓子、お好み焼き、オレンジジュース、甘酒 夕食 いなり寿司 ぼたもちバイキング(やわらかぼたもち・あん・ごま・きなこ) 夕食 にぎり寿司 バイキング形式(ケーキ2種)

※ 朝食は、「ごはん食」か「パン食」の選択メニューを毎日行っている。

## 2 福祉課

### (1) 重点事項への取組

#### ア 利用者の尊厳の尊重

利用者個々の思いを大切にしたケアプランの作成を心掛け、多職種間で連携を図りながら利用者本位のサービス提供に努め、利用者の心身の状況に応じた健康管理と生活支援を提供することができた。

また、ちょうふの里コンプライアンスマニュアルにある期待する職員像を目指し、利用者の尊厳を尊重して日常の業務を適正に遂行するよう努めた。

#### イ 利用者支援の充実

新型コロナウイルス感染症のクラスター発生に伴い、多くの季節行事やレクリエーション活動は中止、日々の生活でも様々な制限を余儀なくされた。

終息後には職員が工夫を凝らした季節行事や余暇活動を再開し、例年になく数少ない機会ではあったが、日常の中に変化を感じられる生活の場の提供に取り組んだ。

新型コロナウイルス感染症のクラスター発生事例を基に感染対応の見直しを行った。日々の感染予防と初期対応を重点に、利用者の日々の健康観察や簡易検査の積極的な実施、ゾーニングの方法にも焦点を置き、感染症予防対策を講じた。

#### ウ 職員・人材育成の充実

外部研修はWEBでの研修が中心ではあったが、一部の集合研修にも参加ができた。施設内各種委員会が主体となる施設内研修とは別に課内研修を実施、適切な排泄介助、移動移乗介助、感染症対応等、演習を中心とした研修を行い、日々のケアで活用できる内容を中心に技術や知識を深めることができた。

新型コロナウイルス感染症のクラスター発生に伴い、一部実習生の受け入れを中止する期間も発生したが、社会福祉士や介護福祉士などの実習生の受け入れを可能な限り行った。

また、学習カリキュラムの変更や日程調整など各種学校とも情報交換を密に行い、福祉を志す人材を大切に育成にする体制づくりを進めた。

#### エ 利用者家族との連携

新型コロナウイルスの感染状況に応じ、利用者家族の面会の制限を設けるなどの対策を講じてきたが、面会スペースをリニューアルして環境整備を行い、検温、消毒、マスクの着用等の基本的な感染対策を講じた上で接触面会を可能とし、利用者及び家族からも好評を得た。

また、面会時のケアプラン説明や、電話連絡等での情報提供を積極的に行い、利用者の日々の生活状況や心身の変化について共有を図るとともに、時

宜カンファレンスの機会を設け、家族との相互理解を深めることができた。

(2) 実績報告（特別養護老人ホーム：利用定員100人）

ア 年齢別利用者状況

平均年齢は87.3歳と令和3年度に比べ0.2歳下降した。90歳以上のポイント下降したことが要因となっている。

令和5年3月31日現在（単位：人）

No.	年 齢 別	男	女	合計	構成比(%)
1	65歳未満	0	0	0	0.0
2	65歳以上 70歳未満	0	0	0	0.0
3	70歳以上 75歳未満	1	0	1	1.1
4	75歳以上 80歳未満	2	9	11	11.8
5	80歳以上 85歳未満	6	12	18	19.3
6	85歳以上 90歳未満	7	18	25	26.9
7	90歳以上 95歳未満	5	19	24	25.8
8	95歳以上 100歳未満	0	13	13	14.0
9	100歳以上	0	1	1	1.1
合計		21	72	93	100.0
最高年齢 (歳)		93	100	—	—
最低年齢 (歳)		71	76	—	—
平均年齢 (歳)		85.0	88.0	87.3	—

イ 在籍期間

平均在籍期間は3年5か月と若干短縮した。5年以上が計4.3ポイント下降し、1年から2年未満が10ポイント上昇した。

令和5年3月31日現在（単位：人）

No.	期 間	男	女	合計	構成比(%)
1	1年未満	7	10	17	18.3
2	1～2年未満	5	13	18	19.3
3	2～5年未満	7	31	38	40.9
4	5～10年未満	2	17	19	20.4
5	10年以上	0	1	1	1.1
合計		21	72	93	100.0
平均在籍期間		—	—	3年5か月	—

## ウ 退所状況

前年度に比べ退所者数が増加し25人となり、退所者の平均年齢は0.2ポイント下降、平均介護度は0.3ポイント上昇した。

No.	性別	年齢	退所月	保険者	退所理由	在籍期間	要介護
1	女	99	5月	府中市	長期入院加療	14年 6か月	5
2	女	80	5月	府中市	長期入院加療	4年 5か月	4
3	女	94	7月	調布市	入院先で死亡	13年 3か月	3
4	女	87	8月	府中市	長期入院加療	1年 3か月	5
5	女	100	8月	調布市	施設で永眠	4年 6か月	4
6	男	80	9月	府中市	長期入院加療	8か月	5
7	女	100	9月	三鷹市	入院先で死亡	7年 0か月	5
8	女	84	9月	三鷹市	長期入院加療	5年 2か月	5
9	女	80	10月	調布市	長期入院加療	2年11か月	5
10	女	91	10月	調布市	入院先で死亡	6年 3か月	5
11	女	85	10月	府中市	長期入院加療	4か月	4
12	女	99	10月	調布市	入院先で死亡	5年 2か月	5
13	女	88	11月	調布市	入院先で死亡	6か月	5
14	女	93	11月	調布市	在宅復帰	2年 8か月	5
15	女	97	11月	府中市	入院先で死亡	5年 7か月	4
16	男	84	11月	調布市	長期入院加療	2年11か月	5
17	女	103	11月	府中市	施設内で永眠	9年 3か月	5
18	女	91	12月	府中市	長期入院加療	7年10か月	5
19	女	78	12月	調布市	入院先で死亡	1か月	5
20	男	85	1月	府中市	長期入院加療	5年 0か月	5
21	女	95	1月	三鷹市	長期入院加療	4年 8か月	5
22	女	80	2月	調布市	長期入院加療	8年 4か月	5
23	男	83	2月	調布市	長期入院加療	1か月	4
24	女	95	3月	調布市	長期入院加療	1年 7か月	5
25	女	93	3月	府中市	長期入院加療	3年 4か月	5
平均		89.4	—	—	—	4年 9か月	4.7

## エ 月別要介護度分布表

要介護5の利用者が11.6ポイント大きく上昇し58.2%となり、利用者の重度化が目立った。

(単位：人)

月	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均要介護度
4	0	2	9	37	50	4.4
5	0	2	10	37	50	4.4
6	0	3	10	35	50	4.3
7	0	3	10	35	51	4.4
8	0	3	9	36	50	4.4
9	0	3	9	36	48	4.3
10	0	3	9	33	49	4.4
11	0	3	8	34	47	4.4
12	0	3	7	37	45	4.3
1	0	3	7	36	43	4.3
2	0	3	8	33	47	4.4
3	0	3	7	35	48	4.4
構成比(%)	0.0	1.4	6.2	34.2	58.2	4.4

#### オ 月別利用実績

年間利用率は3.5ポイント目標値に至らず達成できなかった。

(単位：日)

月	延べ利用日数	延べ利用可能日数	利用率(%)
4	2,898	3,000	96.6
5	2,977	3,100	96.0
6	2,925	3,000	97.5
7	3,011	3,100	97.1
8	2,957	3,100	95.4
9	2,757	3,000	91.9
10	2,842	3,100	91.7
11	2,658	3,000	88.6
12	2,745	3,100	88.5
1	2,714	3,100	87.5
2	2,465	2,800	88.0
3	2,803	3,100	90.4
合計	33,752	36,500	92.5

### 3 高齢者在宅サービスセンター（通所部門）

#### (1) 重点事項への取組

##### ア 新型コロナウイルス感染予防の強化と緩和

令和4年度も利用者に限らず職員も含め多くの人が新型コロナウイルスに感染した。利用者の自粛もあり、8月、9月の利用率が低下したが、皆、重篤な状況に陥ることなく、事業運営を継続することができた。

また、8月から9月にかけて特別養護老人ホームでクラスターが発生したため、職員の応援を行った。

行事については、敬老の集い、運動会と中止を余儀なくされたが、敬老の集いで準備していた職員の出し物をクリスマス会で披露した。クリスマス会については、職員の自発的な働きで、1日の予定を3日間に延長し、周囲の感染の状況に合わせて柔軟な対応を行った。

##### イ 在宅生活を継続するための支援

令和4年度も理学療法士による機能訓練において筋力、バランス力の向上に努めた。機能訓練加算の対象者については、利用者、家族から定期的なモニタリングで機能の推移が良くわかると好評の声を多くいただいた。

認知機能に対しては\*デュアルタスク（二重課題）トレーニングを通して楽しみながらの機能訓練を行い、心身の活性を目指した。

入浴に関しては、これまで意見書の提出からアセスメントの作成まで時間を要していたが、ケアマネからの情報を事前に職員へ周知することでより円滑に入浴ができるよう体制を整えた。

送迎に対しては、すべての車両が直営方式になったことで、家族ときめの細かい情報伝達ができるようになった。

\*「デュアルタスクトレーニング」とは、1度に2つ以上のことを同時に行いながらする訓練方法。例えば、足踏みをしながら人の名前を挙げていくなど。

##### ウ 職員育成の強化

職員の高齢化、利用者の重度化に伴い、入浴時の介護技術にばらつきが見られ始めていたことから、デイ会議において機械浴、トランスファー（移乗動作）の研修を実施した。振り返りに焦点を絞ることによって、基本を見直し応用に繋げられることを皆で確認した。

また、コロナ禍では、必然的に前例を踏襲することが難しくなったことから、より新しい発想のもとに行事遂行や利用者、家族へのケアに向き合うとともに、業務においては職員間の活発な意見交換で効率性も促進することができた。

##### エ 家族支援の再開

年間4回に渡って、家族の悩みをアンケート用紙に記入していただき、「絆の会だより」としてリーフレットにまとめ、家族の心情の吐露、職員の問題解決への逡巡、回答といったものを紙面に掲載し、コロナ禍における家族支援を模索した。

#### オ 安心・安全の配食と安否確認の実施

令和4年度は委託業者や配食車もすべて新しくなり、戸惑うことも多かったが、ミーティングでの確認作業の徹底を図り、新型コロナウイルスの感染拡大防止や食中毒の防止のみならず、誤配などの事故も最小限にすることができた。

## (2) 実績報告

### ア 通所介護利用実績（一日の利用定員40人）

年間利用率は前年度の67.4%から72.4%と5.0ポイント上昇した。

8月から9月にかけて特別養護老人ホームでのクラスターがあり、職員の応援や利用者の利用自粛により利用率が低下することとなったが、年間平均としては前年度を上回った。

(単位：人)

月	利用延べ人数	送迎利用者数	入浴利用者数	利用日数(日)	利用率(%)
4	771	1,538	276	26	74.1
5	766	1,531	277	26	73.7
6	803	1,606	281	26	77.2
7	771	1,539	273	26	74.1
8	670	1,339	256	27	62.0
9	559	1,116	232	26	53.8
10	816	1,632	296	26	78.5
11	790	1,579	294	26	76.0
12	718	1,432	251	24	74.8
1	712	1,423	260	24	74.2
2	719	1,435	256	24	74.9
3	823	1,636	289	27	76.2
合計	8,918	17,806	3,241	308	72.4
1日平均	29.0	57.8	10.5	—	—

イ 認知症対応型通所介護利用実績（一日の利用定員12人）

令和4年度、認知症対応型においては、前年度より新型コロナウイルス感染症で自粛に傾く利用者は減少した。しかしながら、3月に体調を崩し、入院となる利用者が増加したこと、年間を通してちょうふの里のショートステイを定期的に利用する利用者が増加したことから、前年度72.8%であった利用率は令和4年度68.5%と4.3ポイント減少する形となった。

（単位：人）

月	利用延べ人数	送迎利用者数	入浴利用者数	利用日数（日）	利用率（%）
4	219	438	81	26	70.2
5	226	450	78	26	72.4
6	226	452	94	26	72.4
7	232	452	102	26	74.4
8	198	396	92	27	61.1
9	158	316	63	26	50.6
10	221	442	96	26	70.8
11	227	453	93	26	72.8
12	198	394	87	24	68.8
1	213	425	93	24	74.0
2	207	414	92	24	71.9
3	207	412	91	27	63.9
合計	2,532	5,044	1,062	308	68.5
1日平均	8.2	16.4	3.4	—	—

ウ 介護保険外（調布市受託）事業利用実績

(ア) 通所入浴サービス

延べ利用者は、令和3年度103人に対し、令和4年度は108人と、利用状況はほぼ横ばいであった。3月に登録者の1人が死去された。

(イ) 配食サービス

令和3年度21,254食から令和4年度18,688食と2,566食の大幅な減食となった。要因として、「新規」「変更」「継続」などの手続きが煩雑であることが挙げられ、毎年、食数は減少している。

（単位：人）

月	通所入浴サービス (1日の定員8人)	配食サービス (1日の食数、昼夕合計200食)
4	7	1,612
5	9	1,770

月	通所入浴サービス (1日の定員8人)	配食サービス (1日の食数、昼夕合計200食)
6	10	1,675
7	10	1,660
8	8	1,675
9	10	1,528
10	9	1,609
11	10	1,532
12	10	1,548
1	8	1,419
2	9	1,266
3	8	1,394
合計	108	18,688
1日平均	0.4	51.2

## エ 通所介護要介護分布表

年間利用者数では、要介護5で令和3年度200人に対し令和4年度186人と減少した。要介護3は令和3年度585人に対し令和4年度876人、要介護4は令和3年度366人に対し令和4年度513人と要介護3と4は大幅に増加した。

(単位：人)

月	事業 対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4	0	29	110	257	248	70	44	13	771
5	0	29	105	256	255	69	47	5	766
6	0	24	98	297	250	73	47	14	803
7	0	27	89	284	234	79	42	16	771
8	0	24	80	241	207	61	43	14	670
9	0	16	59	196	192	55	26	15	559
10	0	30	92	290	241	87	61	15	816
11	0	25	100	285	239	83	42	16	790
12	0	28	89	255	212	69	52	13	718
1	0	30	85	250	212	73	48	14	712
2	0	33	89	243	227	77	30	20	719
3	0	32	113	286	250	80	31	31	823
合計	0	327	1,109	3,140	2,767	876	513	186	8,918
比率(%)	0	3.7	12.4	35.2	31.0	9.8	5.8	2.1	-

1日平均	0	1.1	3.6	10.2	9.0	2.8	1.7	0.6	29.0
------	---	-----	-----	------	-----	-----	-----	-----	------

#### オ 認知症対応型通所介護要介護分布表

令和3年度は要介護4、5の比率合計が33.9%であったが、令和4年度も更に35.5%と1.6ポイント上昇した。これは他のデイサービスを行動・心理症状で断られた利用者や医療的ニーズの高い利用者を数多く受け入れたことに起因している。

(単位：人)

月	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4	0	0	46	32	77	23	41	219
5	0	0	51	35	75	29	36	226
6	0	0	46	34	78	29	39	226
7	0	0	50	25	82	35	40	232
8	0	0	40	21	73	32	32	198
9	0	0	34	19	50	32	23	158
10	0	0	46	25	63	54	33	221
11	0	0	51	25	66	50	35	227
12	0	0	49	16	54	46	33	198
1	0	0	50	14	59	56	34	213
2	0	0	59	16	54	42	36	207
3	0	0	63	18	37	52	37	207
合計	0	0	585	280	768	480	419	2,532
比率(%)	0	0	23.1	11.1	30.3	19.0	16.5	-
1日平均	0	0	1.9	0.9	2.5	1.6	1.4	8.2

#### 4 高齢者在宅サービスセンター（短期入所部門）

##### (1) 重点事項への取組

##### ア 利用者援助の充実

利用者の身体状況の変化に合わせてご家族や担当ケアマネジャーと情報の共有を図り、介助方法のポイントを押さえながら介護計画書の内容を見直し、利用者が安全、安心して利用できるよう努めた。

##### イ 事故の再発防止

歩行状態や嚥下状態の変化が著しい利用者について転倒や誤嚥のリスクが高まるため、日々の状態を観察したうえで多職種での意見交換のもと移動手段や食種形態の見直し等を随時行いながら事故のリスク回避に努めた。

##### ウ 感染症対策

令和3年度に作成したBCPをもとに、施設に感染を持ち込まない対策として手洗いや消毒の徹底、利用者のマスク着用の促しを行うとともに、利用中体調不良者が出た場合は、速やかに施設内で簡易検査を行い、感染の有無の確認に努めた。

また、職員についても体調不良の時は報告・相談・連絡を徹底し、感染拡大防止に努めた。

#### エ 職員育成

ショート内での課題を抽出し、6月9日「事故防止と認知症について」、6月28日、7月5日「オムツの用途と使い方について」、8月1日「レクリエーションについて」、8月19日、11月9日「紙おむつの選び方、当て方について」、9月30日、10月7日「感染症対策について」、2月1日「スピーチロックをなくすには?」、2月2日「高次脳機能障害について」、2月28日に「アンガーマネジメントについて」の計8つのテーマで勉強会を実施した。コロナ禍のため、感染状況を鑑み書面開催のものもあったが、大半の勉強会は感染対策を行いながら職員が集まって開催をし、意見交換を活発に行いながら資質の向上を図った。

#### オ 安定した事業運営

これまで同様に営業活動を継続して行き、そこで利用者の近況報告や新たな新規の問い合わせなど各事業所のケアマネジャーとのやりとりを行う中で関係の構築を図り実績の向上に努めた。

### (2) 実績報告（ショートステイ：利用定員20人）

#### ア 利用実績

新規利用者は令和3年度の57人に対し、令和4年度は70人の契約締結であった。また、廃止利用者は令和3年度の34人に対し、29人であった。

上期3ヶ月は目標値に及ばなかったものの、その後は目標値を超え安定した実績を維持し、年間目標値の92%を超える結果となった。

(単位：人)

区分	新規利用者	廃止利用者	利用実人数	利用延べ人数	稼働日数(日)	月毎の利用率(%)
4月	5	6	67	532	30	88.7
5月	6	1	66	565	31	91.1
6月	7	4	66	524	30	87.3
7月	7	0	77	621	31	100.2
8月	4	0	75	607	31	97.9
9月	8	2	70	588	30	98.0
10月	6	1	75	598	31	96.5
11月	4	4	71	596	30	99.3

12月	9	0	79	622	31	100.3
1月	7	5	74	575	31	92.7
2月	1	4	71	541	28	96.6
3月	6	2	75	577	31	93.1
合計	70	29	866	6,946	365	95.2

- ※ 7月の利用延べ人数には、「調布市生活支援ショート」による利用者（介護保険非該当）の「23人分」を含む。
- ※ 8月の利用延べ人数には、「調布市生活支援ショート」による利用者（介護保険非該当）の「6人分」を含む。
- ※ 12月の利用延べ人数には、「調布市生活支援ショート」による利用者（介護保険非該当）の「4人分」を含む。
- ※ 1月の利用延べ人数には、「調布市生活支援ショート」による利用者（介護保険非該当）の「3人分」を含む。
- ※ 3月の利用延べ人数には、「調布市措置利用」による利用者（介護保険該当）の「3人分」を含む。

## イ 要介護分布表

令和3年度は要支援1及び2の利用者が2.4%に対して、令和4年度は1.9%と0.5ポイントの減少、要介護1から3は令和3年度51.3%に対して令和4年度は58.5%と7.2ポイント増加となった。この中には、認知症による行動障害が見られる利用者も多く含まれており、家族の負担軽減から利用日数が増加となったケースが多い。

また、要介護4及び5は、令和3年度45.3%に対して令和4年度は39.0%と6.3ポイント減少となった。令和3年度と比較し医療的ニーズの高い方の受け入れはこれまで同様に多いものの、体調が安定せず利用前にキャンセルとなるケースや利用中に体調不良から緊急退所となり利用期間が短縮となるケースが多くあったことが減少の大きな理由である。

(単位：人)

月	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	生活支援等	合計
4	4	6	90	52	139	150	91	0	532
5	4	6	94	80	174	139	68	0	565
6	4	0	87	75	179	100	79	0	524
7	4	6	129	68	176	147	68	23	621
8	4	7	116	65	189	147	73	6	607
9	3	10	93	69	179	151	83	0	588
10	4	7	86	81	170	162	88	0	598
11	0	13	97	76	162	171	77	0	596
12	0	10	119	79	169	152	89	4	622
1	0	14	111	88	131	163	65	3	575
2	0	16	93	65	133	171	63	0	541
3	3	9	99	97	151	133	82	3	577
合計	30	104	1,214	895	1,952	1,786	926	39	6,946
比率	0.4%	1.5%	17.5%	12.9%	28.1%	25.7%	13.3%	0.6%	100%

## 5 地域支援課

### (1) 重点事項への取組

#### ア 地域包括支援センター

##### (ア) メイン・サブセンターの運営

基本三職種（社会福祉士・主任介護支援専門員・保健師等）は、メイン・サブセンター担当者それぞれが、地域ケア会議等の事業を協同するなど専門性を高めるとともに、見守りネットワーク事業、認知症地域支援推進及び医療福祉連携強化は、担当者を中心に事業の強化を図った。

##### (イ) 総合相談支援業務の充実

高齢者の総合相談窓口として、多様化する相談に対応できるよう「包括的・継続的ケアマネジメント」、「虐待防止・権利擁護」、「介護予防支援」などの地域包括支援センターの基本的な機能に加え、「認知症支援・医療福祉連携」について、プランナーを含め、メイン・サブセンターの全スタッフが協同し総合相談事業を行った。

##### (ウ) 関係機関との連携強化

「地域包括ケアシステム」の構築に向けた取り組みについては、地域包括支援センターが中核となって、「地域ケア会議」や「関係者会議」を企画・開催した。新型コロナウイルスの感染予防に配慮し、地域ケア会議や関係者会議をはじめ、他の包括との専門職部会の会議も、オンラインホスト（主催者）としてWEB上で行った。医療依存の高いケースや虐待等複合問題ケースへの協働支援を通じて、地域の医療や福祉機関との他職種連携の強化を図ることができた。

#### イ 居宅介護支援事業所

##### (ア) 収支の安定と信頼されるケアマネジメントの実施

併設の地域包括支援センターと連携して、新規利用者の獲得を迅速に行った。中でも困難ケースの相談があったときは、情報共有や連携を取ったうえで、意欲的に担当した。

また、特定事業所加算Ⅱの加算要件を各職員が遵守し、質の高いケアマネジメントを実施した。

##### (イ) 介護支援専門員の質の向上

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、研修等の学びの場も人数制限による開催やリモートでの実施など、様々な形で行われたが、積極的に参加して知識やケアマネジメント技術の向上に努めた。

また、毎週実施する「ケアマネ会議」を活用して、介護保険制度や社会資源、困難ケースの対応について、情報の共有を行い、事業所としての質

の向上に努めた。

#### ウ 訪問介護事業所

##### (ア) 介護の専門職としてのサービス提供

業務管理ツール「けあピアノート」の導入により、サービス提供責任者とヘルパーとの連絡や申し送りが簡単、かつ正確に行うことができるようになり、加えて事務量を大幅に軽減することに成功した。そのことが、ヘルパーの専門職としての意識向上に結び付き、結果的にサービスの質の向上を図ることができた。

また、月に一度のヘルパー会議を活用して、情報共有やスキルアップ研修を行い、訪問介護員としてのスキル向上に努めた。

##### (イ) 経営の安定

併設の居宅介護支援事業所との連携をより深めて、新規ケースの取得に努めた。

また、実態と整合性を図るためにキャンセル料や保険外サービスの利用料の見直しを行うとともに、訪問介護員の離職防止の対応として身体介護手当を設け、以前からの課題を克服した。

## (2) 実績報告

### ア 地域包括支援センター 区分別相談件数

サブセンター設置後、来所の相談数が若干ではあるが増加した。総数については、毎年増加している。

(単位：件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
電話	362	410	370	384	404	381	422	423	430	465	377	379	4,807	400.6
来所	53	30	37	35	41	50	54	49	41	41	28	54	513	42.8
訪問	125	138	160	137	136	141	140	136	150	137	135	154	1,689	140.8
その他	12	7	10	9	8	6	9	6	12	10	16	16	121	10.1
合計	552	585	577	565	589	578	625	614	633	653	556	603	7,130	594.2

### イ 地域包括支援センター 相談内容別件数

「保健医療」の相談については、医療機関側の「入退院連携加算」もあり、医療機関から入院時の相談が増えている。

「介護相談」は少なく、「認知症相談」では、「経済・住宅問題」も並行して問題を抱えているケースが増えている。

また、家庭不和や精神疾患・障害のある家族を抱えるケース等の「家族問題」については月平均約35件（前年25件）あり、支援はより複雑に

なっている。

(単位：件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
保健医療	179	205	211	216	218	203	217	217	228	236	181	175	2,486	207.2
介護保険	207	209	150	159	179	200	209	200	179	245	174	165	2,276	189.7
予防給付	179	196	197	200	167	156	189	183	188	190	180	164	2,189	182.4
総合事業	118	105	123	78	125	109	118	96	131	104	99	117	1,323	110.3
ケアマネ支援	9	9	5	7	13	9	26	10	11	8	12	20	139	11.6
介護相談	18	15	12	14	24	15	12	20	6	28	8	13	185	15.4
認知症相談	23	37	18	19	18	25	29	37	23	24	17	28	298	24.8
経済・住宅問題	9	13	20	18	22	23	25	29	41	19	22	30	271	22.6
家族問題	33	29	21	30	37	35	62	34	31	40	22	43	417	34.8
権利擁護 (成年後見)	6	4	12	4	8	1	6	5	9	8	2	1	66	5.5
権利擁護 (地権・その他)	2	7	3	10	5	9	5	13	5	14	12	13	98	8.2
虐待相談	10	7	11	8	18	19	21	15	9	6	9	31	164	13.7
その他	95	82	98	89	85	96	66	82	108	119	107	126	1,153	96.1
合計	888	918	881	852	919	900	985	941	969	1,041	845	926	11,065	922.1

#### ウ 地域包括援センター 調布市一般施策相談件数

紙おむつの給付については、利用要件が要介護3以上ベースのため相談件数、申請数ともに前年度同様、大きく減っているが、在宅介護の重度化で日常生活用具の防水シーツの申請が例年より多かった。

配食サービスについては、民間事業所の自由度の高いサービス（副食のみでも配達可能、選択メニュー、翌日から変更可能など）や付加サービス（買い物サービスの併用・安否確認機能など）により、民間サービスを選択する利用者が増え続けている。

(単位：件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
配食サービス	8	2	2	1	7	5	5	3	3	2	9	4	51	4.3
日常生活用具	4	7	8	4	0	1	7	12	7	6	9	2	67	5.6
おむつの給付・助成	11	21	15	12	16	14	23	16	12	12	8	12	172	14.3

緊急通報システム	9	13	8	1	6	7	24	10	17	10	12	8	125	10.4
徘徊探知器	3	8	0	0	0	2	0	4	3	0	3	1	24	2.0
その他	1	2	2	8	7	5	11	4	2	4	4	2	52	4.3
合計	36	53	35	26	36	34	70	49	44	34	45	29	491	40.9

### エ 地域包括支援センター 実態把握件数

月平均約92.8件の実態把握を行った。新規相談に対しては迅速に訪問し、ニーズの確認やサービス調整等の実態把握を行った。

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
実態把握	125	84	99	73	89	89	103	90	92	108	75	87	1,114	92.8

### オ 地域包括支援センター 見守りネットワーク 連絡件数

通報は、隣人・知人からが最も多く、次いで民生委員によるものが多かった。最近は商店からの通報も増えている。

PR活動として、地域包括支援センター圏域変更と、サブセンターの開設について広報紙を年3回発行し、市民・地域の関係機関に配布した。認知症サポーター養成講座や小地域交流事業、地域文化祭、介護教室、介護予防等の住民講座でも「みまもっと事業」のPRを行った。

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
通報	9	7	5	8	10	5	5	6	11	10	6	7	89	7.4

### カ 地域包括支援センター 予防プラン作成数

(介護予防支援・介護予防ケアマネジメント)

予防プラン作成は、センター業務の半分近いウエイトを占めている。

福祉用具貸与や訪問看護のサービス併用者は多く、「介護予防支援」のプランが総合事業単体の「介護予防マネジメント」を大きく上回っている。

#### (ア) 介護予防支援

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
直接作成	120	121	121	117	123	123	129	129	124	121	112	116	1,456	121.3
委託作成	36	36	36	38	41	41	37	40	40	40	42	41	468	39.0
合計	156	157	157	155	164	164	166	169	164	161	154	157	1,924	160.3

(委託率24.3%)

※ 「介護予防支援」は、総合事業に加え、訪問看護、福祉用具貸与等を利用するプランもしくは、訪問看護、福祉用具貸与のみ利用するプラン

(イ) 介護予防マネジメント（総合事業対象者を含む）

（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
直接作成	77	79	79	76	64	64	69	70	65	64	66	67	840	70.0
委託作成	38	38	38	38	34	34	35	36	35	33	29	31	419	34.9
合計	115	117	117	114	98	98	104	106	100	97	95	98	1,259	104.9

（委託率33.2%）

※ 「介護予防マネジメント」は、総合事業（通所介護、訪問介護）のみ利用するプラン

キ 居宅介護支援事業所の居宅サービス計画書作成件数

前年度の2,155件と比較すると59件増加し、年間2,214件となった。また、末期がん等より支援期間が2～3か月と短期間で終了するケースも増加した。

（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
国保連請求	178	181	184	195	190	180	189	181	190	181	187	178	2,214	184.0

ク 居宅介護支援事業所の要介護・要支援認定調査件数

令和4年度も新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、臨時的な取り扱いとしての介護保険証の有効期間の1年延長を希望する方が多いため、認定調査件数は令和3年度から横ばいとなっている。

（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
認定調査	4	3	2	8	4	5	2	6	6	8	6	8	62	5.1

※ 施設認定調査含む

ケ 訪問介護事業所の訪問介護派遣状況

介護保険派遣時間については、新規利用者の積極的な取得の成果として、令和3年度の月平均を100時間アップすることができた。障害サービス派遣時間は、利用者の増減がなかったため、変動は見られなかった。保険外派遣時間については、ニーズが増えてきていることから令和3年度より65時間増加した。

(単位：時間)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
介護保険派遣時間	399	452	488	433	435	430	434	458
障害サービス派遣時間	23	33	33	25	25	25	25	25
介護保険外派遣時間	9	9	11	8	4	2	7	13
訪問介護派遣時間合計	431	494	532	466	464	457	466	496

(下段に続く)

区分	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
介護保険派遣時間	466	414	392	439	5,240	437
障害サービス派遣時間	25	25	15	15	294	25
介護保険外派遣時間	12	39	45	56	215	18
訪問介護派遣時間合計	503	478	452	510	5,749	480

※ 派遣時間については、分の単位30分以上を切り上げて1時間とし、30分未満は切り下げて計算している。

## V 上布田保育園

### 第1 総括

新型コロナウイルスと共存する生活が続く中、感染予防によって変化をもたらした園生活の中でも、子どもにとっての最善とは何かという視点から保育一つひとつの在り方を考え選別し、発展させていくことに力を注いだ。特に行事の在り方においては、そこに至るまでの経過を大切にし、その過程を保護者にも細やかに発信することで日々の育ちを実感し、当日は大きな保育参観としてありのままの姿を見てもらうことで、子どもの主体的な活動の様子や、そこからの学び、育ちへの理解を深めることができた。

また、コロナ禍において保護者同士が知り合い交流する機会が失われ、子育ての仲間作りが難しい中で、保護者同士が知り合う機会として「子どもを真ん中にプロジェクト」による桜の木を使ったクラスプレート作りを2回開催した。作業をしながら、子育てのこと、保育園のこと、父母会のことなど話は尽きず、保護者集団の構築も保育園の大きな役割であると実感した。

保育環境の充実としては、2階テラスに人工芝、築山、ウッドデッキを設置し、それぞれの発達に見合った活動が繰り広げられる環境を目指し、改装工事をした。そこに至るまでには乳児会議で発達を検証し、最善の環境作りをするために何度も話し合いを重ね、職員の思いが詰まった、どの子にとっても居心地のいい空間を作ることができた。今後は新年度を迎え、新たな低月齢の子どもたちが活動する様子を見ながら、更なる最善の環境作りに取り組んでいきたい。

保育運営では、保育システムを導入し、一年をかけて指導計画や児童票等の移行を行った。園児の登降園管理や保護者への請求業務等もシステム内で行えるようになり、事務軽減にも繋がった。11月には保護者アプリも導入し、毎月のおたより、日々のドキュメンテーションや保育の様子も配信できるようになり、保護者との情報共有にも役立っている。今後、上手に活用していくことで、保育園運営への理解や思いの共有にも役立てていきたい。

### 第2 経営実績

#### 1 定員

(単位：人)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
定員	6	10	12	18	22	22	90
実数	8	12	14	21 (2)	22 (1)	21 (1)	98

※( )内は、障がい児の受入れ数

#### 2 利用率

(単位：%)

事業名	令和4年度 実績	令和3年度 実績
上布田保育園	108.9	108.9

### 第3 事業報告

#### 1 重点事項への取組

##### (1) 中期経営計画への取組

中期経営計画に基づき、保育環境の整備として2階テラスの改修工事、修繕計画の遂行として、調理室ガス遮断弁交換工事、プールの防水工事を行った。

また、保育者の事務軽減や業務の効率化を図るために導入した保育システムについては、細やかな計画のもと、機能の一つひとつを確認しながら取り入れた。システムを活用することで、少しずつ事務軽減にも繋がってきている。

保護者支援としてはコロナ禍でもできることを取り入れ、「子どもを真ん中にプロジェクト」の立ち上げや、対面での全体保護者会、クラス懇談会を開催し、保護者との信頼関係の構築や、保護者同士の交流の場の提供に取り組んだ。

毎月の運営会議の中で進捗状況を確認しながら、計画を遂行していけるように努めた。

##### (2) 豊かな育ちを促す保育環境の整備

子どもたちの興味あることや豊かな発想を見逃さず、遊びが発展していくような材料や情報を提供し、学びへと繋がるようにサポートすることに力を注いだ。年度後半には幼児クラスにおいて毎日の「振り返りの会」を行い、その日に楽しかったことやこれからやってみたいことなどを子どもたちが発表する場を持ち、各クラスその内容をボードに書き出し、誰もが見られるように見える化した。国旗に興味を持った4歳児を中心に、振り返りの会やボードを通して世界の国の名前を世界地図に書いたり、国旗カードを作ったりと遊びはどんどん広がった。「振り返りの会」とボードを取り入れたことで、子どもの主体的な遊びの発展や友だちとの気持ちの共有が深まり、育ちに繋がることが多かった。今後も積極的に取り入れていき、子どもたちの育ちを促していきたい。

2階テラスの環境については、乳児会議にて1年かけて子どもの発達を促す環境についての話し合いを重ね、11月に改装工事を行った。ハイハイでも活発に動き回ることでできる人工芝、四肢を使って登る乳児用の小さな築山、まだ移動のできない乳児でも安心して外気浴ができるウッドデッキなど、どの子どもも安心して遊ぶことのできる居心地のいい空間が生まれ、遊びの幅も広がった。今後は新たな低月齢の子どもたちが活動する様子を見ながら、発達の検証を行い、更なる最善の環境作りを目指していく。

園庭では、土や水や植物を存分に使いながら異年齢児での遊びの中で、様々な経験を積んでいった。虫が好きな子どもたちを中心に色々な虫の幼虫を育てたり、捕まえた虫を図鑑で調べたりするなど、自然の中での遊びが充実していた。さらに季節を存分に感じ、自然物を使って遊びが発展していくような園庭作りを目指し、幼児会議での話し合い、専門業者とのやりとり、他保育園の園

庭見学などに取り組んだ。土や水、植物に触れながら豊かに遊びを展開していく環境として、築山や水場、実のなる植物や虫を育て観察する小屋など、職員が思いを語り合いながら今後の園庭改造の準備を進めている。

### (3) 保護者との信頼関係の構築

保護者との信頼関係の構築と保護者同士の関係作りを目指して、対面での懇談会の開催や保育士体験の再開に取り組んだ。久しぶりの対面でのクラス懇談会や全体保護者会は、今までにないほどの参加率となり、保護者からのニーズの高さを感じた。特に全体保護者会では、同じクラスでない保護者同士や職員との懇談の時間を持つことで保護者、職員とともに交流の幅が広がった。保護者同士の関係作りをすることで子育て仲間を増やし、子育ての孤立化を防ぎ、卒園後の地域の中での子育て支援へと繋がっていくように、今後も積極的に取り組んでいきたい。

また、保育士体験を全面的に再開し、多数の保護者が保育園で一日を過ごす機会を持った。保護者が保育に実際に参加し、保育士とのコミュニケーションを深めたことで保育への理解へと繋がり、子どもの育ちの喜びを分かち合うことができた。同じ空間、目線で子どもの育ちを感じ、一緒にこれからの子育ての見通しを話すことの大切さを、改めて実感した。

職員と保護者の有志での活動「子どもを真ん中にプロジェクト」では、伐採した桜の木を使ってクラスプレート作りに取り組んだ。作業をしながら子育てや保育園の生活、父母会の話など話し込む時間はとても充実しており、今後も交流の場として継続した取り組みを行っていきたい。

### (4) 職員がお互いを認め合い、高め合う職場環境の整備

職員が保育に楽しみながら向き合い、保育への関心や学びを深め、子どもたちの育ちについて語り合える職員集団作りを目指し、園内研修では前年度に引き続き東洋大学准教授の高橋健介氏をアドバイザーとして招き、子どもにとって最善な保育環境について学び、語り合った。他園の実践などの情報提供により「振り返りの会」を取り入れ、それについてのアドバイスをもらって保育実践に生かした。

また、コロナ禍になってから入職した職員が増えてきたことで、交流研修を多く取り入れ、職員同士もお互いのことをもっと知り合う機会や交流が深められる機会を持った。歓迎会を設けられない中で、交流研修をあえて設定することは、職員集団作りにとって、とても大切だと実感した。

保育システムの導入では、同時に各クラスに1台ずつパソコンを導入し、職員の事務軽減に取り組んだ。試行期間として、システムの一つひとつの内容を確認しながらの導入となったが、少しずつ事務軽減にも繋がってきている。

## 2 実績報告

### (1) 園児の受入状況

月別の園児受け入れ状況は次のとおりである。

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児	5歳児	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	264
	4歳児	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	264
	3歳児	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
	2歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168
	1歳児	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
	0歳児	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	96
	計	98	98	98	98	98	98	98	98	98	98	98	1,176

### (2) 地域の子育て支援

#### ア 保育園体験

ようやく感染状況が落ち着いてきたこともあり、地域の親子を対象に、0歳児、1歳児、2歳児クラスに各2組ずつ受け入れ、月1回在園児と一緒に活動に参加する「保育園体験」を行い、園児、担任との交流や、地域の保護者同士の交流を行った。園庭限定で（雨の日は室内となるため中止）2組までという人数制限をした上での開催とした。参加人数としては0歳・1歳児クラスは2組ずつ登録があったが、2歳児クラスにおいては登録者がいなかった。

2歳児の待機児童が減少していることも関係があるのか、ここ数年は2歳児の希望者はいないというのが現状である。実際に保育園で体験してもらうことは、地域の親子にとってとても有意義な時間になったという感想を頂いているので、今後も続けていきたい。

#### イ 給食体験

##### (ア) 離乳食体験

初めて離乳食を始める地域の子育て中の親を対象に、栄養士、保育士による離乳食開始時期の目安、初期食、中期食の進め方、実際の調理方法、試食などを学んでもらう機会としていたが、新型コロナウイルスは主に食事や会食での感染率が高いこともあり、令和4年度は中止とした。地域の保護者からの要望は多くあり、開催可能な方法を検討していく。

##### (イ) 乳児食体験

地域の乳児とその親を対象に、給食を園児と同じ環境と一緒に食べる機会としていたが、離乳食体験と同様に主に食事や会食での感染率が高いため、令和4年度は中止とした。

例年は、乳児食の味つけや量を体験するほか、食事の環境設定や食具についても情報提供を行っており、参加希望者は多いため、今後も開催可能

な形を検討していく。

(ウ) 保育講座

親子が20人ほど集まる講座が中心であり、室内での講座が主であったためコロナ禍により開催は中止とした。親子で楽しめる講座を中心に開催しており、親子で過ごす有意義な時間となっているため、開催可能な形を検討していく。

(3) 園児の健康報告

ア 感染症

令和4年度は新型コロナウイルスに感染する園児が46名と多数いた。

感染者が一度に複数出て集団感染が疑われるような場合には、保健所に連絡を取り対応について相談し、でき得る限り保育園内で感染が拡がらないよう園内での感染予防対策に努めた。

また、夏季には手足口病、冬季にはインフルエンザに罹患する園児もおり、その都度感染予防に努めた。園内では手洗いの徹底や消毒方法の確認などを適宜行った。

【感染発生状況】

(単位：人)

RSウイルス感染症	2	流行性耳下腺炎	1
溶連菌感染症	1	突発性発疹	6
伝染性膿痂疹	1	アデノウイルス	2
プール熱	1	口唇ヘルペス	1
インフルエンザ	6	ヒトメタニューモウイルス	3
感染性胃腸炎	2	ヘルパンギーナ	6
新型コロナウイルス感染症	46	手足口病	14

イ 受診状況

令和4年度は受診した園児は15名であった。その中で転倒して手が出ずに顔をぶつけてしまうお子さんが数名おり受診につながったケースが多かった。またてんかん発作を起こし救急車で受診した園児が1名いた。

【受診ケース】

月 日	性別・年齢	項 目	受診先
6月23日	1歳男児	転倒時鉄棒にぶつかり前歯が少し欠け、口唇から出血	歯科
7月11日	4歳男児	転倒し口唇下に裂傷し、診察終了まで合計4回受診	外科
7月26日	5歳男児	玩具を踏んで足底に傷ができ、そこから砂が入り受診	皮膚科

7月27日	5歳男児	転倒し手が出ず、顔面横を打撲	脳神経外科
8月10日	3歳女児	転倒し鼻にテーブルにぶつける	耳鼻科
9月9日	2歳男児	遊んでいて左腕の痛みがおこり肘内障で受診	整形外科
10月3日	1歳男児	繋いでいた手を捻り痛みが強いため受診、骨には異常なし	整形外科
11月9日	3歳女児	滑り台の上から他児に引っ張られて左肘内障	整形外科
11月18日	1歳男児	回転して転倒、柵に顔面をぶつけて眼窩に内出血	脳神経外科
12月3日	5歳女児	意識消失し救急車で受診(てんかんの診断)	小児救急
12月9日	3歳女児	遊具が口に当たり歯と歯肉の間から出血	歯科
12月13日	1歳男児	指に棘が刺さり受診	皮膚科
1月19日	5歳女児	長椅子からジャンプして床に顔面を打つ。歯肉から出血	歯科
3月8日	4歳男児	指先に棘が入り抜けきれず受診	皮膚科
3月9日	3歳男児	三輪車で転倒し顔面を打ち、歯肉の内出血と動揺あり受診	歯科

#### ウ その他

令和4年度も園医による健康診断を0歳児は毎月、1～5歳児は年に2回受診できるよう設定した。

前年度は1回しか実施できなかった歯科健診も令和4年度は2回実施できた。歯磨き指導では染め出しは行えなかったものの、歯科衛生士による歯磨き指導を2回行った。

職員研修としては、手洗い研修・嘔吐処理研修・救急救命・エピペン研修等行い、園児たちが保育園で安全に健やかに生活できるように努めた。

#### 【実施できた保健活動】

検査名	時期	人数	結果
尿検査	6月	60人	陽性者なし
歯科健診	5月	96人	虫歯あり1人
歯磨き指導	6月	64人	染めだしは実施せず
歯科健診	10月	96人	虫歯あり3人
歯磨き指導	12月	59人	染めだしは実施せず

#### (4) 障がい児保育

令和4年度の障がい児受け入れは、3歳児2人、4歳児1人、5歳児1人の計4人であった。前年度はコロナ禍のため受け入れできなかった子ども発達センターに通う子どものための交流保育は、令和4年度も引き続き中止となった。

##### ア 作業療法士との連携

生活、活動の中での様子、検討したいことなどを個人記録としてまとめ、作業療法士に目を通してもらい、月1回の来園時にその記録を基に子どもの様子を観察してもらった。その後のケース会議にて専門的な視点で子どもへの支援方法、指導の仕方等のアドバイスを頂き、日々の保育に活かした。

##### イ 保護者対応

保護者からの要望や希望があるときは、職員を通して作業療法士への相談等も受け、子どもにとって最善の支援を一緒に考えていくようにした。

##### ウ 関係機関との情報共有

必要に応じて、関係する療育機関と連絡を取り、お互いの状況を把握する中で、日々の保育に活かせるようにした。

#### (5) 年間行事報告

1年間に実施した行事は、次のとおりである。

月日	項目	内容
4月1日	入園進級式 (新入園児の保護者参加)	晴れた空のもと園庭で実施し、一年の始まりを皆で喜び合った。新入園児の保護者を招き、新入園児一人ひとりを紹介した。進級児が歌やダンスを披露し、温かい雰囲気の中で実施することができた。
5月14日	青空おやこで懇談会	令和4年度は雨天のため、オンラインでの開催となった。前年度はなかなか対面での保護者交流が難しく紙面交流としていたため、画面越しではあるが、保護者と話せた機会はとても貴重だと、この会を通し改めて感じた。
6月21日	プール開き	曇り空で気温も低めだったため、プールには入らず、プール開きのみ行った。5歳児のみ浅く水を張ったプールでプール用玩具を洗い、今後のプール遊びの準備をし、3,4歳児はプールの柵越しにその様子を見学し、その後周辺で水遊びを楽しんだ。
7月14~16日	夏祭り3 days (父母会共催)	父母会共催行事ということで、コロナ禍での開催でどのように保護者にも参画してもらい、皆が楽しみに当日を迎えられるか、父母会と話し合いをしながら準備を進めてきた。保育士体験の中で、夏祭り当日までの手作りおもちゃ作りやチョコバナナ作りなどを保護者に協力してもらい、当日までの雰囲気を一緒に感じてもらうことができた。5歳児クラスはたくさんのお店を企画、準備して出店した。毎日「振り返りの会」を行うことで日々工夫を重ね、まわりの子どもたちが楽しめる店へと発展させていった。毎日の様子をドキュメンテーションで配信したり、手作り玩具の作製の協力を募ったりと、保護者と共に取り組むことができた。 父母会からはヨーヨーの出店や手作り風鈴の協力があったが、最終日の保護者が参加できる土曜日が雨天中止となってしまった。準備を含め3 daysでの子どもたちの育ちと、保護者と共に盛り上げていこうという目的は、十分に達成できた。
8月31日	プール仕舞い	3,4歳児はそれぞれで水遊びを楽しみ、5歳児はプール遊びを楽しんだ後、ひと夏使った玩具を洗って終了となった。

10月1日～	秋の保育 ～縦割り散歩～	日々の保育の中で0～5歳児の大きな縦割りでの交流を目的として1か月を過ごし、その中でいろいろな年齢の子どもたちと縦割り散歩に出かけた。
10月8日	秋の保育 ～かみふだ うんどうかい～	日常の保育の延長として皆が楽しめる会を企画して実施することを目指し、子どもたちと内容を話し合いながら、準備を進めた。 子どもたちが考えたしっぽ取りやかけっこ、玉入れ等を自分たちで運営、進行し、その様子を「大きな保育参観」という形で保護者に見てもらった。また、会当日までの話し合いや準備の経過を、種目ごとのコーナーにてドキュメンテーションを作り掲示し、その過程の中で子どもたちの育ちをわかりやすく伝えた。当日は、主体的に動く子どもたちの姿に職員も保護者も感動した。
10月21日	芋掘り散歩	幼児クラスが縦割りグループに分かれ、芋掘りを行った。令和4年度は天候に恵まれず、時期が少し遅くなったが、大きな芋をたくさん掘ることができた。また、当日はお弁当の日とし、皆で園庭での弁当を楽しんだ。
10月29日	さくら組の日	7月に予定されていたお泊まり保育が新型コロナウイルスの感染拡大により中止となったため、子どもたちがお楽しみ会として企画をし、自分たちで「さあべるすとあ」と名付け、一日保育園で過ごした。虫探しゲームやピザ作りを楽しみ、焼きあがったピザを保護者と一緒に園庭で味わった。 また、夏まつりで保護者に披露できなかったお店屋さんごっこを再現し、いきいきと自分の店を広げ楽しむ姿を見ることができた。最後は花火を保護者とともに楽しんだ。
11月4日	いも煮会	「秋の味覚を皆で味わう会」として、2～5歳児は簡単な調理体験を通し、皆で給食の豚汁づくりの手伝いを行った。給食は皆園庭で青空の下で会食をした。調理から関わり、楽しい雰囲気の中での給食時間になり、秋の味覚を味わった。
12月9日	もちつき	新しい年を迎える前に餅をつくことの意味を伝えながら、餅つきを体験した。有志のお父さん3人に「モチレンジャー」として手伝いして頂き、一緒に子どもたちを盛り上げてもらった。子どもたちは子ども用の杵を使い、自分たちでつく楽しさを味わった。餅の感触を楽しみながら、のし餅作りの体験をした。
12月21日	クリスマス会	12月に入ってから、サンタさんへお手紙を書いたり、当日の企画を考え準備したりしながら当日を迎えた。クリスマスの製作遊びや、子どもたちの作った人形劇やマジックショー、職員の出し物などを楽しんだ。サンタクロースも登場し、お礼に子どもたちから歌のプレゼントもした。
1月6日	新年会	昔から行われてきた伝承遊びやお節料理の意味など、新年についての日本の伝統を子どもたちに伝えた。 その後、園庭や室内でたこあげ、独楽回し、カルタ、福笑い、すごろくなど、正月ならではの遊びをみんなで楽しんだ。
1月28日	人形劇 (父母会共催)	毎年来園して下さる人形劇団が令和4年度は活動見合わせとなり、代替えとして、1月を「劇遊びを楽しむ月間」として、前年度に父母会から送られたパネルシアターやエプロンシアターを保育士体験として参加してもらった保護者に手伝ってもらい、子どもたちに披露した。
2月1～3日・ 7～9日	クラス懇談会	感染対策を施した上で、久しぶりに対面での懇談会を開催した。保護者同士の交流に重きを置き、我が子紹介クイズや子どもかるたなど、各クラス工夫を凝らした内容となり、笑い声の響く懇談会となった。保護者の参加も多く、保護者同士の交流とともに一年を振り返りながら子どもの育ちが実感できる良い機会となった。
3月19日	就学を祝う会	桜が咲く中で、21名の卒園児全員が揃い、門出の日を迎えた。令和4年度も卒園児、保護者、職員とでゆったりとした中での開催にするため、休日に実施した。就学児、在園児(3,4歳児)、職員みんなで思いを込めて会場作りをし、上布田らしく手作り感があふれていた。当日は、始めから笑いがあふれ、クラスのカラーが引き立つ会となった。

		った。お別れ太鼓や野点（お茶）も楽しみ、子ども、保護者、職員が一体となって就学する喜びを分かち合うことができた。
3月22日	お別れ会	4歳児が企画・運営をし、「さくらさんとお別れする会」を実施した。5歳児は就学を祝う会で行った歌や言葉を在園児の前で披露し、3・4歳児からも歌と言葉を贈った。5歳児からの卒園製作（外用ペンチ）と、在園児からのプレゼント（チューリップの鉢植え）の交換も行い、温かみのあるとても良い会になった。
定例	誕生会	その月生まれの園児、保育園体験の子ども達の誕生を皆で祝うことで、大きくなった喜びを共感しあった。誕生児の保護者が参観することが定着してきており、一緒に大切な一日を過ごすことができた。
定例	伝統行事	こどもの日、七夕、節分、ひな祭りなど季節の伝統行事において、それぞれの意味、内容について話を聞いたり、製作や歌を歌ったりして楽しんだ。

## (6) 研修の状況

令和4年度は、外部への研修の機会へも積極的に参加を促し、オンラインで開催されるものも併用しながら適時参加することができた。

また、令和4年度も引き続きこれまで積み上げてきた園内研修の充実を更に図ることを目指し、年間を通して実施した。前年度に引き続き定期的にアドバイザーを招き、「子どもの遊びと保育環境」をテーマに、日中の保育の様子を動画で撮影し、その日のうちに振り返り、検証しながらグループワークを行う形での勉強会を行った。日頃の保育について語り合える機会にもなっており、今後園庭の改造を計画していく上で、改めて子どもたちにとって必要な保育環境を皆で考えていく良い機会となった。

このほか、虐待をテーマにした研修や、栄養士による職員向けの離乳食講座、看護師によるエピペン・AED講習会、嘔吐処理研修なども実施した。

なお、外部研修への参加状況は、次のとおりである。

### ア 職種別専門研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数	
新規採用職員	新人職員研修 接遇研修	5/1 7/26 8/12 10/13 11/10	東京都民間保育園協会 東京都社会福祉協議会 (有) りんごの木 調布市役所保育課 園児交通安全防犯連絡会	2人	
保育士	勤続2～4年目	実技研修 6/2, 11/15 1/24	調布市役所保育課 東京保育士会	2人	
	勤続6～10年目	ミドルリーダー研修	7/14	東京都福祉保健局家庭支援課	1人
	勤続11年目以上	リーダー研修	8/12 12/4	(有) りんごの木 白梅学園大学	2人
分野別リーダー	保育士等キャリアアップ研修（各分野）	12/3, 12/10	絆友会	1人	
CSV1、CSV2	保育士等キャリアアップ研修	10/18	総合健康福祉財団	1人	

副主任	保育士等キャリアアップ研修(マネジメント含む)	9/3, 9/6, 9/29 12/12	保健福祉振興財団 (一社) アジララーニング	1人
主任	マネジメント研修 主任研修	9/2 11/22 1/18	日本保育協会 東京都民間保育園協会 東京都社会福祉協議会	1人
施設長	施設長研修 処遇改善関連研修	6/30~7/1 9/9 10/26 11/28~30 12/4	日本保育協会 東京都福祉施設士会 日本福祉施設士会 (株) コドモン 白梅学園大学	1人
看護師	看護職員専門研修 子どものアレルギー 研修	12/1~2	愛育病院	1人
栄養士	栄養管理講習会 衛生講習会	5/31, 11/24, 1/18 11/13 1/31	東京都多摩府中保健所 新日本医師協会 東京都社会福祉協議会	1人
調理員	保育園調理担当職員 講習会	6/8, 8/22, 8/31, 10/1 7/9, 9/13 11/13	東京都多摩府中保健所 東京都社会福祉協議会 新日本医師協会	2人
事務員	中期計画策定法	10/24 12/19	東京都民間保育園協会 東京都社会福祉協議会	1人
参加延べ人数合計				17人

## イ 職場研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
全職員 (正規職員のみ)	子どもの育ちに必要 な環境(動画を使っ た研修)	5/14, 5/26, 7/1, 9 /22, 10/14, 11/2, 12/2, 1/10, 1/28	上布田保育園 (東洋大学 講師)	21人
全職員 (非常勤含む)	AED研修	7/20, 9/14, 10/25 , 11/17, 12/22, 2/22	上布田保育園 (看護師)	33人
全職員 (正規職員のみ)	職員の資質向上研修	6/9, 12/3	上布田保育園 (主任、副主任)	23人
全職員 (正規職員のみ)	食育研修	9/10	上布田保育園 (栄養士)	22人
全職員 (非常勤含む)	虐待についての研修	4/2	上布田保育園 (施設長、主任)	21人
保育士	両園合同勉強会	6/22, 7/6, 12/14, 1/18	上布田保育園 調布なないろ保育園	8人
一般職(新規採用職 員除く)	人事評価制度現任被 考課者研修	2/18	上布田保育園	13人
副主任以上(新任除 く)	人事評価制度現任考 課者研修	2/18	上布田保育園	2人
参加延べ人数合計				143人

## (7) 食を大切に作る保育の推進

令和4年度も給食年間計画に基づき、旬の食材を使い、四季の移り替わりを感じる手づくりのおいしい食事とおやつ作りに努めた。

新型コロナウイルスの流行が続く中でも、子どもたちがいきいきと楽しむ豊かな食の体験を重ねてきた。園庭の花壇やプランターで季節の野菜を育てて収穫し、子どもたちが野菜を洗って土を落として給食室に届けたものをその日の食事に調理して入れることも定着し、乳児クラスの子どもたちも栽培や収穫に関わることができた。5歳児は「お泊まり保育」の代わりに土曜日の半日を子ども達だけで過ごす「さーべるすとあ」の中で、手づくりピザを生地から作り、焼き立てを保護者と一緒に園庭で食べることができた。大切な家族のために自分の力で頑張っけてピザを作る姿に成長を感じる。豊かな食体験の様子は毎月の給食だよりで知らせ、保護者と共に子どもたちの成長を喜び合うよう心がけた。

「食育アレルギー会議」は、令和4年度もアレルギー児の情報共有、「子どもの食事で大切にしたいこと」「発達をふまえた具体的な食事のたすけかた」を学び共通の認識を持つことを目標に進めた。実際の保育中の食事介助の場面を動画におさめ、捕食、咀嚼、嚥下時の口腔機能の動きを学び、大人のあたたかい言葉がけや食事の食べさせ方を交流、共有しあう意義深い会議を重ねた。

また、調布市の食物アレルギー対応マニュアルをもとに、食事の提供についての申し合わせを職員一同で行い、アレルギーフリーの食材の使用を心がけ誤食防止に務めた。

#### ア 行事食と季節の料理

	行事食	季節の料理
4月	たけのご飯（誕生会） スマイルクッキー	たけのごサラダ 鱈の西京焼き・かぶとハムのサラダ
5月	ピースごはん・わかたけ汁・キャロットケーキ（誕生会）	鮭のチーズ焼き・アスパラベーコンソテー・せいだのたまじ
6月	生姜ごはん・鶏の南蛮漬け・パイナップルケーキ（誕生会）	新ごぼうのサラダ・ぎすけ煮（歯と口の健康週間）鱈の香味揚げ かみなり汁・あじさいゼリー 夏越しまんじゅう
7月	七夕そうめん（七夕） 枝豆ご飯・めかじきの野菜和え（誕生会） 鰯のかば焼き丼（土用の丑の日）	夏野菜カレー・冷やしうどん おぐらのスープ たたき胡瓜のサラダ サラダずし
8月	鮭ずし・アイスクリーム（誕生会）	冷やしきつね・冷やし中華 蒸し鶏中華和え すいかのパンチ・焼きとうもろこし
9月	きのこごはん・めかじきの竜田揚げ・大納言ケーキ（誕生会） 非常用わかめごはん・けんちん汁（引き取り訓練）	さばの塩焼き なすのミートグラタン 二色おはぎ・スイートポテト 月見うさぎのホットケーキ ぶどうゼリー
10月	さつま芋ご飯・さばの唐揚げおろし和え・りんごケーキ（誕生会）	けんちんうどん・きのこのカレー さんまの塩焼・さばの照り焼き くりむしパン・ふかし芋

11月	わかめごはん・芋の子汁（芋煮会） 赤米ごはん・鮭フライ・マロンケーキ （誕生会）	ちゃんぽんうどん・秋のシチュー 鮭のちゃんちゃん焼き カリフラワーのカレーサラダ
12月	きなこもち（もちつき） かぼちゃのむしパン（冬至） 生姜ごはん・鶏の照り焼き・ポパイケー キ（誕生会） クリスマスピラフ・鶏のみそ味唐揚げ・ フルーツサンド（クリスマス）	ぶり大根・鯖のみそ煮 れんこんハンバーグ ブロッコリーとささみみのサラダ 年越しうどん
1月	七草がゆ（七草） 鏡びらきのおしるこ（鏡びらき） 鮭と青菜のごはん・とんかつ・大納言ケ ーキ（誕生会）	鶏の松風焼き・さばのみそ煮 ぶりの照り焼き・炒り鶏・カリフラワー の酢みそ和え 肉まん
2月	鬼っごごはん・つみれのみそ汁・きびだ んご（節分） チキンライス・鶏の唐揚げ・りんごケー キ（誕生会）	冬にゅうめん・けんちんうどん のっぺい汁・おろしハンバーグ 白和え
3月	ちらしずし・鯖の西京焼き・いちごむし パン（ひなまつり） 黒米ごはん・とんかつ・バナナケーキ （誕生会）	鯖の西京焼き・豚肉とふきの煮もの たけのこサラダ 二色おはぎ・桜まんじゅう 年長児のリクエスト献立

## イ 食育

4月	たけのこ皮むき	10月	さんまの姿を見よう
5月	グリーンピースむき	11月	芋煮会 2歳～5歳：野菜ちぎり、包丁
6月	そら豆のさやむき 赤じそジュースづくり	12月	もちつき 2～5歳
7月	枝豆とり とうもろこしの皮むき	1月	お箸のおはなしと練習 食事の姿勢、マナーのおはなし
8月	夏野菜の収穫	2月	三色栄養のおはなし （ペープサート）
9月	非常食を食べよう	3月	

## ウ 給食での給与栄養目標量

保育園での給与栄養目標量については、本年度も年間通しての設定とした。

	エネルギー	蛋白質	脂質
乳児	485kcal	18.2g	14.6g
幼児	577kcal	21.6g	17.3g

## エ 食物アレルギー児の状況

卵のみ2人、ごま1人、くるみ1人、クルミ、ピーナッツ2人の合計6人のアレルギー児に対して対応した。卵に関しては食事の除去、代替食を実施。ごま、ナッツ、くるみは給食に使用しなかった。

## (8) 防犯・防災対策

### ア 避難訓練

訓練は4月から始め、月を増す毎に設定を細かくし、これまで以上に職員が緊張感を持って臨めるよう日程を定めずに実施する月を設定するなど、様々な状況に対応できるようにした。

また、令和4年度も様々な時間に発生した災害想定での訓練も設定し、少ない職員数の中での訓練を実施した。

その他、防災計画及び自衛消防組織編成を見直し、地震・火災対策に応じた役割分担をより明確化するとともに、職員同士の伝達、協力体制を強化した。

(単位：人)

月 日	内 容	園 児	職 員
4月18日	火災訓練、消火訓練	82	32
5月17日	火災訓練、消火訓練	84	28
6月16日	火災訓練、消火訓練	91	27
6月18日	地震訓練、消火訓練	8	5
7月8日	地震訓練、消火訓練	10	2
7月20日	地震訓練、消火訓練	98	28
8月23日	地震訓練、火災訓練、消火訓練	79	22
9月1日	地震訓練、引取訓練	11	24
9月27日	火災訓練、消火訓練	90	27
10月12日	火災訓練、消火訓練	91	29
11月8日	地震訓練、消火訓練	92	30
11月15日	防犯訓練、通報訓練	89	20
12月17日	地震訓練、消火訓練	6	5
12月26日	火災訓練、消火訓練	77	27
1月17日	火災訓練、消火訓練	88	16
2月8日	地震訓練、消火訓練	17	7
2月22日	火災訓練、地震訓練、消火訓練	89	27
3月3日	地震訓練、火災訓練、消火訓練	97	23

### イ 救命訓練 (AED・エピペン)

傷病者を発見してから救急隊に引き渡すまでの訓練を行った。

意識確認→呼吸確認→心肺蘇生→AED、また、119番通報、園児への対応など一つの流れを作り、誰もが処置できる訓練をした。エピペンの対象児が1人いるため、急遽投与が必要になった際に誰もが適切に対応できるよう

に、エピペン練習用トレーナーを使用してのトレーニングを全職員に行った。

(単位：人)

月 日	参加職員数	月 日	参加職員数
7月15日	5	12月22日	5
9月16日	6	2月25日	7
10月21日	4		

#### ウ 侵入者対策、防犯訓練

近年、子どもの施設を対象にした不審者の事件も耳にするようになっており、より緊張感をもって訓練に臨めるよう、マニュアルをもとに職員間で内容を確認した上で、事前に具体的な訓練内容は職員には伝えず、実際に職員がどの様に動くことができるのかを検証した。子どもたちの避難誘導、不審者への対応など、この訓練によりマニュアルにある役割に沿った動きの難しさや課題点も分かり、防犯に関する職員の意識がより高まった。

## VI 調布なないろ保育園

### 第1 総括

令和4年度も、年間を通して新型コロナウイルス感染症拡大と隣合わせの1年であったが、コロナ禍の3年間でも、新型コロナウイルスを含めた感染症の拡大には繋がらず最小限で留まった。改めて、子ども達の丈夫さを実感した。

それは、消毒等の日々の環境設定や各家庭の予防協力等が基本にありつつ、何よりコロナ禍であっても、子ども達の体験すべき経験が不足しないよう、天気の良い日は戸外に出かけ、季節の移り変わりを五感で感じながら満足いくまで継続して遊んできたことが健康な体作りへと結びつき、体が丈夫だからこそ思い切り遊び、安定した心持ちの中で人と関わり合うことを楽しめる豊かな心の成長へと繋がったと考察している。

子ども達の継続した遊びの洞察も深まり、令和2年度に一部改築した園庭での遊びの検証も進んだ。設計時に狙ったとおりに、子どもがとことん遊び込む経験ができたことも、子どもだけでなく、職員の自信となり子ども達の成長へと大きく貢献している。園内研修等で討議し、子ども達の更なる遊びの充実に繋がるよう今後の課題も上がっているため、今以上に夢中になって遊ぶ子どもの笑顔を夢に見ながら、それを形作る楽しみを次年度へと繋げていきたい。

一方、自主事業である延長保育事業や一時保育事業は、保護者の勤務形態がコロナ禍でテレワーク化したこともあり利用が減少した。子ども達の生活リズムを考慮する上で、長時間保育利用にならずに済むことは功を奏したことではあるが、地域家庭を含め、支援が必要な家庭に、保育園が敷居低く集える場所となるよう、地域交流事業や園庭開放等を積極的に実施するなどして貢献した。毎週金曜日、そして定期的に土曜日行った園庭開放では、保護者同士が誘い合いながら園庭に集う機会もあり、「子どもまんなか社会」の小さなユートピアとして定着しつつある。

こうした全ての園運営の背景には、保護者、そして地域や行政の多大なる協力と理解にあり、また機を逃さずより良い運営を実現していこうとする職員の意識と行動力にあった。

特に職員の対話性を狙った年齢別研修、園内研修の機会は、時間が足りないほど毎回よく対話をした。現在と少し先の未来を見通し、「今子ども達に必要なことは何か」を、安心して意見の言える場の中で、職員が自己発揮して形作っていく様が、日々の保育実践に落とし込め、一人ひとりの子どもの成長を促した。

また、一年の総括として、年度後半で行った対面での全体保護者会では、次年度こそ保護者同士で繋がりたいという希望や、家庭と園とで一緒にプランをたてながら、子ども達を取り巻く園生活を活気あるものにしていこうという前向きな

案も上がりエネルギーを感じている。

令和5年4月に新設された子ども家庭庁の存分な役割に期待しながら、今後もこども基本法に基づく「子どもの幸せの構築」を追求していきたい。

## 第2 経営実績

### 1 定員

(単位:人)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
定員	6	14	20	20	20	20	100
実数	9	14	20	21(1)	21(1)	21(1)	106

※ 括弧内は、障がい児の受入れ数

### 2 利用率

(単位:%)

事業名	令和4年度実績	令和3年度実績
調布なないろ保育園	106.0	106.0

## 第3 事業報告

### 1 重点事項への取組

#### (1) 中期経営計画の取組

中期経営計画として掲げた6つの経営課題に基づき、計画どおり進行しているよう取り組んだ。概ね計画どおりに進行しているが、特にシステムの活用では、システム開発係として担当を置き、「何を、いつまでに、どのようにシステム化していくのか」を明確化し進捗管理しながら導入したことで、年度の早い段階で、職員と保護者を結ぶツールとなり、活用の幅を広げることができた。

#### (2) 生きる力を育む保育実践

「遊びの連動性」に重点を置き、室内環境や園庭環境を見直し、子どもたちの遊び方や玩具の量、生活の保障など課題を抽出し、園内研修等にてディスカッションを行いながら現状を振り返り、環境の見直しを図った。室内と戸外との連動性は、生き物の飼育や観察、室内の遊びを戸外でも継続して行うなど子どもの遊びが途切れることなく十分に遊び込める環境を意識して行った。

また、保育園と保護者との関わりでは、コドモンアプリのドキュメンテーションを活用し、日々の様子を可視化することに加え、手遊びや保育の様子を動画配信することで保護者にもわかりやすく伝えることができた。

その他、全体保護者会では、「楽しい保育を語る会」と題し、子どもはもちろん保護者や職員、地域の方々も一緒に楽しく活用できる保育園を作っていくための取り組みに対してディスカッションを行った。コロナ禍で家庭同士の繋が

りや保育園との更なる連携を求めていることを実感するとともに、「お父さん集まれ」や幼児クラスの保育参加の再開、念願だった「お母さん集まれ」の開催も行い、保護者と保育園の繋がりを深める機会を増やすことができた。

### (3) 職員の資質向上

年間を通して受講した年齢別研修では、クラス担任が同日受講することで、研修内容についての話題を共有でき、保育の方向性についてしっかりと向き合う有意義な機会となった。

また、上布田保育園との合同研修は計画どおり年4回実施でき、環境そのものや玩具の設定など、様々な違いを見ることができ参考になった。保育の同じ悩みや話題が共有でき、お互いの園への理解や交流が深まっているので、今後も良い関係作りを築いていく。

### (4) SDGsの実践

「つくる責任つかう責任」に焦点をあて、年間を通して廃材コーナーの充実や給食の野菜クズを使用した堆肥作りを実施し、物の大切さや無駄の無い使用を心掛けた。

また、リサイクルバックの活用、ゴミ箱の色分け、古いTシャツを活用した看板作りなど、子ども達も再利用の意識を持つことができてきた。

特に、市のごみ対策課とコラボレーションした「ゴミ収集車体験」では、ゴミの分別ゲームやゴミ収集車の運転席試乗、生ゴミの投入、スイッチを押しての運転稼働などを体験させてもらい、ワクワクとした経験となった。本園での試行的体験を通して、ゴミ収集車体験が市内保育園全域に活動が広がった。

## 2 実績報告

### (1) 園児の受け入れ状況

月別の園児受け入れ状況は、次のとおりである。

(単位：人)

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児	5歳児	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
	4歳児	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
	3歳児	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
	2歳児	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
	1歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168
	0歳児	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
	計	106	106	106	106	106	106	106	106	106	106	106	106	1,272

### (2) 地域の子育て支援

#### ア 一時保育事業

令和4年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、令和3年度に

比べて利用率が15%減少した。

しかし、地域には子育てに悩みを抱えている家庭やコロナ禍により孤立している家庭もあり、問い合わせに応じて丁寧に相談を受けるなどして一時保育利用時に対応した。利用人数が少なくても、一家庭ごとのニーズに対応でき、地域の子育て支援に充分に貢献した。

(単位：人)

一時保育延べ利用児童数													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	85	37	56	59	93	54	74	81	78	60	86	96	859

#### イ 地域交流事業

令和4年度は、6月から毎月園庭開放を行い、園庭で遊ぶことや主に乳児クラスの園児と一緒に散歩に出掛けるなどをし、交流を図ることができた。自園の魅力を利用し、地域の公園や家庭ではできない泥んこ遊びや運動遊びができることは好評で、金曜日の登録園庭開放は、毎週のように1～3組ほどの家庭が来園し、園庭で自由遊びをのびのびと行っていた。その中で、地域の家庭同士に交流が生まれたり、子育ての悩みなどに対しアドバイスを行うことができたりとコロナ禍で子育ての孤立が進む中、地域の保護者との関係作りのよい機会となった。

(単位：組)

保育園体験	参加者
7月5日	2
9月7日	2
10月12日	3
11月2日	1
12月8日	1
12月20日	1
1月12日	1
2月8日	1

#### ウ マタニティーサポート

出産を控えた妊産婦や4か月未満の子を持つ保護者を主な対象として、0歳児クラスにて保育体験をしながら子育て相談を行った。離乳食講座は、ネットなどでの情報が多い中でも、対面の講座で直接離乳食の見本や与え方などの指導が受けられるとあり参加希望が見られたが、0歳児クラスでの体験については、コロナ禍になってから希望者が減少している。今後は対象の枠を広げたり、参加しやすいような情報発信を行ったりして地域に

向けた子育て支援の機会が広がる工夫を行っていききたい。

(単位：組)

実施日	参加者
11月30日	1
12月7日	4
2月15日	1

#### エ 保育講座

保育園に在園している家庭を対象に園の特色を生かした内容で保育講座を行った。令和4年度もコロナ禍にあり、感染状況を見て延期をした回もあったが、参加人数の制限や環境の工夫などを施し実施した。毎回参加希望の家庭は多く、抽選で行うほど好評であった。

(単位：組)

実施日	内容	参加者
11月26日	スライム作り	6
1月15日	カレンダー作り	6

### (3) 食育活動

「食べることを大切にし、感謝の気持ちが持てる子ども」「正しい食習慣が身につく子ども」「食材に興味・関心を持ち楽しく食べる子ども」の3点をテーマに、栄養士や調理員が中心となって、食育の月目標を立て実践した。実施にあたっては、食育実践計画表を作成し、保育士と事前に内容について話し合い評価・反省を行った。子ども達に分かりやすいようエプロンシアターや手作りのパネル、人形を用いて伝え、給食時には喫食の様子を見に行くなどして状況把握に努め、月1回のカリキュラム会議で報告した。

新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながらだが、食材を見たり触れたりする調理活動は前年度に比べ多く実施できた。防災の日には、ガスコンロを使用し、実際に炊き出しを目の前で行い試食した。非常時には普段食べている物が食べられないことを伝える良い機会となった。

SDGsで給食室ができることとして、調布市産の野菜を給食に一部使用(地産地消)した。また、食べ残しはもったいないことを知ってもらうため、子どもや保護者に給食の残食を見せる食品ロスの取り組みを実施。自分たちの食べている物を身近に感じてもらい、食べ残しを少しでも減らそうという意識を持って喫食していたように感じる。この取り組みは継続して行っていく。

ア 行事食と郷土料理

月	行事食	郷土料理・世界の料理
4月		郷土料理（岐阜県） ・鶏ちゃん焼き
5月	子どもの日 ・こいのぼりカレーライス	
6月		郷土料理（岡山県） ・ももたろうのきびだんご
7月	七夕 ・天の川冷やしうどん ・星のマカロニソテー等	
8月		郷土料理（北海道） ・鮭のザンギ ・道産子汁
9月	防災の日（非常食） ・カレーライス ・豚汁 ・えいようかん	
10月	開園記念日 ・栗入りお赤飯 ・松風焼き等 運動会応援献立 ・ぶひぶひヒレカツバーガー ハロウィン ・魔女のスープ	
11月	和食の日献立 ・銀ダラの煮つけ ・白和え等	郷土料理（宮崎県） ・チキン南蛮
12月 アレルギー 除去強化月	なかよし献立 ・はんぺんチーズフライ （豆乳チーズ使用） もちつき ・カカレーうどん 冬至 ・かぼちゃのひき肉あんかけ クリスマス ・クロワッサン ・フライドチキン等	
1月	七草 ・七草粥 鏡開き ・おしるこ、揚げもち	郷土料理（愛知県） ・味噌カツ丼
2月	節分 ・いわしのかば焼き丼	
3月	5歳児リクエスト献立 ・鶏肉のカリカリ焼き ・ちゃんぽんめん ・メープルトースト等 ひな祭り ・ひな祭りごはん ・鶏のからあげ ・菜の花とツナのサラダ ・桜もち等	

## イ 食育活動

4月	フルーツポンチ（5歳児）	11月	焼き芋（全体）
5月	よもぎホットケーキ（5歳児）	11月	きのこ炒め（1歳児・4歳児）
6月	梅シロップ（2歳児）	11月	スイートポテト（5歳児）
6月	梅ジャム（5歳児）	12月	キャンディー（2歳児）
7月	ナスのケチャップチーズ焼き（3歳児）	12月	たくあん（5歳児）
7月	夏野菜スープ（4歳児）	1月	ミントティー（5歳児）
7月	ピザ（5歳児）	2月	恵方巻（2歳児）
7月	かき氷（全体）	2月	UFOピザ（3歳児）
8月	焼き野菜を食べる（2歳児）	2月	うどん（5歳児）
9月	葛と豆乳のアイスクリーム（5歳児）	3月	クッキー（3歳児）
9月	トッピングカレー（幼児）	3月	うどん（5歳児）
10月	せんべい（5歳児）		

※ 日々の保育の中で野菜の皮むき・おにぎり作りを実施（5月～3月）

※ 当日献立食材を、見て、触って、感じる（0～歳児）

※ 旬の食材の種類を感じ、触感、香り、味覚の違いを感じる（1～2歳児）

## (4) 保健報告

### ア 健康管理

前年度に引き続き、新型コロナウイルスの流行に伴い、職員・園児の感染者も増加した。その他、地域の感染症流行に伴い、手足口病やインフルエンザの感染者が一時的に増加したが、いずれも大規模感染には至らなかった。新型コロナウイルスによる規制緩和が進んでいくことに応じ、過剰な行動制限は減らしつつも、感染症の流行状況に応じて、園内の消毒内容を変更したり、異年齢交流を一時的に中断したりするなどして感染拡大を予防した。

また、保育システムの連絡アプリを積極的に活用し、感染症流行時には保護者へ注意喚起を促し、園児一人ひとりの家庭での様子を把握した他、ケガの報告には創部写真を添えて配信し、迅速に状況を報告するなどして、保護者と積極的に連絡をとるよう配慮した。

令和4年度初の試みとして、性差を意識し始めた4歳児クラスを対象にプライベートゾーン指導を実施した。次年度も引き続き継続し、幼児クラス全体に拡大して実施していく。

【感染症罹患状況】

(単位：人)

新型コロナウイルス	31	手足口病	17
突発性発疹	2	RSウイルス	2
インフルエンザA型	9	ヒトメタニューモ	5
ヘルパンギーナ	3	流行性角結膜炎	4
溶連菌	1	流行性耳下腺炎	1
感染性胃腸炎	3		

イ 受診ケース

令和4年度は昨年度に比べ受診件数は25%減少した。ケガの内容は主に頭部や顔面の外傷、口腔内のケガであった。その他に、遠足先で遊具からの転落による骨折、園内遊具による陰部裂傷があり、この2件に関しては市へ報告をした。

月 日	性別・年齢	項 目	受診先
4月28日	男児・4歳児	遠足先の遊具から転落し、右上腕骨顆上骨折	整形外科
7月6日	女児・3歳児	巧技台のハシゴに陰部をぶつけ、陰裂傷	小児科
8月30日	女児・1歳児	園庭地面に口をぶつけ歯内出血	歯科受診
9月9日	男児・5歳児	右前頭部皮下出血	脳神経外科
12月3日	女児・4歳児	園庭遊具に口をぶつけ歯肉出血	歯科
1月25日	女児・4歳児	椅子から飛び降り、手根部打撲	整形外科
2月10日	女児・3歳児	食事中に歯肉出血、歯の動揺	歯科
2月13日	男児・1歳児	室内で転倒し、右目尻の裂傷	眼科
3月9日	男児・2歳児	室内で転倒。右前頭部に皮下出血	脳神経外科

(5) 避難訓練及び防災対策

避難訓練は、日中の時間帯や土曜日・延長保育時間など様々な状況における災害を想定し月1回以上実施した。6月から12月までは告知訓練とし、1月からの訓練は抜き打ちで行った。

9月に実施した引き渡し訓練では、防災体験も実施し、簡易トイレや炊き出し、発電機の体験を行い、災害が起きた時の備えとなっただけではなく、器具等を実際使ってみたことによる課題も見えた。

また、令和4年度の水害訓練は、学童クラブと合同で職員の垂直訓練と前年度に引き続き職員の水平訓練に加え、4・5歳児も実際に避難先の調布市立第三小学校までの避難経路確認を行い意識を高め、実際に災害が起きた場合の問

題点の確認を行った。

## (6) 年間行事報告

一年間に実施した行事は、以下のとおりである。

月 日	項 目	内 容
4月1日	入園式	新型コロナウイルス感染拡大予防のため、在園児代表として5歳児のみ参加して実施した。5歳児のよさこい披露、メダルのプレゼントをして新入園児の入園を祝った。
4月28日	4・5歳児春の遠足	都立武蔵野の森公園遊具広場で遊び、公園内の芝生広場にて弁当を食べ、久しぶりに十分に楽しむことができ、異年齢での良い関わりとなった。
5月20日	3歳児春の遠足	多摩川下流広場に出かけ、川や広場で生き物を探したり、石投げをしたりして、自然に触れ合い遊んだ。持参した弁当を園庭で食べ、初めての遠足に子ども達はとても喜んでいった。
7月9日	夏祭りの会	3年ぶりの夏祭りの開催であったが、乳児・幼児と時間差をつけて実施した。感染者が増加傾向にあったため、当初予定していた5歳児のお店屋さん内容は内容変更となったが、保護者も一緒に楽しむことができ、夏の思い出となった。
8月5日・6日	お泊り保育	子どもたちのアイデアから、プラネタリウムを、活動の中で形にしながら行った。当日、他クラスをお客さんとして呼び、メインイベントとして楽しむことができた。子どもたちは意欲的に参加し、その他にも様々な体験を通して、大きな自信につながった。
9月9日	おじいちゃんおばあちゃんと遊ぶ会 (内容変更)	新型コロナウイルスの影響で開催はできなかったが、希望者を募り、写真を園内に掲示したり、祖父母にカードを作って渡せるようにキットを用意してプレゼントしたりした。直接会えなくても絆を深める働きかけをすることができた。
10月22日	運動会	感染予防も含めて開催方法を検討し、令和4年度もクラスごとの入れ替え制とした。テーマを「みんなでチャレンジ」とし職員と年長児の練習のリレー対決では、本気になるなど盛り上がりを見せ、当日の保護者との対決でも盛り上がった。継続した取り組みの中で大人と子どもとが絆を深めた。
11月10日	秋の遠足(3歳児)	園から3kmほど遠方にある西町公園に出かけた。秋の自然を子ども達を感じられるように、探索カードを作ってチャレンジした。また、子ども達に魅力的な遊具があり、十分に楽しんだ。出先で弁当を食べる経験は初めてで、どの子も満喫していた。
11月17日	秋の遠足(4歳児)	昆虫に興味を示していたので、子ども達の話し合いで行先を多摩動物公園とした。2グループに分かれ、自分の見たい動物や昆虫を写真で撮り、その後の保育の中でマップに写真を貼ったり、廃材で動物園を作り、他クラスを招いた「動物園ごっこ」をしたりするなどして、余韻を楽しんだ。
11月18日	秋の遠足(5歳児)	貸し切りバスを利用し高尾山登山遠足を実施。バスの中では高尾山に関するクイズなどで気分も盛り上がった。自分達で染めた手ぬぐいを全員着用して声を掛け合いながら登頂し、クラスの仲間意識も強くなった。
12月15日	餅つき会	令和4年度は5歳児クラスの保護者のみ手伝いを募り、園児、職員とともにいき、大いに盛り上がった。近隣家庭に年末の挨拶として鏡餅を配付することもでき、近所から喜ばれて子ども達は嬉しそうだった。
1月6日	新年を祝う会	年長児が独楽やけん玉などの正月遊びを披露した。また、職員の扮する獅子舞が子ども達の頭を噛み無病息災を願った。

2月3日	節分の会 (内容変更)	乳児は例年どおり段ボールの鬼で各クラスを回り、幼児は園庭にてクラスごとに入れ替え制で会を行った。前日に年長児が大豆を煎り、鰯の頭を飾るなどして節分の意味を知った。各クラス、自分達の作った鬼のお面を紹介し、その後、赤鬼、青鬼の登場で怖がりながらも豆まきを楽しんでいた。
2月17日	観劇会「劇団風の子」	幼児クラスで参加。劇の内容もわかりやすく面白く、途中で職員が劇に参加し更に盛り上がり、楽しんでいた。また、劇終了後は劇ごっこをするクラスもあり、想像の世界を楽しんだ。
3月16日	卒園式	年長児は歌や言葉など堂々とした姿で参加し、4歳児、保護者、職員は盛大に祝うことができた。卒園式終了後に保護者がささやかな「謝恩会」を開催してくれ、子ども達の小さい頃からのDVDを見て成長を喜ぶことが一緒にでき、晴れやかな会となった。
3月23日	お別れ散歩	幼児クラスは日頃から異年齢で交流していることもあり、令和4年度は年長児のみが乳児クラスと散歩に出かけた。年長児と年下の子たちが手を繋いだり、散歩先で遊んだりして、楽しいひとときを過ごすことができた。
3月30日	1年生を招く会	小学校1年生の卒園児を21人招いて実施した。天気にも恵まれ、園庭で2時間以上たっぷりと遊び、お弁当を園庭で食べ、久しぶりの旧友との再会を楽しんだ。また、在園の子の中には、憧れていた1年生に手紙を渡す子もいて、小学生の雰囲気を感じて、学校に対する不安を解消する子もいた。
定例	誕生会と伝統行事	七夕、十五夜、ひな祭りなど、季節ならではの行事を年齢に合わせて意味等を伝えながら行った。誕生会は幼児クラスで集合し、簡単なゲームなどを取り入れて楽しんだり、誕生児を写真にて紹介したりして祝った。

## (7) 研修の状況

研修への参加状況は次のとおりである。

### ア 職種別専門研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数	
新規採用職員	新人研修	4/2 4/25	調布なないろ保育園	3人 1人	
	接遇研修	4/12	(株)コドモン	1人	
保育士	勤続1～3年目	実技研修	9/15	(株)ベネッセコーポレーション	1人
			10/15	新日本医師会	1人
	勤続4～9年目	中堅職員研修	10/12	新日本医師会	1人
嘱託職員	実技・理論研修	7/6	新日本医師会	1人	
看護師	公衆衛生研修	6/2	調布市子ども生活部保育課	1人	
	保健衛生研修 乳幼児の性教育	6/28～2/7 計9回	(株)大塚製薬工場 他4社	各回1人 計9人	
栄養士	食育研修 衛生講習会	8/23	東京都歯科医師会	1人	
		9/30	東京都多摩府中保健所	1人	
		1/17	他2社	1人	
		3/14	他2社	1人	
調理員	食育研修	10/28	和食給食応援団	1人	
		1/17	社会福祉法人東京都社会福祉協議会	1人	

用務員	災害対策	9/9	社会福祉法人東京都社会福祉協議会 他2社	1人	
		9/21		1人	
		3/13		1人	
分野リーダー	保育士等キャリアアップ研修（各分野）	5/28~7/16	日本ウェルフェアサービス協会 他2社	1人	
		9/1~10/27		1人	
		11/8~11/26		1人	
		11/12		1人	
	保育実践研修	7/22	社会福祉法人東京都社会福祉協議会	1人	
CSV1	保育士等キャリアアップ研修（各分野）	7/4~3/24 計18回	一般社団法人アジールラーニング 他2社	各回1~2人 計19人	
		7/13 7/14		社会福祉法人東京都社会福祉協議会	1人 1人
副主任	保育士キャリアアップ研修	11/10~2/21 計14回	一般社団法人保健福祉振興財団 他1社	各回1~2人 計16人	
		7/20		社会福祉法人東京都社会福祉協議会	1人
主任	保育実践研修	8/3	社会福祉法人東京都社会福祉協議会 他2社	1人	
		12/21~2/28		1人	
		1/7		1人	
		3/1		1人	
施設長	トップセミナー	6/6 6/7	全国社会福祉協議会	1人 1人	
		6/27		(一社)東京都民間保育園協議会	1人
		8/6~3/17 計12回		(株)ルクミー 他5社	各回1人 計12人
施設長・主任・副主任	子どもの虐待死を悼み命を讃える市民集会	11/27	特定非営利活動法人 児童虐待防止全国ネットワーク	3人	
参加延べ人数合計				93人	

## イ 職場研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
施設長・保育士・看護師・栄養士・調理員	年齢別保育等	5/1~1/18 計74回	こどもの文化学校	各回1~3人 計175人
施設長・保育士・看護師・栄養士・調理員	園内研修	4/26~3/28 計18回	調布なないろ保育園	各回6~23人 計274人
保育士	両園合同勉強会	6/22	上布田保育園	2人
		7/6	調布なないろ保育園	2人
		12/14	調布なないろ保育園	2人
		1/18	調布なないろ保育園	2人
一般職（新規採用職員除く）	人事評価制度現任被考課者	5/10 5/11 5/13	調布なないろ保育園	22人
副主任以上（新任除く）	人事評価制度現任考課者研修	11/15	調布なないろ保育園	3人
参加延べ人数合計				482人

## VII 調布市立学童クラブ・ユーフォー事業部門

### 第1 総括

令和4年度も新型コロナウイルスの感染拡大が事業運営に大きく影響を及ぼす一年となった。年度当初は、感染者数が減少傾向となり、夏以降の近隣施設間の交流や地域との新たなつながりの創出に向けたイベントの企画、検討を行ったが、7月以降、感染者数が急増し、予定していた各種イベント等を中止または延期せざるを得なかった。各施設では、全職員を対象に週2回の抗原検査を行うなど、感染予防及び感染拡大防止策を徹底しながら通常運営を継続していたが、若葉小学校ユーフォーでは、職員の感染等が重なり急遽、市と協議のうえ、8月の土曜日1日だけ臨時休業とした。

学校の夏休みが終了した9月以降は、感染者数が減少し、各施設の利用児童数も感染拡大前の状況に戻りつつあったが、11月以降、年末年始にかけて再び感染者数が急増した。その間、職員が感染等により長期に出勤できない状況が相次いだが、施設間の連携・協力により体制の維持に努め、通常運営を継続することができた。

新型コロナウイルスの感染者数が増減を繰り返す状況ではあったが、下半期に入ってから徐々に近隣施設や地域の方と交流する機会が増え始め、児童館まつりへの参加やサッカー、ドッチビー、オセロ大会等、近隣施設や他法人が運営する学童クラブ等との交流を行った。

放課後子供教室事業ユーフォー（令和5年度から「あそびバ」に名称変更、以下同じ。）では新たなプログラムとして、地域のスポーツクラブとタイアップした「かけっこ教室」や異なる小学校の子どもたちがオンライン上でつながり、ゲームやクイズ等を通じて交流を図る「オンラインイベント」を企画、実施した。参加者は少人数であるものの、参加した児童には大変好評であり、対象校を変えながら定期的に実施した。

また、なないろ第1・第2学童クラブでは、3年振りに保護者（新型コロナウイルス感染防止対策として各家庭1人）を招き、3月の「進級を祝う会」を開催した。子どもたちの成長した姿を保護者の方々と共に同じ空間で共有することができ、有意義な時間となった。

子どもたちとの関わりの中で、マスク着用によりお互いの表情が読み取れない難しさもあるが、今の状況だからこそできることを、各施設、職員一人ひとりが新しい発想で考え、工夫を凝らしながら子どもたちが安心して楽しんでもらえる居場所づくりに取り組んだ。そして、保護者や地域の方からの協力も得ながら、子どもたちが元気に少しずつ成長していく姿を見ることができた。

## 第2 経営実績

### 1 定員

#### (1) 学童クラブ

施設名	定員(人)
なないろ第1学童クラブ	40
なないろ第2学童クラブ	50
わかば学童クラブ	70
かみいしわら第1学童クラブ	50
かみいしわら第2学童クラブ	50
多摩川小学校学童クラブ	60
あおば学童クラブ	55

※ 第3 1(2)「ア 児童の受入状況」参照。

#### (2) 放課後子供教室事業「ユーフォー」

全在籍児童対象の事業で、登録制のため定員は定めていない。

### 2 目標値に対する実績

学童クラブ及びユーフォーの安全で安心できる運営を目指して、各施設の医療機関への受診件数を目標値として定め、ケガの防止を重点目標として取り組んだ。

その結果、学童クラブでは、令和3年度と同件数の8件、ユーフォーでは令和3年度比3件増の6件となったが、全施設で目標値以内の受診件数となった。

延べ利用人数	目標値	施設名及び受診件数
5,000人未満の施設	2件以下	緑ヶ丘小学校ユーフォー 0件
		石原小学校ユーフォー 1件
10,000人未満の施設	3件以下	あおば学童クラブ 2件
		若葉小学校ユーフォー 1件
		多摩川小学校ユーフォー 3件
		第三小学校ユーフォー 0件
		飛田給小ユーフォー 1件
富士見台小学校ユーフォー 0件		
15,000人未満の施設	4件以下	なないろ学童クラブ 4件
		わかば学童クラブ 1件
		多摩川小学校学童クラブ 1件
		かみいしわら学童クラブ 0件

## 第3 事業所別事業報告

### 1 学童クラブ

#### (1) 重点事項への取組

##### ア 安全・安心な学童クラブ運営

受診を伴わない事例も含め、毎月の施設長会議で「アクシデントシート」

及び「ヒヤリハットシート」を活用し、各施設の情報を共有するとともにケガや事故の再発防止、環境整備に努めた。

また、各施設の新型コロナウイルス陽性者数及びインフルエンザ罹患者数を毎月の施設長会議で共有するとともに、各施設では全職員を対象とした週2回の抗原検査や手洗い、手指消毒の励行、室内換気、児童登室時の検温等を実施するほか、お弁当やおやつの喫食時にはパーテーションを設置し、黙食を徹底するなどの感染防止対策を講じた。

#### イ 施設間の連携

5施設7学童クラブの施設長が集まる会議を毎月定期的で開催し、児童のケガの情報や職員の配置状況等、様々情報共有を行った。

また、全正規職員が集まる合同会議を5月と10月に開催し、情報交換や職員の交流を図り、運用方法についての共通理解を深めた。

その他、職員の体調不良等による休暇取得や慢性的な職員の欠員状態等により事業運営に支障が生じる場合の職員応援要請に係る手順を整理、ルール化し、新型コロナウイルスの感染拡大時にも活用した。

#### ウ 職員の資質向上

毎年実施している市主催の各種研修への参加に加え、初めての試みとして、児童館長経験のある児童青少年課職員に講師を依頼し、各施設長を対象とした事業所管理者研修を実施した。

また、武蔵野東教育センターから講師を招き、「発達障害のある子どもへの気づきと対応」をテーマに正規職員、非正規職員それぞれを対象とした全体研修を法人独自で企画し、学童クラブ職員としての資質向上に努めた。

更に、職員自らの行動や言動を振り返るセルフチェックを行うとともに、その結果を各施設へフィードバックして子どもの人権に関する理解を深めた。

その他、令和4年度に予定していた施設間交換実習については、新型コロナウイルスの感染拡大により延期とした。

#### エ 中期経営計画の取組推進

業務の標準化・効率化に向けて、統一的なマニュアル作りに取り組むとともに、スケジュールの共有や各施設の調査回答とりまとめ等、Googleの無料オンラインサービスを積極的に活用し、業務の効率化を図った。

人材確保については、令和3年度にリニューアルした法人ホームページや有料求人サイト等を活用し、適宜採用情報を更新しながら継続的に募集を行った。令和5年度に必要な新規採用正規職員の確保はできたが、一部施設では非正規職員の退職が重なったため、積極的に人材確保に努めた。

また、令和5年度からの多摩川児童館学童クラブ及び第三小学校学童クラブの新規受託に向けた準備を行うとともに、多摩川小学校の校舎増築に伴う

学童クラブの移転に向けて、調布市と連携しながら準備を進めた。

## (2) 実績報告

### ア 児童の受入状況

月別の児童受け入れ状況は次のとおりである。

#### なないろ第1学童クラブ

(単位：人)

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児	小学1年生	18	18	18	18	18	19	19	19	19	18	18	18	220
	小学2年生	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8	101
	小学3年生	12	12	12	11	13	13	12	12	12	12	12	12	145
	小学4年生	10	10	10	10	10	10	10	10	10	9	9	9	117
	小学5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小学6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	49	49	49	48	50	50	49	49	49	47	47	47	583

※要配慮児：4年生に1人、障がい児：3年生に2人

#### なないろ第2学童クラブ

(単位：人)

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児	小学1年生	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	6	88
	小学2年生	13	12	11	11	11	11	11	11	12	12	12	12	139
	小学3年生	16	16	16	16	16	15	12	11	11	10	9	9	157
	小学4年生	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	33
	小学5年生	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	小学6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	41	40	39	39	39	37	34	33	34	32	31	30	429

※要配慮児：3年生に1人、障がい児：1年生に1人

#### わかば学童クラブ

(単位：人)

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児	小学1年生	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
	小学2年生	20	20	19	18	18	18	18	18	18	18	18	18	221
	小学3年生	47	46	46	46	46	46	46	46	41	41	41	39	531
	小学4年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小学5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小学6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	85	84	83	82	82	82	82	82	82	77	77	77	75

※要配慮児：3年生に3人、1年生に1人、障がい児：2年生に1人

#### かみいしわら第1学童クラブ

(単位：人)

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児	小学1年生	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	26	26	322
	小学2年生	19	19	19	19	19	19	18	17	17	16	16	16	214
	小学3年生	9	9	9	8	8	8	8	11	11	11	11	11	114
	小学4年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

小学5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小学6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	55	55	55	54	54	54	53	55	55	54	53	53	650	

※要配慮児：1年生に1人、3年生に1人、障がい児：0人

### かみいしわら第2学童クラブ

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児 小学1年生	23	23	23	23	23	22	22	22	22	21	21	21	266
小学2年生	15	15	15	14	14	14	13	13	13	13	13	13	165
小学3年生	19	18	18	18	18	18	17	17	17	17	16	16	209
小学4年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小学5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小学6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	57	56	56	55	55	54	52	52	52	51	50	50	640

※要配慮児：0人、障がい児：2年生に1人

### 多摩川小学校学童クラブ

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児 小学1年生	32	33	33	33	33	32	32	31	30	29	29	28	375
小学2年生	23	23	23	23	23	22	22	22	21	19	19	18	258
小学3年生	4	4	4	4	4	4	5	6	6	6	6	6	59
小学4年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小学5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小学6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	59	60	60	60	60	58	59	59	57	54	54	52	692

※障がい児：2年生に1人

### あおば学童クラブ

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児 小学1年生	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	348
小学2年生	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	312
小学3年生	6	6	6	6	6	5	4	4	4	4	4	4	59
小学4年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小学5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小学6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	61	61	61	61	61	60	59	59	59	59	59	59	719

※要配慮児：1年生に2人、2年生に1人

## イ 児童の健康報告

### (7) 感染症

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、基本的な感染予防対策（手洗い、マスク着用、換気、手指や玩具等の消毒など）を徹底したが、全施設では、罹患する児童が155人発生した。

また、インフルエンザ(A型)の罹患者は25人であった。

(単位：人)

	インフルエンザ	新型コロナウイルス	その他の感染症
なないろ第1学童クラブ	4	21	0
なないろ第2学童クラブ	3	10	0
わかば学童クラブ	3	24	2
かみいしわら第1学童クラブ	4	33	0
かみいしわら第2学童クラブ	2	22	0
多摩川小学校学童クラブ	3	20	0
あおば学童クラブ	6	25	0
合計	25	155	2

※その他の感染症は、アデノウイルス・菊池病

(イ) 受診ケース

なないろ第1学童クラブ

月 日	学年・性別	項 目	受 診 先
7月29日	2年生女兒	屋上でサッカーをしている際に、他児童の足が引かかってしまい左肩から転倒し地面にぶつけ、左鎖骨を骨折した。	整形外科
9月14日	4年生女兒	降室時、階段を下りながら一段飛ばして着地し、足首をひねり右足首を骨折した。	整形外科
10月27日	4年生男児	プレイルームでドッジビーをしている際に、先に転倒していた児童の足が本児の足に引っ掛かり転倒し、床に右後頭部をぶつけ、頭部を打撲した。	脳神経外科
3月28日	1年生男児	プレイルームでドッジビーをしている際に、5年男児の投げたディスクが左目に当たり、眼球が充血した。	眼科

なないろ第2学童クラブ

医療機関に受診するケースはなかった。

わかば学童クラブ

月 日	学年・性別	項 目	受 診 先
9月30日	1年生男児	鬼ごっこ中に児童同士でぶつかり転倒。乳歯から出血をした為、歯科受診をした。	歯科

かみいしわら第1学童クラブ

医療機関に受診するケースは、なかった。

かみいしわら第2学童クラブ

医療機関に受診するケースは、なかった。

### 多摩川小学校学童クラブ

月 日	学年・性別	項 目	受 診 先
3月20日	2年生男児	廊下を走った際に、針金を持っていた児童とぶつかった際に針金が目に当たり、傷がついた。	眼科

### あおば学童クラブ

月 日	学年・性別	項 目	受 診 先
6月29日	1年生男児	おやつ中、床に落ちていたごみを拾おうとして椅子に座ったままかがんだところ、バランスを崩して隣の児童が座っていた椅子に口元を強く打ち付けた。下唇を噛み、下唇と上の前歯2本の歯茎から出血した。	歯科
10月6日	1年生男児	畳に座って本を読んでいた児童の目の前を、本を手にした児童が通り過ぎた。その際、本の角が読書していた児童の目に当たり、眼球に傷がついた。	眼科

## ウ 年間行事報告

(7) 1年間に実施した共通の行事は、次のとおりである。

行事名	学童別開催月	内 容
親子交流会	全学童クラブ	例年、各施設にて様々な親子交流会を開催しているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため前年度に続き令和4年度も開催なし。
保護者会	全学童クラブ	近隣小学校や施設の感染状況を踏まえたうえで開催時期を調整し、感染対策を講じながら対面で開催した。
個人面談	わかば学童クラブ(9月) あおば学童クラブ(10月)	新型コロナウイルスの影響により期間を限定して希望者のみ学童クラブでの様子やご家庭での様子の情報交換をした。また、西部地域では、期間を設けず通年通して希望者のみ実施した。
クリスマス会	全学童クラブ	感染対策を講じながら、施設内を飾り付けるなどクリスマスならではの雰囲気味わいながら、クリスマスメニューのおやつやビンゴゲーム、玩具のプレゼント提供を行った。
児童館祭り	西部児童館(かみいしわら学童クラブ・なないろ学童クラブ) 東部児童館(わかば学童クラブ・あおば学童クラブ) 多摩川児童館(多摩川小学校学童クラブ)	【西部児童館】プレイルーム内のゲームコーナーを担当した。 【東部児童館】1階プレイルームを担当しゲームコーナーを担当した。 【多摩川児童館】ゲームコーナーを担当した。
学童クラブ交流事業	ドッジビー大会(12月) 全学童クラブ	学童クラブ交流ドッジビー大会に参加した。新型コロナウイルス感染症の対策を講じる為、2部制での開催となった。
児童館交流事業	サッカー大会(1月) 全学童クラブ	前年度に引き続き、新型コロナウイルス対策を講じての交流事業となった。3部制となり、短い時間ではあったが、児童たちが楽しんで参加している姿が多くみられた。また、児童や保護者との交流を図ることができた。
誕生会	全施設毎月実施	誕生月の児童を中心に、ゲームや工作等を企画しお祝いをした。また、特別おやつを提供した。

防犯・防火訓練	全施設年6回実施	各施設において防災訓練を実施した。緊急時の協力や安全に避難できるよう訓練を行った。施設によっては防災頭巾をかぶる練習等、基本的な訓練を実施した。防犯訓練では、調布警察署の方をお招きし、講義指導を受けた。
進級式 お楽しみ会	全施設3月実施	1年間の振り返りとして学童クラブでの様子をスライドショーで上映し、思い出話をしながら、一人ひとりの成長を喜びお祝いをした。出し物の発表やゲーム等を行い、年度最後の交流を楽しんだ。特別なおやつを提供し、子ども達の喜ぶ姿が見られた。また、なないろ学童クラブでは3年振りに保護者を招待(各家庭1名)して実施した。
工作の会	全学童クラブ	各施設、季節に合わせた工作や端材を使った内容を企画し、座席の位置や人数を考慮し感染対策に努めながら実施した。

(イ) 1年間に実施した各学童クラブで行った主な行事は、以下のとおりである。

学童名	行事名	内容
なないろ学童クラブ (第1・第2合同)	対面式(4月)	なないろルール問題を○×形式で行い、おやつ後に全員で、お名前ビンゴを行った。
	健康講座(7月)	「生まれた時の自分ってどうだったの?」というテーマで、健康推進課の職員の方から講義を受けた。お母さんのお腹にいる時のお話や、赤ちゃんのお人形を抱っこする体験など、命について学んだ。
	自慢絵コンテスト(5月)	塗り絵、はめ絵、新キャラ、リアルの4部門の絵のコンテストに希望者が参加し、表彰式を行った。
	夏のお楽しみ会(8月)	夏休み期間中、4グループに分かれ、忍者修行ゲームコーナーを制作し、当日は、忍者の先生役と生徒役に分かれて児童全員が参加した。
	保育園交流(3月)	なないろ保育園の5歳児クラスを招き、進級祝い発表する太鼓や合唱等を披露した。
わかば学童クラブ	マンカラ大会(5・6月)	1、2年生は学年ごと、3年生は男女ごとに優勝と準優勝を決め、賞状授与をした。勝って大喜びをする児童と、悔し泣きをする児童と様々だったが、また挑戦したいとの声が多かった。2回目は申し込み人数が多く、優勝を目標に一生懸命対戦する姿があった。
	わかば美術館(6月)	好きなものを描くテーマにし、様々な道具を使用して描けるようにした。個性溢れた作品が沢山でき上がり、展示中は多くの児童が興味深々に友達達の絵を見ていた。
	健康講座(8月)	自分の心音を聞いたり、赤ちゃんの人形を抱っこしたりと色々な体験をした。児童から多くの質問もあり、楽しみながら命の大切さを学んだ。
	わかあおフェスティバル(10月)	あおば学童クラブ、若葉小学校ユーフォーと企画をし、若葉小学校の体育館でゲームコーナーを作り、児童へ提供した。何度も挑戦をする児童の姿が見られた。
	ハロウィンパーティー(10月)	仮装や装飾、特別なおやつを用意して、雰囲気を楽しんだ。ハロウィンにちなんだゲームを行い、楽しんでいた。
	秋祭り(11月)	ゲームコーナーを数ヵ所作り、3年生が店番を交代で行った。おやつは地元の農家から提供された焼き芋が人気であった。

	LEGO プログラミング教室 (12月)	講師を招いて LEGO を使用したプログラミング教室を開催した。自分が作った LEGO がプログラミングによって動くことがとても嬉しそうだった。
	JAL 折り紙ヒコーキ教室 (12月)	オンラインでの開催だった。飛行機の仕組みを知り、講師のアドバイスを聞きながら紙飛行機を作成した。最後に飛ばして飛行距離を競って楽しんだ。
	めざせ実篤博士 (12月)	実篤記念館の学芸員さんをお招きし、武者小路実篤についてのクイズ大会や工作を通し、武者小路実篤について楽しみながら学んだ。
	段ボールおもしろ教室 (1月)	段ボールの歴史や仕組みを学び、ダンボールを組み立てる等、楽しい時間を過ごすことができた。
	わかあおと〜ぶ サッカー大会 (3月)	東部児童館、あおば学童クラブとサッカーの試合を行い、3施設との交流を図った。
	わかばっ子パーティー (3月)	1年間の思い出や進級を祝うとともに、皆で楽しめるように、ゲームコーナーとアルバム贈呈、スライドショーを行った。児童は盛り上がりながら過ごしていた。
かみいしわら学童クラブ (第1・第2合同)	ミニゲーム大会 (7月)	班対抗でクイズやなぞなぞ、カレーライスゲーム等を行った。
	健康教育 (8月)	保健師さんの話を聞きながら、実物大の赤ちゃんの人形を抱っこし、聴診器で自分の心音を聴く等の体験を行った。
	秋まつり (10月)	室内にゲームコーナーを用意。ハロウィンの仮装をしてお友達と自由に回って楽しんだ。
	けん玉検定 (11月)	習得した技で級を取得する検定を行った。
	ドッチビーユーフォー交流会 (12月)	第三小学校ユーフォーの児童たちとドッチビーを行い交流を深めた。
	遊びの教室 (1月)	四目並べの大会に向けて前半の日程では練習を行い、後半で大会を行った。
	オセロ大会 (2月)	第1・第2で分かれ、学童ごとに学年混合でトーナメントを組み対戦した。学童全体の総合決勝では大きなオセロ盤を使用し対戦した。
	じゃんけん大会 (3月)	初日は1回勝負、2日目は3回勝負で対戦した。
	ちっちゃーの大会 (3月)	トーナメント戦で親指ゲームを行った。
	お楽しみ会 (3月)	答え合わせ、お手玉投げ、ひっくり返しゲームを楽しんだ。
多摩川小学校学童クラブ	水遊び (8月:各週実施)	午前中にホースで水遊びをし、水鉄砲、水風船を使用し、校庭で遊び楽しんだ。
	ハロウィンパーティー (10月)	手作りのイライラ棒や、おやつをクレーンで釣り上げる遊びを実施した。
	たまがくドッチビー大会 (3月)	学童内でチームを作り、多摩川小学校ユーフォーのチームも交え競い合った。全員に賞状を配りお祝いした。
あおば学童クラブ	対面式 (4月)	新入会児童に向けて、継続入会児童が遊びの紹介をした。手作りプレゼントを渡した。
	あおばの日 (5月)	バルーンアートの剣を使い、スポーツチャンバラを行った。
	遊びの教室 (5月・6月)	けん玉とコマの遊び方や片付け方を伝えながら、みんなで遊ぶ時間を設けたり、ドッチビー初心者を中心に、ルールを伝えて投げ方の練習を行った。また、試合も行い、ドッチビーの楽しさを伝える機会とした。

	あおば作品展 (7月)	お絵かき、ぬりえ、はめ絵、ブロックの4部門の中から好きなものを選び参加した。作品を期間中に施設内で掲示し、みんなで鑑賞した。
	健康講座(8月)	「生まれた時の自分ってどうだったの?」というテーマで、健康推進課の職員の方から講義を受けた。赤ちゃんの人形を抱かせてもらうなどの体験を交えて命について学んだ。
	夏まつり(8月)	ミニゲームコーナー4カ所とお面工作コーナーを自由に回って楽しんだ。
	わかあおフェスティバル(10月)	わかば学童クラブ、若葉小ユウフォーと合同で若葉小学校体育館をお借りし、それぞれにゲームコーナーを設置して遊んだ。
	お楽しみ会(12月)	室内で宝探しゲームを行った。
	めざせ!さねあつかせ(12月)	実篤記念館の学芸員さんをお招きし、武者小路実篤についてのクイズ大会や工作を通して、武者小路実篤について楽しみながら学んだ。
	サッカー交流(12月)	東部児童館、わかば学童クラブとサッカーの練習をしながら交流を図った。
	わかあおと〜ぶサッカー大会(3月)	東部児童館、わかば学童クラブとサッカーの試合をしながら交流を図った。

## エ 職員研修の状況

研修の参加状況は、次のとおりである。

### (ア) 職種別専門研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
学童クラブ職員 (正規)	連絡帳・間食費の取り扱い	5月27日	法人内部	21人
学童クラブ職員	明日も行きたくなる職場を目指して～コミュニケーションUP研修	6月6日	児童青少年課	9人
勤続1年目学童クラブ職員	児童館・学童クラブ等で働く職員の基礎知識	7月5日	児童青少年課	6人
学童クラブ職員	子育て支援者としての実践	7月14日	子ども発達支援センター	6人
学童クラブ職員	多様な子どもたちの発達理解と対応	9月22日	児童青少年課	6人
学童クラブ職員	発達障害のある子どもへの気づきと対応	10月25日(正規) 1月24日(非正規)	武蔵野東教育センター	23人 32人
学童クラブ職員	東京都放課後子供総合プラン研修 「放課後の活動における学校との連携・理解協力の推進について」	11月14日	東京都福祉保健局	4人
学童クラブ職員	発達障害者相談支援研修 「相談支援知識向上研修」	12月10日	東京都福祉保健局 社会福祉法人正夢の会	1人
学童クラブ職員	子どもの心に届く伝え方	1月19日	児童青少年課	8人
学童クラブ施設長(主任・副主任)	児童館論	1月25日	児童青少年課	4人

学童クラブ職員	子ども発達センター 研修会	1月25日	子ども発達セン ター	1人
学童クラブ職員	令和4年度東京都放 課後児童支援員資質 向上研修	1月30日	児童青少年課	1人
学童クラブ職員	事例を通して様々な 特性を持った児童へ のアセスメントと対 応を学ぶ	2月7日	児童青少年課	6人
学童クラブ職員	放課後児童支援員認 定資格取得研修	6月13日から4日間 9月26日から4日間 1月31日から4日間 3月8日から3日間	東京都福祉保健 局	2人 3人 1人 1人
参加延べ人数合計				135人

#### (イ) 職場研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
学童クラブ全職 員	エビペン投与シミュ レーション研修	6月2日	児童青少年課	5人
		10月13日		2人
学童クラブ全職 員	食物アレルギー自校 研修(エビペン投与シ ュレーション等)	6月30日	あおば学童クラ ブ	5人
学童クラブ全職 員	不審者対応訓練	7月15日	調布警察署	7人
		9月13日	調布警察署	4人
		2月21日	かみいしわら学 童クラブ	14人
		2月24日	多摩川小学童ク ラブ	3人
学童クラブ全職 員	普通救命講習	9月29日	東京防災救急協 会	1人
		10月17日		6人
		10月21日		3人
参加延べ人数合計				50人

## 2 放課後子供教室事業「ユーフォー」

### (1) 重点事項への取組

#### ア 市の実施要綱及び運営委託ガイドラインの変更に伴う対応

市の実施要綱等の改正に伴い、令和4年度から多摩川小学校、若葉小学校、緑ヶ丘小学校ユーフォーの3施設で土曜日を除く平日の開設時間を午後6時まで延長して運営を行った。年度当初はそれほど多くなかったが、徐々に延長利用する児童が増え始めた。

職員体制については、令和3年度まで配置していたリーダー職を廃止し、令和4年度からメインサポーターの配置に切り替えたため、課題であったリーダー不足が解消され、職員配置が柔軟にできるようになった。

また、令和5年度から調布市放課後子供教室事業の名称が、市の方針により従前の「ユーフォー」から「あそびバ」に変更されることとなり、市と連携

しながら新名称の公募や広報物等の調整、組織規程等関係例規の改正準備を行った。

#### イ 安全・安心なユーフォー運営

学童クラブと同様に、受診を伴わない事例も含め、毎月の施設長会議及び各施設のミーティングで情報を共有し、ケガや事故の再発防止、環境整備に努めた。

新型コロナウイルスの感染者数が増減する中、若葉小学校ユーフォーでは、職員の感染等が重なり急遽、市と協議のうえ、8月の土曜日1日だけ臨時休業としたが、各施設では感染症対策を徹底しながら、通常運営を継続した。

また、第三小学校学童クラブの新設及び多摩川小学校の校舎増築に伴い、両小学校におけるユーフォーのプレイルームが同敷地内で移転することとなり、市と連携しながら、新たな環境での事業運営に向けた準備を行った。

その他、地震や火災等の避難訓練や不審者対応訓練を各施設で実施し、非常時の備えを行った。

#### ウ 施設間の連携

各ユーフォーの固定メインサポーター（旧リーダー職）を集めた全体会を6月に開催し、困りごとの共有やルールの確認、各施設の状況など情報交換を行った。

また、初の試みとしてオンラインイベントを企画し、異なる小学校の子どもたちがオンライン上の画面共有を通じてつながり、ゲームやクイズで交流を行った。参加者は少人数であるものの、参加した児童には大変好評だったことから、今の時代だからできることとして定期的に実施した。

その他、近隣の学童クラブや児童館と連携したドッジビー大会、凧揚げ工作等の交流イベントを実施するなど、事業内容の充実を図った。

#### エ 職員の資質向上

市が主催する研修へ積極的に参加するとともに、各ユーフォーにおいて、食物アレルギー対応研修を実施し、毎月のミーティングで研修の振り返りを行った。

また、法人独自の取り組みとして、全ユーフォー職員を対象に自らの行動や言動を振り返るセルフチェックを行い、その結果を各施設へフィードバックして子どもの人権に関する理解を深めるとともに、外部から講師を招き、アンガーマネジメント研修を実施するなど、ユーフォー職員として必要な知識を学び、資質向上に努めた。

その他、固定メインサポーターを対象とした施設間交換実習を実施し、普段とは違う場所で勤務することにより、新たな気づきや学びに繋がった。

オ 中期経営計画の取組推進

学童クラブと同様に、業務の標準化・効率化に向けた統一的なマニュアル作りに取り組むとともに、毎月各施設で開催する職員ミーティングへのオンライン参加など業務の効率化を図った。

また、ユーフォーの新たなプログラムとして、地域のスポーツクラブとタイアップしたかけっこ教室や地域の健全育成団体の協力によるキッズソフトイベントを定期的で開催するなど、地域とのつながりを意識した取り組みを継続して実施した。若葉小学校ユーフォーでは、地域の保護者の方の協力のもと学校での校庭遊びの日数・時間を増やすことができ、ユーフォーを利用する児童が増加した。

その他、市の方針により、令和4年度をもって本法人による緑ヶ丘小学校ユーフォーの受託運営が終了することから、市と連携しながら、移管先法人への業務引き継ぎや職員対応を行った。

(2) 実績報告

ア 児童の受入状況

月別の各ユーフォーの児童受け入れ状況は次のとおりである。

(単位：人)

	緑ヶ丘	若葉	石原	第三	多摩川	飛田給	富士見台	合計
4月	600	758	757	816	729	569	824	5,053
5月	642	592	732	854	724	655	962	5,161
6月	835	640	974	1,033	845	868	1,047	6,242
7月	675	647	781	834	659	565	952	5,113
8月	293	459	397	493	482	341	436	2,901
9月	542	539	705	709	669	486	833	4,483
10月	564	568	663	658	605	593	848	4,499
11月	526	509	558	615	640	516	850	4,214
12月	537	646	535	549	589	418	836	4,110
1月	495	421	489	554	509	391	706	3,565
2月	558	479	541	573	598	460	754	3,963
3月	622	565	586	642	651	343	845	4,254
合計	6,889	6,823	7,718	8,330	7,700	6,205	9,893	53,558

イ 児童の健康報告

受診ケース

前年度3件であった受診件数は、令和4年度は6件に微増した。

ユーフォー名	月日	学年・性別	項目	受診先
多摩川小	6月20日	2年生男児	校庭でドッチビーをしている際に、足をひねった。後日、骨折していたことが判明。	整形外科

石原小	7月13日	2年生女児	ユーフォーを退室し、上履きを返しに校内の下駄箱へ向かった際に、タイルで滑り転倒し段差に顎をぶつけた。傷口を5針縫合。	外科
多摩川小	8月25日	6年生女児	体育館で、ドッジビーをして遊んでいたところ、ジャンプしてビーをキャッチし、着地をした際に、座り込むような姿勢になった。すぐに右足の甲に痛みを訴えた。診断名は打撲。	整形外科
飛田給小	2月1日	2年生女児	滑り台で鬼ごっこをしていた際に、上から滑ってきた児童の足が腰にあたった。診断名は打撲。	整形外科
若葉小	2月16日	2年生女児	校庭のうんていをつかもうとしたが、つかみきれずに右腕から地面に落下した。後日、骨折していたことが判明。	整形外科
多摩川小	3月30日	1年生男児	校庭でドッジビーをしていた際に、6年生女子とぶつかり、転倒した際に左ひじを地面ぶつけた。診断名は脱臼。	整形外科

## ウ 年間行事報告

一年間に実施した行事は下記の表のとおりである。

項目	内容
工作の会・伝統遊び	<p>工作の会は、各ユーフォーで企画をし、各学期に1回以上実施した。マイノート・アイロンビーズの飾り作り・折り紙・切り絵等の工作や、紙コップのけん玉・風鈴作り・ぶんぶんゴマ・パッチンかえる等、子どもたちが作って遊べる工作に取り組んだ。</p> <p>また、毛糸のポンポン・ミサンガ・ストラップ作り等の手芸工作や季節に合わせた工作（七夕飾り・ハロウィン・クリスマスカード・手作りクリスマスツリー・節分の鬼のお面）を企画し、子どもたちが自由な発想で作品作りに取り組み、できあがった作品を持ち帰った。1日開設する三季休業期間は、数種類の工作を準備し、参加児童が楽しく遊べるよう工夫した。</p> <p>伝統的な遊びとして、けん玉を3ユーフォー、コマ回しを1ユーフォーが取り入れ、遊びを通してけん玉は検定を年間通して複数回実施し、多くの児童が上の級を目指してチャレンジした。</p>
学童クラブとの交流会	<p>学童クラブと同一敷地内で開設しているユーフォー（学童・ユーフォー一体型）及び学童クラブとユーフォーが隣接している地域は、プレイルームでの工作や小学校校庭・体育館でのドッジビー等の遊びを通して交流を図った。富士見台小ユーフォーは連携先である富士見台小学校学童クラブとドッジビー、オセロ大会を実施した。</p>
児童館との交流会（出張児童館等）	<p>石原小ユーフォーと富士見児童館はオセロ大会、凧揚げ教室、身体を動かすゲーム大会を実施した。多摩川児童館の出張児童館「ジャンジャン」を富士見台小ユーフォーで実施した。</p>
東京都専門人材活用プログラム	<p>石原小ユーフォーは科学実験教室「ゴム動力カー」、飛田給小ユーフォー・緑ヶ丘小ユーフォーは「かけっこ教室」、第三小ユーフォー・多摩川小ユーフォー・富士見台小ユーフォーは「縄跳び教室」を実施した。</p>
メガロス調布による「かけっこ教室」	<p>メガロス調布のインストラクターによる「かけっこ教室」を、第三小ユーフォー、石原小ユーフォー、富士見台小ユーフォー、多摩川小ユーフォー、若葉小ユーフォーで、各施設1～2回実施した。</p>
JALによる「折り紙ヒコーキ教室」イベント	<p>全日本航空職員による「紙ヒコーキ教室」を緑ヶ丘小学校ユーフォーにて実施し、紙ヒコーキの折り方を学び、飛距離を競い合うイベントを実施した。</p>
レンゴー株式会社による「段ボール工作」イベント	<p>レンゴー株式会社社員による「段ボール工作教室」を若葉小学校ユーフォーにて実施し、段ボールについての知識を学び、段ボールを使用しているの工作を実施した。</p>
オンラインによるイベント	<p>オンラインによるクイズやゲームを行い、施設間の交流を図った。</p>

ユーフォーボランティアの活用	若葉小ユーフォーの校庭遊びにユーフォーボランティアが見守りの補助として参加し、富士見台小ユーフォーの「ソフトボール体験会」にユーフォーボランティアが運営の補助として参加した。 また、第三小学校ユーフォーの「バトミントン教室」ではユーフォーボランティアが指導者として参加し、多摩川小学校ユーフォーの「読み聞かせ」にユーフォーボランティアが読み手として参加し、ユーフォー職員と共に行事等を実施した。
地域団体との連携	富士見台小健全育成団体「富士見台小学校キッズソフト」の指導者による、ソフトボール体験会を月に1～2回実施した。
避難訓練	年間2回以上、地震・火災を想定して訓練を行った。特に1学期最初の避難訓練では、1年生には防災頭巾のかぶり方の訓練を行った。避難訓練では児童も参加し、職員と一緒に校庭等に避難し身の安全を確保し、安全かつ迅速な避難方法と経路の確認を行った。 また、学童クラブと一体型のユーフォーでは、学童クラブと合同で避難訓練を行った。訓練終了後、参加児童に避難時の大切な約束事をしっかりと伝えた。
不審者対応訓練	2年に1度、調布警察署防犯課の職員を講師に迎え、不審者対応の基礎知識を学ぶとともに、不審者侵入を想定したシミュレーションを、令和4年度は3ユーフォーが実施した。4ユーフォーは、職員のみで不審者対応マニュアル確認を実施した。
食物アレルギー自校研修	アナフィラキシー発症時と新規発症を想定し、エビイベントレーナーを使用したシミュレーショントレーニングや慈恵第三病院へのホットラインの訓練等を行った。

## エ 職員研修の状況

研修の参加状況は、次のとおりである。

### (7) 職種別専門研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
ユーフォー職員	明日も行きたくなる職場を目指して～コミュニケーションU P研修	6月6日	児童青少年課	2人
勤続1年目ユーフォー職員	児童館・学童クラブ等で働く職員の基礎知識	7月5日	児童青少年課	4人
ユーフォー職員	多様な子どもたちの発達理解と対応	9月22日	児童青少年課	4人
ユーフォー職員(固定メインサポーター)	施設間交換実習	11月2日～28日 計10日間	法人内部	10人
ユーフォー職員	発達が気になるお子さんのためにできること	1月25日	調布市こども発達センター	1人
ユーフォー職員	子どもの心に届く伝え方	1月29日	児童青少年課	5人
ユーフォー全職員	アンガーマネジメント研修	3月9日	(株)ウインズ	50人
参加延べ人数合計				76人

### (i) 職場研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
ユーフォー全職員	エビベン投与シミュレーション研修	6月2日 10月13日	児童青少年課	4人 3人

ユーフォー全職員	食物アレルギー自校研修（エピペン投与シュミレーション等）	6月14日	石原小学校ユーフォー	9人
		6月21日	第三小学校ユーフォー	8人
		6月23日	富士見台小学校ユーフォー	8人
		6月24日	多摩川小学校ユーフォー	7人
		6月30日	若葉小学校ユーフォー	9人
		7月8日	飛田給小学校ユーフォー	9人
		7月14日	緑ヶ丘小学校ユーフォー	8人
ユーフォー全職員	不審者対応訓練	10月6日	調布警察署	8人
		11月11日	飛田給小学校ユーフォー	9人
		11月28日	調布警察署	6人
		12月15日	第三小学校ユーフォー	8人
		12月17日	調布警察署	7人
		2月24日	多摩川小学校ユーフォー	9人
ユーフォー全職員	普通救命講習	9月29日	東京防災救急協会	10人
		10月17日		4人
		10月21日		6人
参加延べ人数合計				132人

---

---

令和4年度社会福祉法人東京かたばみ会事業報告

---

---

発行日 令和5年6月1日

発行 社会福祉法人東京かたばみ会

住所 〒182-0015

東京都調布市八雲台1-5-5

TEL 042-484-8551

FAX 042-484-8411

E-mail yagumoen@oregano.ocn.ne.jp

URL <http://www.katabamikai.jp/>

---

---